

第4期中区地域福祉保健計画



中なかいいネ!

令和3年度～7年度



nakanakaine!



中なかいいネ!推進会議

横浜市中区役所

社会福祉法人横浜市中区社会福祉協議会

横浜市中区内地域ケアプラザ(新山下・不老町・麦田・本牧原・箕沢・本牧和田)

第4期中区地域福祉保健計画「中なかいいネ!」計画ロゴマーク

令和2年11月16日から12月18日までの期間で、第4期計画のロゴマークを決定する投票及び素案の区民意見募集を実施しました。このロゴマークを第4期計画のシンボルとして、計画の普及啓発のために活用します。また、地域で行われている見守り力を高める「えん結び」や健康づくりの「元気いっぱい」の取組でも使用する予定です。



ロゴマークの作成者 R.Sさんのコメント

中区の花(チューリップ)をみんなで受け入れ、見守っていく様子を表現しました。みんなが笑顔で暮らせたらいいなと思います。

目次



概要版

第1章 中区地域福祉保健計画 「中なかいいネ!」とは

- 1 「中なかいいネ!」って何? 1
- 2 もっとみんなの
「中なかいいネ!」にするためには? 2

第2章 中区の福祉保健に関する現状

- 1 中区の特性..... 5
- 2 第3期計画の振り返り..... 12

第3章 区域計画

- 1 第4期計画の方向性..... 14
- 2 計画推進の柱1
見守り力を高める「えん結び」について..... 15
- 3 計画推進の柱2
健康づくりの「元気いっぱい」について..... 17
- 4 「えん結び」と「元気いっぱい」を
推進する組織や団体 19
- 5 地域の取組を推進する3つの土台
(人財・交流・情報)..... 23

コラム1 令和元年度中区区民意識調査 ... 29

コラム2 グループインタビュー..... 30

第4章 地区別計画

地区別計画	32
① 第1北部地区	34
② 第1地区中部.....	38
③ 関内地区.....	42
④ 埋地地区.....	46
⑤ 寿地区.....	50
⑥ 石川打越地区	54
⑦ 第2地区	58
⑧ 第3地区	62
⑨ 第4地区南部	66
⑩ 第4地区北部	70
⑪ 本牧・根岸地区	74
⑫ 第6地区	78
⑬ 新本牧地区.....	82

参考 地域支援チーム..... 86

第5章 取組状況の確認 (計画の振り返り)..... 87

資料編	
資料1 他計画との関連	89
資料2 第4期計画の検討経過 ...	91
資料3 中なかいいネ!推進会議 委員名簿	92



概要版



1 中なかいいネ! って何?

「中なかいいネ!」は中区地域福祉保健計画の愛称です。

中区地域福祉保健計画とは、地域の人々がお互いに支え合いながら、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるようなまちづくりを目指して、中区に住む人・働く人すべての人が協力をしながら進めていく計画です。

「中なかいいネ!」の構成

「中なかいいネ!」は13地区の地区別計画と区域計画から成り立っています。

地区別計画

地域が目指すまちの姿や地域の様々な課題に対する取組を地域が主体となってまとめたもの。

取り組む人 地域に住む人・働く人

区域計画

区域の共通課題や地域では解決することが困難な課題に対する取組をまとめたもの。地区別計画が進むよう後押しします。

取り組む人 区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、福祉・保健関係者や企業・事業者等、地域に住む人



計画期間について

第4期計画の計画期間は令和3年度～令和7年度の5年間です。

第1期

平成18年度～
平成22年度

第2期

平成23年度～
平成27年度

第3期

平成28年度～
令和2年度

第4期

令和3年度～
令和7年度

自助・共助・公助で取り組む「中なかいいネ!」

地域福祉保健計画は、お互いに助け合う「共助」が中心となりますが、生活や地域の困りごとを解決するためには、

自助 **共助** **公助** を組み合わせて、総合的に取り組みます。

自助

個人や家族でできる
ことを取り組む

共助

地域や仲間同士で
お互いに助け合う

公助

公的機関が行う



第4期計画の方向性

多くの区民が歴史や文化のあるまちとして、中區に愛着を持っています。将来に渡って中區のすばらしさを継承するには、そこに暮らす子ども・障害者・高齢者・外国人を含め、すべての人が安心して生き生きと暮らす地域共生社会にしていく必要があります。

第3期計画を進める中で、活動している区民の方からいただいたご意見です。

- 計画を知らない人が多い。
- 一部の住民によって活動が支えられている。
- 多くの活動があるが、関係者以外に知られていない。

このことから、第4期計画では「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を目指します。

もっとみんなの「中なかいいネ!」 ～相互理解を進めよう～

「中なかいいネ!」は区民による区民のための計画です。「もっとみんな」とは、子ども、働き世代、高齢者までの全世代、障害者、外国人等の当事者も含め、すべての人です。そして、住民だけでなく、企業や事業所などの働く人も含め、お互いに理解し合うことを目指します。

もっとみんなの「中なかいいネ!」にするためには？

誰もが安心して住みやすいまちにするためには、中區に住む人・働く人すべての人の協力が必要です。それぞれの状況に合わせて、できることから始めてみましょう。

中區地域福祉保健計画「中なかいいネ!」推進会議委員

- 地区の代表者(13地区)
- 中區連合町内会長連絡協議会
- 地区社会福祉協議会
- 中區医師会
- 中區歯科医師会
- 中區薬剤師会
- 中區障害者団体連絡会
- 中區ボランティア連絡会
- (公財)横浜市国際交流協会
- 学識経験者

できることから始めてみましょう

住む人・働く人

- ① 挨拶をしよう・顔見知りになろう
- ② 住んでいるまちを知ろう
地域の状況や地域の活動を見てみましょう。
- ③ 応援しよう
地域で行われている活動や活動している人を応援しましょう。
- ④ 学び合おう・話し合おう
地域のルールや課題を知りましょう。
あなたの気づきやアイデアを伝えましょう。
- ⑤ 参加しよう
興味のある行事に行ってみよう。
できることを手伝いましょう。
- ⑥ 仲間をつくらう

- 中區中学校長会
- 中區民生委員児童委員協議会
- 中區主任児童委員連絡会
- 中區保健活動推進員会
- 中區食生活等改善推進員会
- 中區青少年指導員協議会
- 中區スポーツ推進委員連絡協議会
- 中區老人クラブ連合会
- 横浜商工会議所

事務局

中區役所 中區社会福祉協議会 地域ケアプラザ

中區民に関わりのある地域福祉保健計画を一緒に進める機関・団体等

- 消費生活推進員
- 保育園
- 病院
- 図書館
- 中區地域ケアプラザ
- 公園愛護会
- 幼稚園
- 消防
- 商店街
- 竹之丸保育園(育児支援センター園)
- 環境事業推進員
- 介護事業所
- 警察
- 企業・事業所
- かながわ外国人すまいサポートセンター
- 家庭防災員
- 高齢者施設
- 障害者施設
- 郵便局
- 中區地域子育て支援拠点「のんびりんこ」
- 消防団
- 学童保育所
- 地区センター
- スポーツセンター
- 横浜市寿福祉プラザ相談室
- 保護司会
- 放課後キッズクラブ
- コミュニティハウス
- 中區障害者支援拠点
- NPO法人や地域活動団体
- 小学校・中学校・高等学校・大学等
- 中區在宅医療相談室
- よこはま東部ユースプラザ
- なか国際交流ラウンジ
- 男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)

区域計画

目標

もっとみんなの「中なかいいネ！」

活動の2本の柱

推進の柱

1 見守り力を高める「えん結び」

お互いに関心を持ち、みんなで暮らしの困りごとの解決に取り組みましょう

＼ **もっとみんな** するために ＼

- 住む人、働く人も一緒に世代を越えて取り組みましょう。
- お近くの知り合いを増やしましょう。
- 「お互いさま」の身近な助け合いを増やしましょう。



地域活動を伝えるイベントカレンダー

推進の柱

2 健康づくりの「元気いっぱい」

みんなでこころとからだの健康づくりに取り組みましょう

＼ **もっとみんな** するために ＼

- 年齢、健康状態、障害の有無にかかわらず可能な範囲で行いましょう。
- 周囲の人の健康を気遣って、声を掛け合いましょう。
- 空いている時間で簡単にできる工夫をしましょう。



子どもも大人も参加するラジオ体操

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を進めていくために、様々な人の気づきを分かち合うことが重要です。

より良い地域づくりのために、みんなの想いを共有し、意見を出し合ひましょう。(対話)

また、変化する社会の今を知り、私たちの活動のヒントを得る学び合う場をつくっていきましょう。(学び)

地域活動を推進する3つの土台

(人財・交流・情報の強化)

仲間を増やす **人財**

困りごとの解決に向けて協働する人財を育成・発掘します

- 地域活動に参加したことがない働き世代等に向けて、地域参画のきっかけづくりを行います。
- 地域で活動している人のスキルアップとして、異なる分野の活動者との交流の機会をつくれます。



異なる分野の地域活動者同士のグループワーク

交流 **交流** することで気づく

周りの人に関心を持ち、他の団体の活動趣旨や困りごとに気づきます

- 住んでいる地域のことを理解し、困りごとの解決に向けて住民同士で話し合うことができる機会をつくれます。
- 障害者や外国人等も一緒に地域参画ができるよう相互理解を進めるとともに、きっかけづくりを行います。
- 企業や事業所が地域住民と連携して地域活動に取り組めるよう、知り合う機会づくりや協力を求めています。

動機づけとなる **情報**

暮らし続けるためにそのまちのことを知ります

- 住民が住んでいる地域の情報を得ることにより、地域や地域活動に関心が持てるよう、これまで活用してきた掲示板や回覧板のほか、HP・SNS・マリンFM等の新しい情報媒体を活用していきます。



地域ケアプラザに掲示している地域の紹介パネル

地域の「えん結び」と「元気いっぱい」の活動をより進めるために、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となり、地域の組織・団体や企業、事業所等と協働し、3つの土台を強化していきます。

地区別計画

中区の13地区が目指す5年後のまちの姿

それぞれの特徴を生かした取組が行われています

区内の12連合町内会エリアに寿地区を加えた13地区で地区別計画を策定しています。

① 第1北部地区

多世代・多国籍の人が、ともに地区活動、見守り、情報発信に取り組むまち

② 第1地区中部

高齢者、障害者、子どもが多文化共生する、安全で健康なまち「いちなか」

③ 関内地区

「こんにちは」
「コンニチハ」
笑顔が繋がるまち・関内



④ 埋地地区

みんなが集う“夢”や“希望”が持てるまち

⑤ 寿地区

寿に住んでいる、寿で育ったと、堂々と言えるまち～寿はたがいに受け止め合い支え合う～

⑥ 石川打越地区

住んでいる皆さんの支え合いや、助け合いが活き、幸せなあと感じられるまち

⑦ 第2地区

多様な年代、国の人々がいきいきと暮らす豊かで賑わいあるきれいなまち

⑧ 第3地区

いろいろな世代が触れ合い、地域丸ごとのつながり強化で、困りごとを解決できる第3地区

⑨ 第4地区南部

声が掛けあえるまち
第4地区南部

⑩ 第4地区北部

子どもたちの「ふるさと」になるまち～安心して住みやすい誇れるまち～

⑪ 本牧・根岸地区

誰もが地域の一員として、安心して過ごせるまち本牧・根岸

⑫ 第6地区

みんなでふれあう町づくり

⑬ 新本牧地区

新本牧は「あいさつ」でまちづくり～広げよう！つなげよう！「人の和」～

お問合せ先

横浜市中区役所 福祉保健課 事業企画担当
〒231-0021 横浜市中区日本大通35番地
TEL 045-224-8330 FAX 045-224-8157
Eメール na-iineplan@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市中区社会福祉協議会
〒231-0023 横浜市中区山下町2番地
産業貿易センタービル4階
TEL 045-681-6664 FAX 045-641-6078
Eメール info@nakasha.net

暮らしやすいまちにするために13地区の計画があります



この計画は、中区役所ウェブページ (https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kurashi/fukushi_kaigo/chiikifukushi/fukushi-plan/) または右記二次元コードからご覧いただけます。



横浜市地域福祉保健計画のキャラクター
ちふくちゃん

第1章 中区地域福祉保健計画「中なかいいネ!」とは



「中なかいいネ!」って何?

「中なかいいネ!」は中区地域福祉保健計画の愛称です。

中区地域福祉保健計画とは、地域の人々がお互いに支え合いながら、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるようなまちづくりを目指して、中区に住む人・働く人すべての人が協力をしながら進めていく計画です。

「中なかいいネ!」の構成

「中なかいいネ!」は13地区の地区別計画と区域計画から成り立っています。

地区別計画

地域が目指すまちの姿や地域の様々な課題に対する取組を地域が主体となってまとめたもの。

取り組む人 地域に住む人・働く人

区域計画

区域の共通課題や地域では解決することが困難な課題に対する取組をまとめたもの。地区別計画が進むよう後押しします。

取り組む人 区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、福祉・保健関係者や企業・事業者等、地域に住む人



計画期間について

第4期計画の計画期間は令和3年度～令和7年度の5年間です。

第1期

平成18年度～
平成22年度

目指すまちにするために、どんな取組が必要であるかを各地区や区全体で模索し、活動を広げていきました。「中なかいいネ!発表会」も開始しました。

第2期

平成23年度～
平成27年度

2つの重要テーマ(①地域のつながりと住民同士の支え合いの充実強化、②活動の継続・活性化と次代を見据えた人材育成)を定めました。

第3期

平成28年度～
令和2年度

2本の柱(見守りと健康づくり)と3つの土台づくり(人財・交流・情報)を定め、計画を推進しました。

第4期

令和3年度～
令和7年度

自助・共助・公助で取り組む「中なかいいネ！」

地域福祉保健計画は、お互いに助け合う「共助」が中心となりますが、生活や地域の困りごとを解決するためには、**自助** **共助** **公助** を組み合わせて、総合的に取り組みます。



2 もっとみんなの「中なかいいネ！」にするためには？

～中区全体で取り組みましょう～

誰もが安心して住みやすいまちにするためには、**中区に住む人・働く人、すべての人**の協力が必要です。それぞれの状況に合わせて、できることから始めてみましょう。

また、一人で取り組むよりも、**話し合い(対話)、共に学び合う(学び)**と、楽しく続けることができます。周りに目を向けてみると、異なった活動をしている人(団体)が、自分の目指すところに近い場合もあります。

コロナ禍で新しい生活様式が求められる中、今まで行ってきたようにはできないことも多くありますが、このようなときだからこそ、力を合わせて工夫していきましょう。

中区地域福祉保健計画会議「中なかいいネ！」推進会議委員

- 地区の代表者(13地区)
- 中区連合町内会長連絡協議会
- 地区社会福祉協議会
- 中区医師会
- 中区歯科医師会
- 中区薬剤師会
- 中区障害者団体連絡会
- 中区ボランティア連絡会
- (公財)横浜市国際交流協会
- 学識経験者

できることから始めてみましょう

住む人・働く人

- 1 挨拶をしよう・顔見知りになろう
- 2 住んでいるまちを知ろう
地域の状況や地域の活動を見てみましょう。
- 3 応援しよう
地域で行われている活動や活動している人を応援しましょう。
- 4 学び合おう・話し合おう
地域のルールや課題を知りましょう。
あなたの気づきやアイデアを伝えましょう。
- 5 参加しよう
興味のある行事に行ってみよう。
できることを手伝いましょう。
- 6 仲間をつくらう

- 中区中学校長会
- 中区民生委員児童委員協議会
- 中区主任児童委員連絡会
- 中区保健活動推進員
- 中区食生活等改善推進員会
- 中区青少年指導員協議会
- 中区スポーツ推進委員連絡協議会
- 中区老人クラブ連合会
- 横浜商工会議所

事務局

中区役所 中区社会福祉協議会 地域ケアプラザ

中区民に関わりのある地域福祉保健計画を一緒に進める機関・団体等

- 消費生活推進員
- 公園愛護会
- 環境事業推進員
- 家庭防災員
- 消防団
- 保護司会
- NPO法人や地域活動団体
- 保育園
- 幼稚園
- 介護事業所
- 高齢者施設
- 学童保育所
- 放課後キッズクラブ
- 小学校・中学校・高等学校・大学等
- 病院
- 消防
- 警察
- 障害者施設
- 地区センター
- コミュニティハウス
- 図書館
- 商店街
- 企業・事業所
- 郵便局
- スポーツセンター
- 中区地域ケアプラザ
- 竹之丸保育園(育児支援センター園)
- かながわ外国人すまいサポートセンター
- 中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」
- 横浜市寿福祉プラザ相談室
- 中区障害者支援拠点
- 中区在宅医療相談室
- よこはま東部ユースプラザ
- なか国際交流ラウンジ
- 男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)

中区民に関わりのある主な福祉・保健に関する施設

※五十音順に掲載

最新の情報はホームページなどでご確認ください

NPO法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

☎ 045-228-1752

日本に住む外国人の住まいと生活について相談を受けます。外国人と日本人が共に生きることができる社会をつくります。一人ひとりに向き合いながら話をききます。いろんな言葉のマニュアル(入居・退去マニュアル、生活のルールなど)を用意しています。

竹之丸保育園(育児支援センター園)

☎ 045-641-1639(代表)

※育児支援専用ダイヤル: ☎ 045-641-1646

子どもの生活(食事・排泄・睡眠等)、遊び、発育のことなど日々の子育ての不安などに保育士がアドバイスします。

男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)

☎ 045-714-5911(代表)

働きづらさに悩む若年女性向けのしごと準備講座、女性の仕事の相談、男女の子育てや心とからだの健康づくりを応援する講座、同じ悩みを分かち合う自助グループへの場所の提供を行っています。

地域ケアプラザ(地域包括支援センター)

誰もが安心して暮らせるように、福祉・保健・ボランティア活動等に関する相談や講座・催しの開催、施設の貸出を行っています。また、地域ケアプラザ内の地域包括支援センターでは、福祉・保健の専門職が相談支援を行っており、中区に6か所ある身近な相談窓口です。

各施設の電話番号

- 新山下地域ケアプラザ ☎ 045-625-1911
- 不老町地域ケアプラザ ☎ 045-662-0161
- 麦田地域ケアプラザ ☎ 045-664-6023
- 本牧原地域ケアプラザ ☎ 045-623-0971
- 箕沢地域ケアプラザ ☎ 045-663-6960
- 本牧和田地域ケアプラザ ☎ 045-622-1211

中区在宅医療相談室 一般社団法人横浜市中区医療センター ☎ 045-307-2505(受付時間:平日9時~17時)

病気があっても住み慣れた家で療養したいという高齢者の在宅医療や介護に関する様々な相談を電話で受け付けています。



中区障害者支援拠点「みはらしポンテ」

知的障害や身体障害、精神障害のある方々の暮らしや活動を支援する「地域活動ホーム」と「生活支援センター」が一緒になった、障害者支援拠点です。障害をお持ちの方の様々な相談を受け付けています。

- 中区障害者地域活動ホーム(障害児・者の方への情報提供・相談支援について)

☎045-628-1343

- 中区生活支援センター(精神障害のある方への相談支援について)

☎045-624-0275

中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」

☎045-663-9715

妊娠中から就学前の親子が利用登録のうえ、無料で利用いただける施設です。

子育て相談や子育て情報の提供、人材育成、横浜子育てサポートシステムの事務局など、子育てに関する支援を行っています。

中区福祉保健活動拠点「なかふく」／(福)横浜市中区社会福祉協議会 ☎045-681-6664

地域の福祉活動などを応援するための多様なネットワークづくりや活動への助成、ボランティアの育成等を行っています。また、個別の相談や事業(ボランティアセンター、あんしんセンター、移動情報センター、生活福祉資金貸付)等を通じて、生きづらさや生活の困りごとを抱える人たちへの支援や福祉に関する理解・啓発を進めています。

なか国際交流ラウンジ

☎045-210-0667

外国人市民に対し、日常生活に関わる様々な情報を多言語で提供します。

横浜市寿福祉プラザ相談室

☎045-641-0383

寿地区内にある横浜市の行政機関であり、簡易宿泊所宿泊者等からの生活相談を受け付けています。

また、地域行事の企画運営支援や地域防災の充実、地域福祉保健計画の推進等、地域の課題解決の支援、寿地区への偏見・差別をなくすための人権啓発研修の実施、寿地区の簡易宿泊所等調査を行っています。

よこはま東部ユースプラザ

☎045-642-7001

若者一人ひとりの自立を目指し、若者とその保護者による相談を来所ができない方にも、オンライン(Zoom)などで行っています。「東プラ」は若者が集まって、安心して過ごすことができる居場所です。

第2章 中区の福祉保健に関する現状

1 中区の特性

中区は横浜市の臨海部の中央に位置し、開港以来の歴史的・文化的資源が数多く存在することが魅力の一つです。

また、市の中心区として、行政、商業、港湾、観光など多様な都市中枢機能を担っています。このため、昼夜間人口比率の高さ、転出入の多さなど、都市部ならではの特徴が表れています。

<p>1 人口</p> <p>人口は約15万人 18区中15位 (令和2年4月1日時点)</p> <p>緩やかに増え続け、特に高齢者の人口が増えています。</p>	<p>2 世帯</p> <p>単身世帯の割合は56.7% 18区中1位 (平成31年3月末時点)</p> <p>特に75歳以上の一人暮らし世帯が増えています。</p>	<p>3 多文化共生</p> <p>外国人の人数・比率ともに 18区中1位 (平成31年4月末時点)</p> <p>国籍によらず、お互いに認め合い、支え合って暮らすことが必要です。</p>
<p>4 健康</p> <p>平均自立期間は男性が約76歳、女性が約82歳 (令和元年時点)</p> <p>男女とも市平均より短く、健康に関する正しい知識と日々の健康づくりが必要です。</p>	<p>5 地域活動</p> <p>自治会町内会加入率は 18区中17位 (令和2年4月1日時点)</p> <p>自治会町内会は防災・防犯、清掃活動など、日々の暮らしを支えており、多くの住民の参加が必要です。</p>	<p>6 子育て</p> <p>生まれた子どものうち第1子である割合は18区中4位 転入数は18区中1位 (令和2年1月1日時点)</p> <p>転入者が多く、気軽に子育ての相談ができる環境が必要です。</p>
<p>7 高齢化</p> <p>高齢化率は23.5% 18区中12位 (令和3年3月1日時点)</p> <p>地域により高齢化率に差があります。</p>	<p>8 障害</p> <p>障害者手帳を持つ人の比率は5.4%、18区中3位 (手帳所持者数は令和3年3月末、人口は令和3年4月1日時点)</p> <p>地域には身体障害者・知的障害者・精神障害者など様々な人が暮らしています。</p>	<p>9 働く人</p> <p>事業所数は18区中1位 (平成28年6月1日時点) 昼夜間人口比率は18区中2位 (平成27年10月1日時点)</p> <p>区外からの通勤通学者が多く、住民以外の働く人も中区を支えています。</p>

1・2 人口・世帯

人口は約15万人で18区中15位(令和2年4月1日時点)
世帯数は約8万世帯で、うち56.7%は単身世帯(平成31年3月時点)

中区の人口は増え続けていますが、2032年をピークに増加が止まり、減少していくと予想されています。世代別では、特に15~64歳の人口が減り、65歳以上の高齢者人口が増えていくと予想されています。【図1】

世帯数も増え続けており、中でも75歳以上の単身世帯は増える傾向が見られます。【図2】

総世帯数に占める単身世帯の割合は56.7%で、市内で最も高い割合になっています。高齢者だけでなく、他の世代も含めて単身で暮らす人が多いことが特徴です。【図3】

また、住民の転入数と転出数の差を表す社会増減率は市平均0.36に対し中区は1.26と高く、人の入れ替わりが多いことも特徴です。(令和2年度)

図1 中区の人口・世帯数の将来推計

(基準時点は2015年。年齢不詳を含みます。各年1月1日時点の推計人口)

人口・世帯数の将来推移

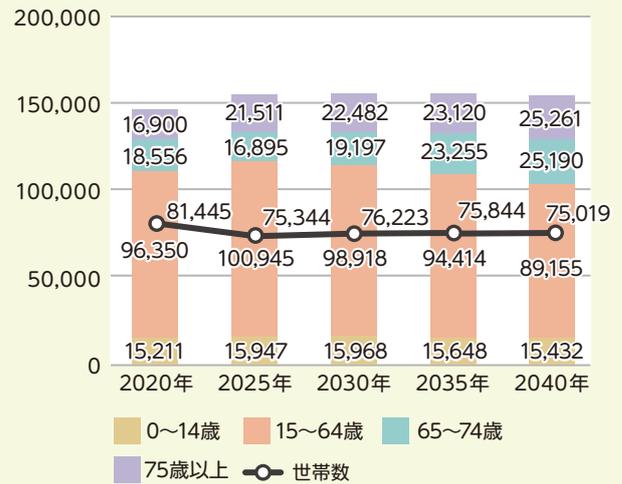


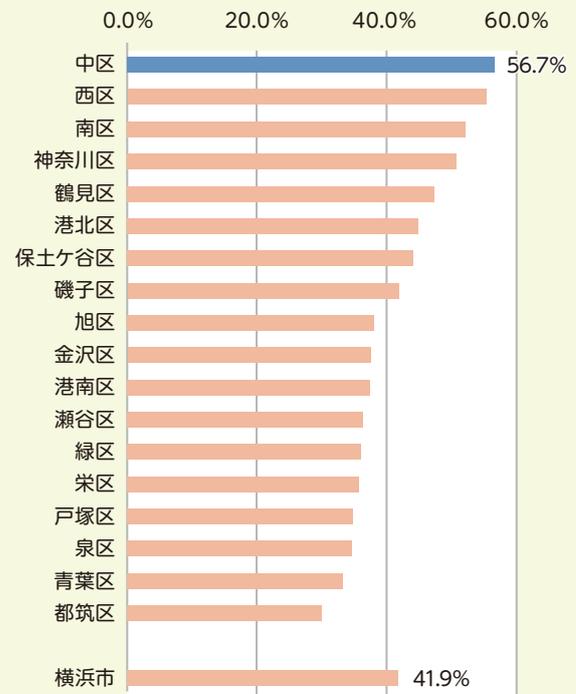
図2 世帯総数・高齢単身世帯・高齢2人世帯状況



各年3月末時点

出典:横浜市統計情報ポータル

図3 総世帯数に占める単身世帯の割合(区別)



平成31年3月時点

出典:横浜市統計情報ポータル

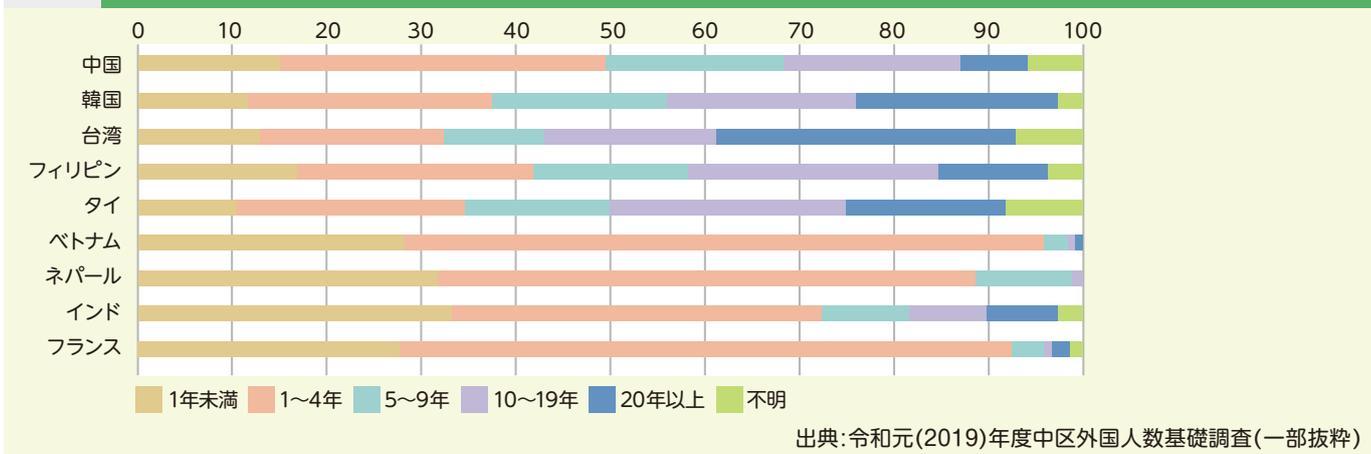
3 多文化共生

外国人数は17,041人、人口比率は11.2%で共に市内1位
(平成31年4月時点)

中区の外国人数は17,041人、人口比率は11.2%。他区に比べ、外国人数・比率ともに1位です。(平成31年4月時点)平成21年から平成30年までの期間に、約1,000人増(市全体は2万人増)で、緩やかな増加傾向が見られます。出身は93の国(地域)に及び、多国籍化の傾向が強まっています。国籍・地域別では中国が55%で最も多く、次いで韓国、台湾、フィリピンとなっています。近年はベトナム、ネパールが急増しています。

中区での平均滞在年数は7.71年で、滞在年数が4年以上の外国人が全体の48%を占めています。中国、韓国、台湾、フィリピン、タイは5年以上の中長期滞在者が多い一方で、ベトナム、ネパール、インド、フランスは滞在年数が4年以下の割合が多くなっています。このように国籍によって滞在期間の二極化が見られます。【図4】

図4 滞在年数別外国人数の比率

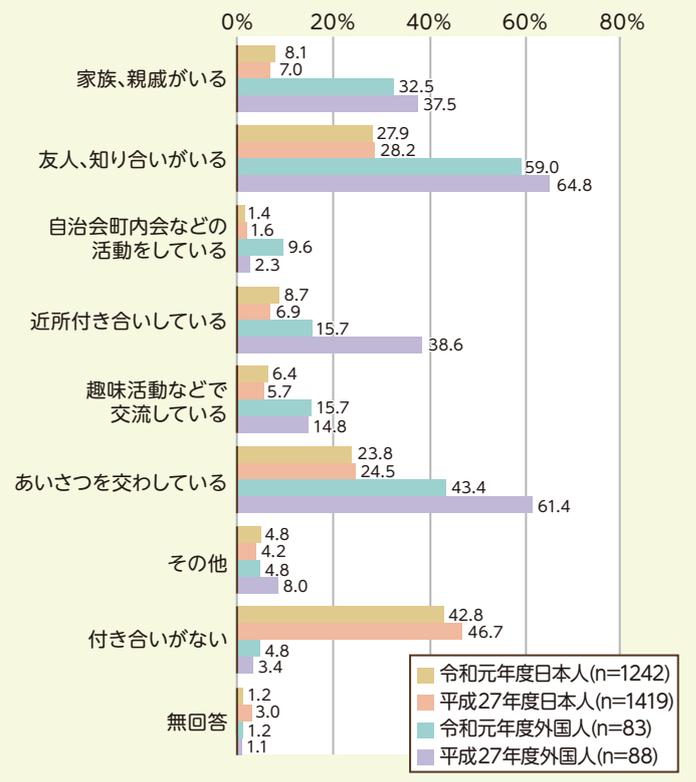


令和元年度中区区民意識調査では外国人が増えていくことを「自然な傾向である」と思う人が80%を超える一方、「生活のマナーやルールが守られなくなる」等の不安の声も混在しています。

外国人と日本人の交流については、日本人では、「外国人との付き合いがない」の割合が最も高く約40%を超え、外国人では、日本人の「友人、知り合いがいる」の割合が約60%と最も高くなっています。一方で、外国人の調査結果では平成27年度調査に比べ、「あいさつを交わしている」「近所付き合いしている」の割合が大きく下がりました。【図5】

図5 令和元年度中区区民意識調査

問17「あなたは現在、外国人/日本人の方とどのような交流がありますか」
日本人/外国人別_経年比較



4 健康

平均自立期間は男性76.97歳、女性82.28歳で共に横浜市平均を下回っている。
(令和元年時点)

平均自立期間とは「日常生活に介護を要しない期間の平均」を指します。また、平均寿命は0歳の人があと何年生きられるかを指します。中区は男女ともに横浜市平均と比べて平均自立期間が短いという特徴が見られます。【図6】

また、65才以上の要介護認定者の割合も高くなっています。【図7】

いつまでも健康に一人ひとりが自立した生活を送るためには、若いころからの生活習慣が重要です。特に自立期間を伸ばすことは、生活の質の維持・向上にもつながります。

図6 令和元年平均自立期間(中区・横浜市)

	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	79.73	82.03	83.36	87.79
中区	76.97	79.57	82.28	87.42

出典:健康福祉局

図7 要介護認定者数の65歳以上人口比

中区	横浜市
20.6%	18.5%

出典:
横浜市統計情報ポータル

令和元年度中区区民意識調査では自身の健康状態をどう感じているかを尋ねたところ、「健康である」が33%、「どちらかという健康である」が45.4%で、これらを合わせた80%近くの人が自身を健康と感じています。【図8-1】

一方で、年代別で見ると、70歳以上の区民は30%以上の人が自身を健康でないと感じていました。【図8-2】

図8 令和元年度中区区民意識調査

問25「あなたはこの1か月間のご自身の健康状態をどう感じていますか」

図8-1: 全体

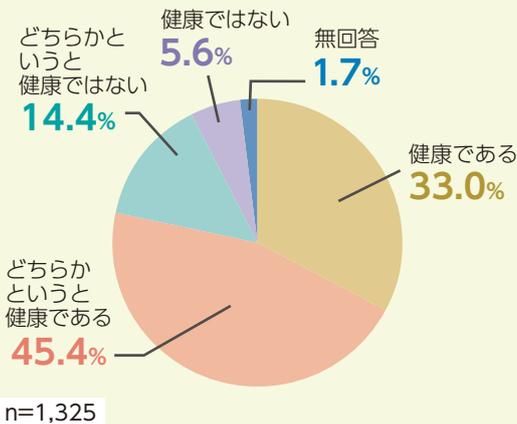
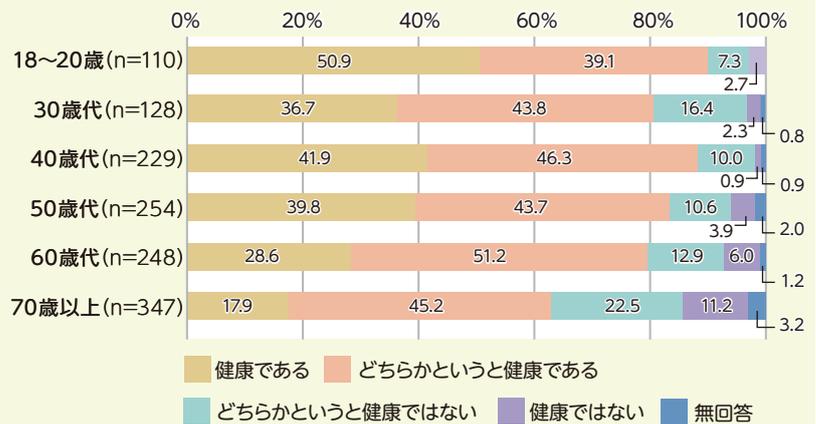


図8-2: 年代別



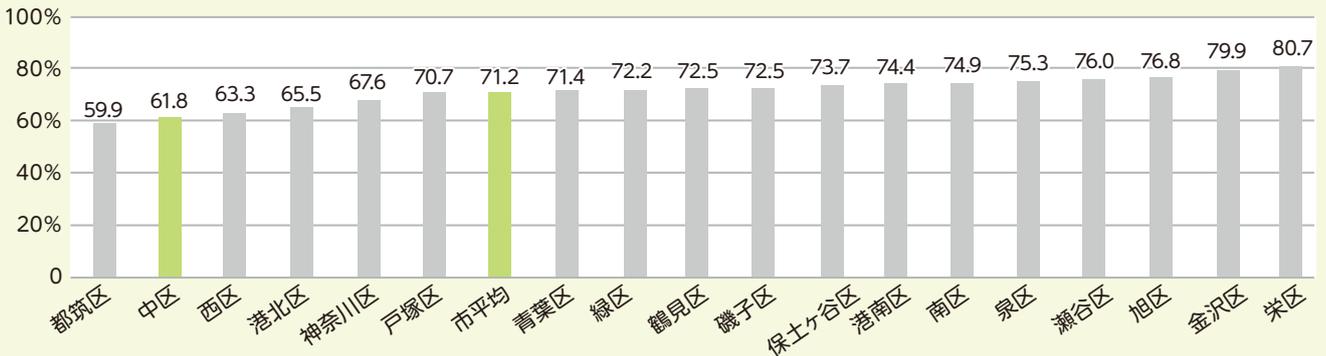
5 地域活動

自治会町内会加入率は61.8%で市平均71.2%に対し低い傾向
18区中17位(令和2年4月1日時点)

自治会町内会は、近くにお住まいの方々の交流を深め、そこで起こる様々な課題を解決するためにつくられた住民団体です。お祭りや運動会などの楽しいイベントのほか、防災・防犯、清掃活動など、日々の暮らしを支える活動を行っています。中区の自治会町内会加入率は61.8%で、市平均71.2%に対し低い傾向にあります。【図9】

地域の活動に参加することで、人を知り、まちを知ることができ、安全・安心で、笑顔があふれる地域づくりにつながります。

図9 区別自治会町内会加入率



出典:自治会町内会調査結果(市民局・地域活動推進課)

令和元年度中区区民意識調査では、隣近所との普段の付き合い方について「道で会えばあいさつぐらいする」が53%、「たまに立ち話をする」が22%、「顔もよく知らない」が15%となりました。【図10】

「隣近所との付き合い方」については、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が70%超となっており、特に賃貸(マンション等共同住宅)居住者では、「顔もよく知らない」が30%を超え、隣近所との交流がほとんどない人もいる様子が見えます。【図11】

図10 令和元年度中区区民意識調査

問26「あなたは隣近所との普段どのような付き合いをしていますか」

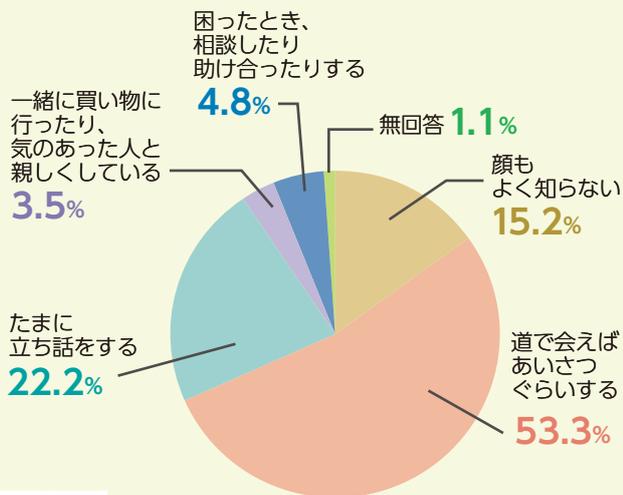
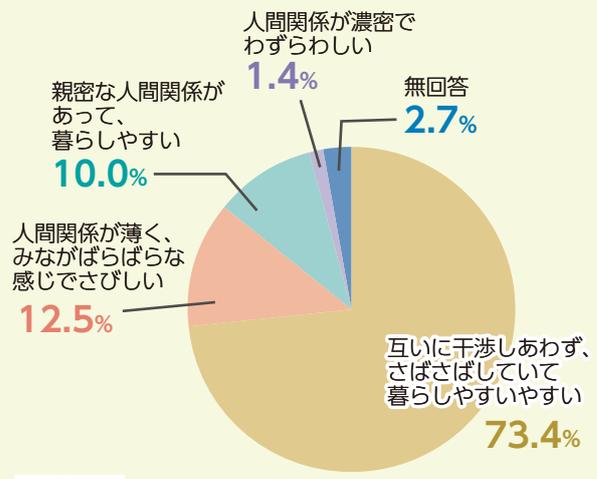


図11 令和元年度中区区民意識調査

問27「あなたは隣近所との付き合いをどのように感じていますか」



6 子育て

14歳以下の子どもの総数は約15,000人で18区中15位
(令和2年1月1日時点)

中区の子どもの数は減少し続けており、出生数は年間1,000人以下となっています。

中区は出生数に占める第1子の割合も高いことから、初めての子育てに戸惑いながら、孤立して子育てをすることにつながりやすい地域特性があります。

また、文化の違う中で子育てを行う外国人も孤立が心配されます。子どもの親は、近所との付き合いも減る中、子どもの世話をした経験がなく、子育てに対する不安感・負担感を抱えやすい環境に置かれています。【図12】

図12 中区の子どもに関連する数値

出生数……………	789人(令和元年)	18区中/16位
出生数に占める第1子の割合……………	55.6%(令和元年)	18区中/4位
人口に占める外国人の割合……………	11.2%(平成31年)	18区中/1位

出典:横浜市統計情報ポータル

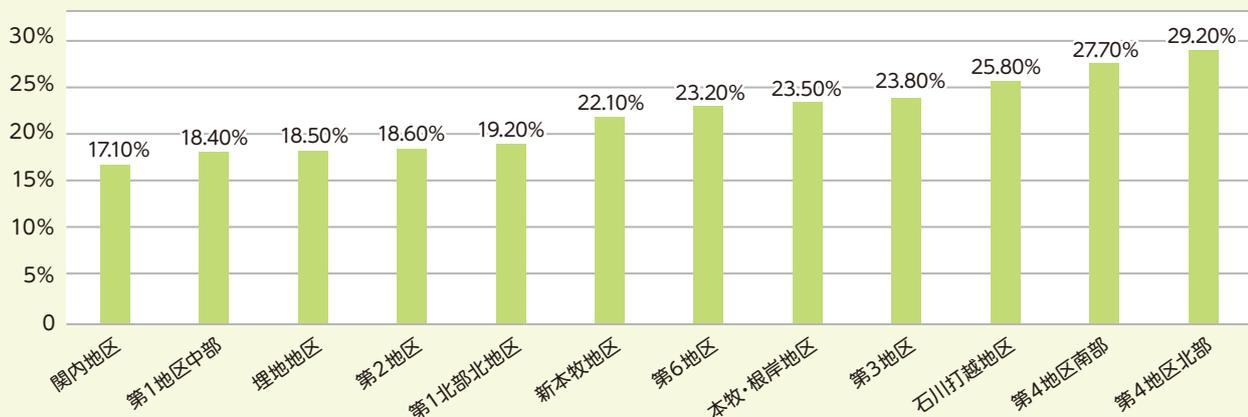
7 高齢化

高齢化率は23.5%で18区中12位(令和3年3月1日時点)

中区の高齢化率は上がり続けているものの、市の高齢化率24.7%(令和3年3月1日時点)と比べるとやや低く、他区に比べると高齢化のスピードは緩やかです。

区内でも勤労世帯が多く居住している地区の高齢化率は低く、地域による高齢化率の差が激しいことが特徴です。【図13】

図13 地区別高齢化率



平成31年3月時点

出典:横浜市統計情報ポータル

8 障害

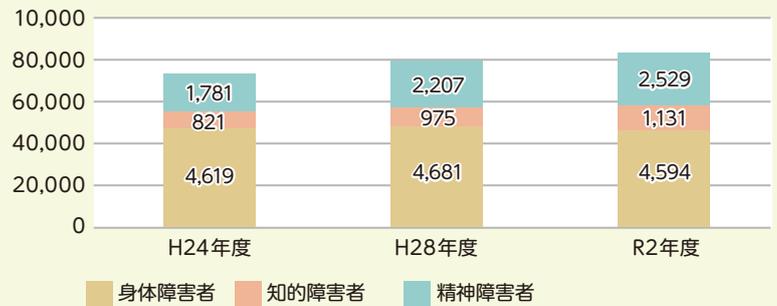
障害者手帳を持つ人の比率は5.4%で18区中3位
(手帳所持者数は令和3年3月末時点、人口は令和3年4月1日時点)

障害者手帳を持つ人は令和2年度で8,254人となっています。近年、身体障害者はやや減少している一方、知的障害者・精神障害者はともに増加しています。地域には障害のある方も多く暮らしています。【図14】

※参考:精神障害者把握数の変化「精神障害者把握数」とは、精神障害者保健福祉手帳の有無にかかわらず、中福祉保健センターが相談等により把握している人数を指し、年々増加傾向にあります。

平成24年度	平成28年度	令和2年度
6,975	8,808	10,284

図14 障害者手帳所持者数の変化



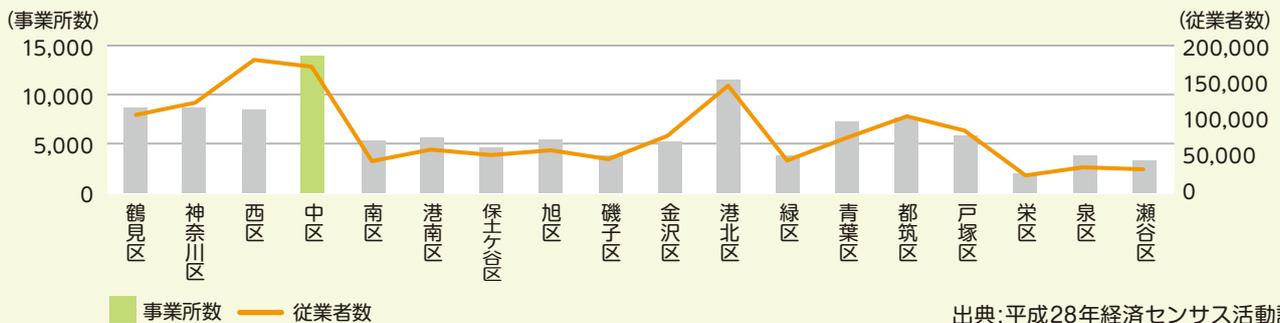
各年度3月末時点 出典:中区統計便覧(2020年版)及び横浜市統計情報ポータル

9 働く人

事業所数は13,878で18区中1位
従業者数は171,774で18区中2位(平成28年6月1日時点)

中区の事業所数及び従業者数は、平成21年以降、減少傾向にあります。平成28年時点で事業所数は18区中最多で、従業者数は西区に次いで多くなっています。【図15】

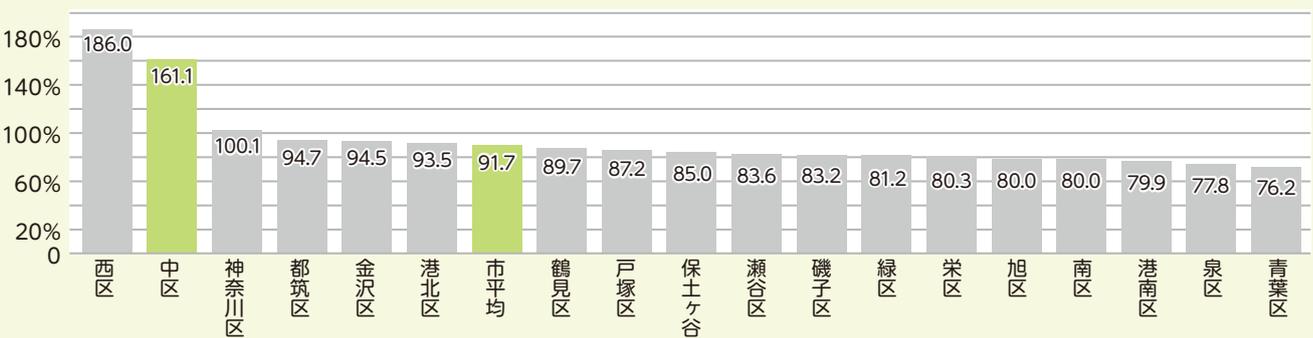
図15 区別事業所数・従業者数



出典:平成28年経済センサス活動調査

昼夜間人口比率は西区に次いで高く、区外からの通勤通学者が多いことが特徴です。住民以外の働く人も中区を支えているといえます。【図16】

図16 昼夜間人口比率 ※昼夜間人口比率は、夜間人口を100した場合の昼間人口を表しています。



平成27年10月1日現在

出典:中区統計便覧(2020年版)

第3期計画は、2つの推進の柱「えん結び」と「元気いっぱい」に沿って、取組を進めてきました。

推進の柱

1

中なかいいネ!で“えん”結び

地域の見守り力を高めるために、近隣で顔見知りを増やし、困ったときに早めに気づいて、助け合いによる解決ができるように進めました。

主な取組と成果

1 地域の中の緩やかな見守り体制の構築

民生委員・児童委員が行うひとり暮らし高齢者等「地域で見守り」推進事業、地域ケアプラザが行っている見守りキーホルダーの配付など、住民と関係機関が連携して見守りをしました。



見守りキーホルダー



おふくろさんグッズ

2 ネットワークの広がり

中区子ども食堂ネットワーク、障害者自立支援協議会、区民利用施設の連携事業など、関係機関が集まり意見交換をすることで、ネットワークが広がっています。



関内さくらホームレストラン



啓発ポスター

3 必要な人に必要な支援が行き届く仕組みづくり

災害時要援護者支援事業、生活支援KBT(希望の友)の立ち上げと運営支援など、行政サービスでは十分でない部分を住民と協働して取り組みました。



災害時要援護者支援講演会



生活支援KBT(希望の友)

中なかいいネ!で元気いっぱい

区民の「健康づくり」として、生活習慣病の予防や介護予防と子どもの健全育成を目指し、誰もが参加できる取組を行いました。

主な取組と成果

1 気軽に参加できる健康づくり

ラジオ体操の普及、てくてくウォーキング事業等、誰もが身近な場所で参加できる健康づくりに取り組みました。



ラジオ体操



てくてくウォーキング事業

2 子どもの健全育成

食育推進事業やイベント、子ども支援プログラム(生活スキル向上のための体験プログラム)等の食や生活など、幅広い視点から子どもの健康づくりに取り組みました。



食育推進事業



子ども支援プログラム

3 高齢者の介護予防

元気づくりステーション、認知症予防「コグニサイズ」等、身近な場所で介護予防に取り組みました。また、介護予防の担い手育成と高齢者が自ら介護予防に取り組めるような仕組みづくりをしました。



元気づくりステーション



「中区脳トレコグニサイズ」DVDの作成

第3章 区域計画



第4期計画の方向性

中区の多くの区民が歴史や文化のあるまちとして、中區に愛着を持っています。将来に渡って中區のすばらしさを継承していくには、そこに暮らす子ども・障害者・高齢者・外国人を含め、すべての人が安心して生き生きと暮らす地域共生社会にしていく必要があります。

また、第3期計画を進める中で、活動している方から「計画を知らない人が多い」、「一部の住民によって活動が支えられている」、「多くの活動があるが、関係者以外に知られていない」等の声がありました。このことから、第4期計画では「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を目指します。

1 5年後の目標

もっとみんなの「中なかいいネ!」 ～相互理解を進めよう～

「中なかいいネ!」は区民による区民のための計画です。「もっとみんな」とは、子どもから働き世代・高齢者までの全世代、障害者・外国人等の当事者も含め、すべての人です。そして、住民だけでなく、企業や事業所などの働く人も含め、お互いに理解し合うことを目指します。

2 活動の2本の柱

推進の柱

1

見守り力を高める「えん結び」

お互いに関心を持ち、
みんなで暮らしの困りごとの解決に
取り組みましょう

推進の柱

2

健康づくりの「元気いっぱい」

みんなでこころとからだの
健康づくりに取り組みましょう

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を進めていくために、様々な人の気づきを分かち合うことが重要です。より良い地域づくりのために、みんなの想いを共有し、意見を出し合ひましょう。(対話) また、変化する社会の今を知り、私たちの活動のヒントを得る学び合う場をつくっていきましょう。(学び)

3 地域活動を推進する3つの土台

= 人財・交流・情報の強化

仲間を増やす **人財**

困りごとの解決に向けて
協働する人財を
育成・発掘します

交流 することで気づく

周りの人に関心を持ち、
他の団体の活動趣旨や
困りごとに気づきます

動機づけとなる **情報**

暮らし続けるために
そのまちのことを知ります

第3期計画から、困りごとに気づくための見守り力を高め、助け合いを広げること为目标に、各地域で様々な「えん結び」の取組が行われています。第4期計画では、更に「もっとみんな」に広がっていきます。

中なかいいネ!で見守り力を高める「えん結び」

目標 お互いに関心を持ち、みんなで暮らしの困りごとの解決に取り組みましょう

もっとみんなで見守るには

- ★ 住む人、働く人も一緒に、世代を超えて取り組みましょう。
- ★ お近くの知り合いを増やしましょう。
- ★ 「お互いさま」の身近な助け合いを増やしましょう。
- ★ 挨拶や声かけをして、気軽に話し合える関係を広げましょう。
- ★ 強制されるものではありません。できることから始めましょう。
- ★ 高齢者、障害者、外国人等の力も必要です。みんなが主役です。
- ★ 暮らしの困りごとは人それぞれです。
地域にいる多様な人に目を向けましょう。



中なかいいネ! 推進会議・地域の会議でのご意見

- ひとり暮らし高齢者や外国人の増加等により、社会的孤立の課題が増える。
- 障害者について考えることが少なかった。
- 地域で暮らしている生活困窮者やひきこもり等の困難を抱えた人との接点が少ない。
- 子育て世帯が近隣との交流が少なく、地域とつながれていないのではないか。
- 共同住宅では、近隣の状況を把握することが難しい。
- 外国人に分かりやすい情報提供をし、一緒に地域づくりをする必要性がある。
- コロナ禍であっても、地域はできることから取り組んでいる。

グループインタビューでのご意見

- 必要としているサービスや制度がない人が地域や社会から取り残されているのではないか。
- 外国人も日本人と同じような困りごとがあり、一緒に考えることが必要。
- 地域の取組を知ってもらい、参加してもらうことで、仲間を増やせると良い。
- 困っていないうちから、地域とつながっておくことが大切。

令和元年度中区区民意識調査

隣近所との付き合いは少ないが、困っている方への手助けや災害時の手助け、また、外国人と生活習慣を知り合う必要性を感じています。

- 「隣近所との付き合い方」について「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が70%超となっている。
- 「隣近所の困っている方にどのような手助けができるか」について、「話し相手・相談相手になる」が36%で最も高く、次いで「災害時の安否確認や避難の手助け」が27%、「話を聞いて、民生委員や行政に連絡する」が25%となっている。
- 「日本人と外国人がともにより良く暮らすために必要だと思うこと」について、「地域のルールを確認し、互いに教え合う」が日本人は50%、外国人は30%弱となっている。また、「互いの国の文化や生活習慣を知り合う」については、日本人が40%、外国人は60%となっている。

3

計画推進の柱2 健康づくりの「元気いっぱい」について

第3期計画から、こころとからだの健康を目標に、各地域でまちぐるみの健康づくり「元気いっぱい」の取組が行われています。第4期計画では、更に「もっとみんな」に広がっていきます。

中なかいいネ!で「元気いっぱい」

目標 みんなでこころとからだの健康づくりに取り組みましょう

もっとみんなで元気になるには

- ★ ゲストとして参加するだけでなく、**できることを担って参加**しましょう。
得意分野で力を発揮しましょう。
- ★ 年齢、健康状態、障害の有無、国籍等にかかわらず、**自身ができる範囲で参加**しましょう。
- ★ 運動が苦手でも、**交流することが健康**につながります。
- ★ **身近な場所で、誰もが自由に参加できる活動**にしましょう。
既存の活動を工夫しましょう。
- ★ 身近な人は健康でしょうか。**声をかけ、活動に誘い**ましょう。
- ★ **健康に関する情報を共有し、みんなで学び**ましょう。



中なかいいネ! 推進会議・地域の会議でのご意見

- 健康づくりは個人と地域の両輪で取り組む必要がある。
- 気軽に参加できる介護予防・健康づくりの取組が必要。
- 健康意識は高いが、健康づくりの具体的な行動につながらない人が多い。

令和元年度中区区民意識調査

健康に不安を感じている人が多くいます。

- 自身が不安に感じていることについて、「運動不足」が最も高く、次いで「身体の健康(病気や障害など)」となっている。
- 自身の健康状態については、70歳以上で「どちらかという健康でない」、「健康でない」が合わせて30%以上。

トピックス

Topics 公園での健康づくり

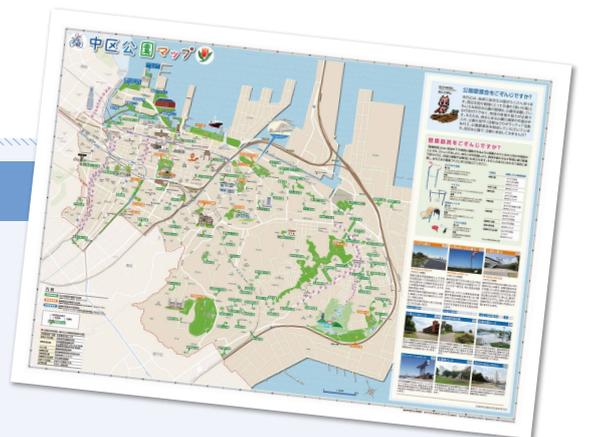
公園は緑の中で散歩やスポーツ等が楽しめる場です。周回できる園路や健康器具、広場やベンチなどを有効活用し、健康づくりに取り組む拠点として利用してください。

▶▶ 健康器具って？

健康器具とは、使用することにより気軽にストレッチ・筋力・バランス運動や運動効果の測定を行うことができる器具のことです。身近な公園で健康器具を利用いただき、毎日の健康づくりの促進、生活習慣病の予防、世代間の交流の場としていただければと思います。

▶▶ 中区公園マップが改訂されました! マップを片手に公園巡り

中区内の公園を紹介した『中区公園マップ』が4年ぶりに改訂されました。健康器具が設置されている公園や桜が見られる公園を紹介していますので、『てくてくウォークガイドブック』と併せて中区内の公園を巡ってみませんか。英語・中国語・ハンガルに翻訳した外国語版の公園マップも発行しています。





4

「えん結び」と「元気いっぱい」を推進する組織や団体

中区連合町内会長連絡協議会

自治会町内会は、近くに住む者同士が交流を深めるためのお祭りや運動会などの楽しいイベントを行っています。また、防災、防犯、清掃活動など日々の暮らしを支える活動を行っている住民の自治組織です。より多くの区民の皆様に地域で行われている活動についてご理解いただけるよう、13地区の地区別計画を周知するご協力をさせていただきます。



中区医師会

中区医師会は、気軽に相談できるかかりつけ医を中心に、歯科医師会、薬剤師会、獣医師会と連携して、地域に根ざした健康づくりに貢献してまいります。

中区歯科医師会

近年、「口の健康は全身に影響する」と様々な観点から口腔ケアの大切さが取り沙汰されています。中区歯科医師会では、地域医療連携と口腔保健活動を中心に、「中なかいいネ!」に協力するとともに、中区民の皆さんの健康増進と疾病予防に貢献してまいります。



中区薬剤師会

【えん結び】インターネットによる遠隔での見守りが可能になり、ソーシャル・ネットワーク・サービスによりつながりやすい社会になっている一方で、地域の共同体が失われ、よそよそしい関係になってしまいました。かかりつけ薬剤師は、企業利益のためでなく、住民、行政と対等なパートナーとしてソーシャル・キャピタルの潜在力になることを目指します。

【元気いっぱい】薬剤師は、「医療」の仕事であると同時に、地域住民の「公衆衛生」を重要な使命と考えています。健康についての相談は、まず薬局へおいでください。



中区障害者団体連絡会

当会は、区内の70以上の障害当事者・支援団体の連絡会です。障害のある人が、安心して元気に地域で生活できることを目指し、活動をしています。また、障害者の高齢化に伴う問題にも取り組んでいます。当会が毎年主催しているポレポレまつりは、地域の方々に好評をいただいています。障害があっても、地域の縁の中で生活していける社会をつくっていきます。



中区ボランティア連絡会

当会は、障害当事者・高齢者等の生活支援、清掃活動等、様々な団体からなり、2021年度には、活動の裾野を広げるため、起こるであろう大地震に備える「中区災害ボランティア連絡会」を発足する予定です。区民の方、中区で働いている方たち、一緒にこのまちの安心、安全、つながりづくりのために、一緒に活動しませんか。お問合せは中区社協へ。



中区中学校長会

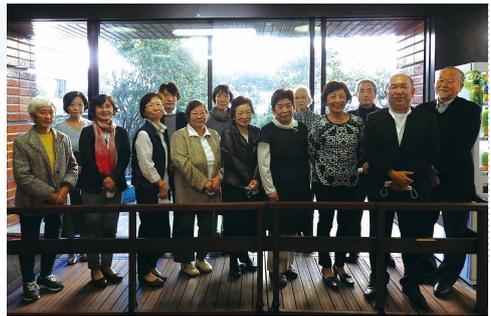
中区中学校長会は、横浜吉田中、仲尾台中、大鳥中、本牧中、港中の5校で構成しています。新型コロナ対策のため、新たな日常生活の基本を守りながら、次代を担う中学生たちが少しでも明るく前向きに学校生活を過ごすことができるよう日々努力しています。中区の「えん結び」の中で活躍できる若い力を育成します。

中区民生委員児童委員協議会

民生委員・児童委員が自治会町内会と協力して開催する食事会やサロンには笑顔があふれています。その笑顔がみんなの心の健康につながり、私たちの活動の励みになっています。

その反面、地域社会から孤立しがちな方もいらっしゃいます。

すべての人に笑顔があふれ、住みやすいまちとなるよう、気づき、学び、つながりを大切に地域を支えています。



中区主任児童委員連絡会

孤立しがちな子育て世代の悩み、子どもを取り巻く問題は多岐に渡ります。

各地区での親子のひろば、子育てサロン、赤ちゃん学級などの運営に協力しています。小・中学校や関係機関との連携などを通して、地域のパイプ役・身近な相談相手として地域の中で寄り添いながら話を聞き、一緒に考える支援を続けます。

中区保健活動推進委員会

保健活動推進委員会の活動テーマは「地域の健康づくり」。ウォークを兼ねた社会見学・ノルディックウォーキング・森林公園ウォーキング、保健師さんの協力による健康ミニチェック、ふれあい給食、子育てサロン、素敵な講師指導によるラジオ体操、健康づくり教室での体操など、各地区で工夫を凝らして様々な活動をしています。声を掛け合って地域全体みんなが笑顔になるよう取り組んでいます。



中区食生活等改善推進員会

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、『栄養・運動・休養』の健康づくりの3本柱の普及啓発をするための活動を行う全国的なボランティア団体です。

会員一人ひとりが健康づくりを実践することが活動の基本です。その体験に基づいた知恵と工夫を地域の子どもから働き世代、高齢の方たちにお伝えしています。



中区青少年指導員協議会

青少年の健全育成を図ることを目的に活動しています。今後も子どもたちが健やかにのびのび育つような地域環境を継続してつくっていきます。

- 小学校をお借りして子供たちに昔遊びや工作の指導をするイベント等を行っています。
- 中区文明開化ウォークラリーや各地区活動では、地域の交流を深めるためスポーツ推進委員と合同開催する行事もあります。

中区スポーツ推進委員連絡協議会

地域に根ざしたスポーツの振興、及び健康づくりの推進を目的に、子どもから大人までさまざまな世代が楽しめる事業を企画していきます。

- ドッジボール大会やソフトバレーボール大会などのイベントを行っています。
- 文明開化ウォークラリーや各地区活動など、地域の交流を深めるための青少年指導員と合同開催する行事もあります。



中区老人クラブ連合会

老人クラブの三大運動は、「健康」「友愛」「奉仕」で、各老人クラブで実践されてきており、2020年1月に「市老連の行動計画 2020-2024」が策定されました。第4期中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」では、今後5年間は、「えん結び(見守り・つながり)」と「元気いっぱい(元気づくり)」に関する取組を行なうとされています。老人クラブの活動は「中なかいいネ！」の推進につながります。会員の拡大を図り、新しい生活様式で、老人クラブ活動を行っていきます。



経済界も、中区(民)と「いろいろな縁、で結ばれた区民の一員です。区民の皆様、中区役所を中心とした行政機関、各公益団体の皆様方と協力し、地域福祉の増進や課題の解決に貢献してまいります。

横浜商工会議所

(公財)横浜市国際交流協会

区内の多文化共生を進めるため、外国人と地域社会の橋渡しの役割を担います。外国人との「言葉の壁」「文化の壁」を感じたらウイングに連絡ください。地域の皆さんとご相談をしながら、通訳、翻訳等を通じて外国人の地域社会への参画を進めてまいります。



中区地域ケアプラザ

地域ケアプラザは積極的に地域に出向き、今ある活動の継続支援や、誰もが身近に楽しく集える居場所づくりの発掘など、住民の皆様や関係機関と協力し、「活力ある中区」を目指した地域づくりに取り組みます。

また、広報紙・SNS・ラジオなどを活用して情報発信し、あらゆるニーズの相互理解とコミュニティーの活性化に取り組みます。

(福)横浜市中区社会福祉協議会

中区民同士が「つながり」と「元気いっぱい」で支え合い、安心して暮らしていくことができるまちづくりを実現するため、社協本来の役割であるネットワーク機能を強化・拡充し、地域福祉の基盤強化・福祉力の向上に取り組みます。中区社協は地区社協をはじめとする地域の皆さんの想いを大切にして、計画の推進に取り組んでいきます。



中区役所



中区は、誰もが安心と活力を実感するまちを目標に、SDGsの視点を踏まえ、共生社会の実現に取り組んでいます。誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていくためには、中区に住む人・働く人すべての人が「オール中区」の一員として取り組むことが必要です。暮らしの困りごと気づくための「見守り力」が高まり、身近な助け合いが増えるよう、地域のつながりづくりを進めていきます。また、年齢、健康状態、国籍等にかかわらず、誰もが一緒に行く「こころとからだの健康づくり」の活動の輪を広げていきます。

中なかいいネ！推進会議委員長

このたび「第4期中区地域福祉保健計画なかなかいいネ！」の推進会議委員長としてお手伝いさせていただきました。コロナ禍の影響で、多くの逆境の中で計画が作り上げられました。

そして、いよいよ計画は実施段階に入ります。あらゆる立場の皆さんの参加と協力と連携によって、魅力いっぱいの中区が、みんなが安心して豊かで健康に暮らせる一層魅力的なまちになるよう祈念いたします。



5

地域の取組を推進する3つの土台

人財

交流

情報

地域の助け合いにより、見守り力を高める「えん結び」とまちぐるみで健康づくり「元気いっぱい」の取組が数多く行われていますが、今後も取組を進めていくうえで、重要なお意見をいただいています。

第4期計画では、その解決に向け、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となり、地域の組織や団体、企業・事業所等と協働し、3つの土台を強化していきます。

強化するための工夫として、区民が学び合え、対話できる機会をつくり、①仲間を増やすこと(人財)、②交流することでの気づき(交流)、③暮らし続けるためにそのまちのことを知ること(情報)を目指します。

区役所

地域で起きる生活の困りごと(地域課題)は、様々な分野に渡るため、区役所各課の業務上でも地域課題を意識し、各課で連携して進めます。地域課題を住民と検討する際は、市や区が保有しているデータを分析し、提供します。

また、広く区民に情報提供するために、広報等による周知を工夫します。

区社会福祉協議会

「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作りだす」という活動理念のもと、地域住民や社会福祉関係者などが会員となり構成された協議体です。

『地域福祉の推進役』として民間団体である強みを活かし、会員(特に、身近な地区に設置されている地区社会福祉協議会)とともに地域住民や様々な団体等とネットワークをつくり、地域づくりを進めていきます。

また、活動を応援するための助成を行います。

地域ケアプラザ

中学校区を目安に設置されているため(中区は6か所)、気軽に立ち寄って相談したり、地域の福祉・保健活動を行ったりするために利用できる施設です。福祉・保健に関する職員が、施設内だけではなく地域に出向いて、相談をお受けしています。隣近所や自治会町内会等の小さな単位での居場所づくりや助け合い等の活動を一緒に考え、進めていきます。

1 人財

「人財」という意味は？

「人材」こそが地域の「宝」という考え方から、第3期計画から「人材」=「人財」として言葉を使用しています。

第3期計画でのご意見

- 限られた担い手で活動を支えており、過度な負担となっている。高齢化している。
- 現役世代や子どもの活動が少なく、参加する意義が共有されにくい。
- 新しい人が参入しやすい環境になっていない。
- 活動の多様化や増加により、担い手が不足している。
- 参加者は増えるが、運営者がいない。支援する人、される人と分けずに、受け手が担い手にもなり得る啓発が必要。
- 事業所や企業とのつながりが少ない。中区に根付いている企業との協力が必要。



第4期計画のポイント

仲間を増やす

困りごとの解決に向けて、協働する人材を育成・発掘する

- 地域活動に参加したことがない働き世代等に向けて地域参加のきっかけづくりを行います。
- 地域で活動している人のスキルアップとして、異なる分野の活動者との交流の機会をつくります。
- 区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザがそれぞれで行っている人材育成の取組を共有し、連携して進めていきます。



区役所 の主な取組

- 地域の福祉保健関係者に生活困窮者の自立に向けた制度の理解を広げます。
- 異なる分野の活動者が情報を共有し活動の幅が広がるよう、人材育成ワークショップを開催します。
- 認知症高齢者も助け合いながら暮らせるまちづくりを目指し、中区に住む人・働く人の認知症キャラバンメイトを支援します。
- 地域で活躍できる新たな人材を発掘する「風おこせ！プロジェクト(人材育成講座)」を開催します。
- まちぐるみで健康づくりに取り組めるよう保健活動推進員・食生活等改善推進員・スポーツ推進委員が情報共有し、連携できるよう支援します。

区社会 福祉協議会 の主な取組

- 区域の課題を解決するためにテーマ型活動団体(生活支援ボランティアグループ等)の開発と育成を進めます。
- 特定の課題解決に取り組んでいるNPOや企業等との連携により担い手を拡大し、高齢者・障害者の生活支援(買い物支援・移動支援等)と見守り活動を進めます。
- ボランティア連絡会等のネットワークを活用したボランティア養成講座や交流会を開催し、人材発掘と育成を進めます。

地域 ケアプラザ の主な取組

- 地域活動に若い世代の参加が増えるよう、各地区で開催している防災の取組をはじめ、地域のイベントに合わせた事業を企画し、人材の育成と発掘に取り組みます。
- 商店会やスーパー等の企業とのつながりを深め、生活に必要な買い物支援等の仕組みづくりに取り組みます。

2 交流

第3期計画でのご意見

- 地域活動や行事の参加者が減少している。
- 限られた人の居場所となっており、身近に誰もが気軽に参加できる居場所が少ない。
- 気軽に参加できる健康づくりの場がない。
- 障害児・者との交流が少ない。
- 多くの人が集まるお祭りや伝統行事を生かしていない。
- 地域行事の連携や各自治会町内会の横のつながりが薄い。
- 集合住宅が増加しており、オートロックマンションが多く、生活実態が見えにくい。



第4期計画のポイント

交流することで気づく

周りの人に関心を持ち、
他の団体の活動主旨や困りごとに気づく

- 住民が住んでいる地域のことを理解し、困りごとの解決に向けて住民同士で話し合うことができる機会をつくります。
- 障害者や外国人等も地域参画ができるように相互理解を進めるとともに、きっかけづくりを行います。
- 企業や事業所が地域住民と連携して地域活動を実施することを目指し、知り合う機会や協力の依頼をしていきます。
- 団体間で情報交換ができ、新しい活動や連携した取組を目指し、交流を促進します。



区役所 の主な取組

- 多様な人がお互いに助け合うまちづくりを目指し、活動の目的が同じ団体の交流だけでなく、異なる活動をしている団体と情報共有ができる機会をつくります。
- 地域で緩やかに子どもの成長を見守るために、様々な親子が交流し、地域とのつながりが広がる親子の居場所をつくります。
- 国籍等によらず、地域で助け合える関係づくりにつなげるために、外国人と日本人が共に活動・交流できる機会を増やします。

区社会 福祉協議会 の主な取組

- 「住民支えあいマップ」の作成等を活用し、地域人材の発掘や課題を解決する仕組みづくりを進めます。
- 新たな見守りや居場所づくり(オンラインサロン・住み開き等)を広めます。
- 高齢者に限らず、障害者や外国人等が交流できるよう、つながりづくりを進めます。

地域 ケアプラザ の主な取組

- 「住民支えあいマップ」の作成等をきっかけに、住民同士の交流を図り、見守りや支え合い活動の充実に取り組みます。
- 様々な人が暮らす中区において、障害者や外国人等も気軽に参加できる講座を企画し、相互理解の推進に取り組みます。

3 情報

第3期計画でのご意見

- 周知の対象が限られており、必要な情報が必要な人に届かない。地域活動に参加していない人に情報が伝わらない。
- 交流の場を生かした情報共有ができていない。
- 地域関係者と福祉・保健・医療関係者、市民活動者、企業等の多様な連携が必要である。



第4期計画のポイント

動機づけとなる情報

暮らし続けるためにそのまちのことを知る

- 住民がまちの情報を得ることにより、地域や地域活動に関心が向くよう、HP・SNS・マリンFM等の情報媒体を活用していきます。
- 国籍、年齢、性別、障害の有無等、様々な立場や背景を踏まえた多様性があることについて、相互理解を進めるための情報提供をしていきます。



区役所 の主な取組

- 経済的な困りごとや仕事探しの困りごとなど、必要なときに相談につながるよう、生活保護制度及び生活困窮者自立支援制度を分かりやすく周知します。
- 障害があっても、助け合いながら暮らせるまちづくりを目指し、分かりやすい周知を当事者とともに進めます。
- 健康器具設置等の情報が入った『中区公園マップ』を活用し、多くの人が健康づくりに取り組めるよう情報提供をします。
- 中なかいいネ！推進会議委員が所属する機関や団体をはじめ、地域福祉保健計画と一緒に推進する関係者に地域福祉保健計画を周知します。

区社会 福祉協議会 の主な取組

- 区社協HPやマリンFM等を活用し、福祉に関する情報を提供します。
また、必要な情報が必要な人に届くよう、区社協が持つネットワーク等を生かし伝えていきます。

地域 ケアプラザ の主な取組

- 各地区の商店会や企業等と連携し、広報紙やSNS、マリンFM等により、様々な角度から地域情報の発信に取り組み、地域の魅力を伝えていきます。

地域の中で3つの土台を進める取組例

地域で行われている取組の中でも、**人財**・**交流**・**情報**の強化に効果がつながっています。

地域の健康づくり

例えば、子どもも大人もみんなで行うラジオ体操では

自分の力を地域で発揮

- 参加した中学生がみんなの前に出て、体操のポイントを教えてくれるようになった。
- 参加している高齢者が、会場前の信号機のない道路を横断する小学生のサポートをしてくれるようになった。



交流することで困りごとに気づく

- 毎回参加していたひとり暮らしの〇〇さんが来なくなったので、体操後に一緒に帰宅していた人たちで様子を見に行くことにした。持病の腰痛で外出が困難になっていたことに気づくことができた。

暮らしやすくするための情報を届ける

- 外国語のチラシを掲示したところ、外国人が参加してくれるようになった。体操の前に外国語で挨拶するようになった。

地域の見守り

例えば参加自由の地域サロンでは

自分の力を地域で発揮

- 参加している高齢者が近所のひとり暮らしで、外出の少ない高齢者を毎回誘って参加させている。
- 親子で参加していた方が、子どもが入学したあとも、母親が引き続き参加し、受付を手伝ってくれている。



交流することで困りごとに気づく

- 車いすを利用している人が参加するようになった。防災の話になり、「避難場所が分からない」と聞き、町内の防災訓練時に誘うことにした。

暮らしやすくするための情報を届ける

- サロンで、重たい日用品の買物について困っているという話題が上がり、配達してくれる近隣のお店や宅配の情報を持ち寄って共有した。

Topics 様々な困りごとの解決の糸口を探します～生活困窮者自立支援制度～

地域に次のような生活にお困りの方はいませんか？

- 仕事を失ってアパートの家賃が払えない
- 借金や家計のやりくりで悩んでいる
- 仕事探しがうまくいかない
- 困りごとが多すぎて、どこに相談すればよいか分からない
- ひきこもり生活が長くなり、将来に不安を抱えている など



生活困窮者自立支援制度の内容

就労自立促進事業
ハローワークとの一体的な就職支援

家計改善支援事業
家計の立て直しをアドバイス

自立相談支援事業

- 困りごとの相談
- 自立に向けた支援

就労準備支援事業
就労訓練事業
就労に向けた段階的支援

一時生活支援事業
一時的に衣食住を提供

住居確保給付金
働くために住まいの確保を支援

\ 区役所生活支援課では、自立相談支援機関として困りごとの相談を受け付けています /



担当の自立相談支援員がお話を伺い、どのような支援が必要かを一緒に考え、寄り添いながら自立に向けて支援します。必要に応じて、地域・関係機関と連携しながら支援を進めていきます。

また、生活の困りごとを抱えた方を見守り、孤立させない地域、必要な支援につなぐことができる地域を目指して、関係機関や地域の皆様とのネットワークづくりを進めています。

Topics 知っていますか？「成年後見制度」
～自分の利益や権利を守り、安心して暮らし続けるために～

こんなことでお困りの方はいませんか？

- お金の管理がうまくできなくなってきた
- 契約の書類がうまく書けない、内容が分からない
- 通帳など、大事なものがどこにあるか分からなくなってしまった
- 福祉サービスを使いたいが、契約などの難しいことはよく分からない
- 自分の老後や、子どもの将来が心配 など



認知症や知的障害などがあると、自分の利益や権利を守るための判断がうまくできなくなり、困りごとや心配ごとが増えてきます。このような方々が安心して暮らせるように、生活や財産を守る、契約を代行するなどの支援を行う法的な制度を「成年後見制度」といいます。ご本人の気持ちや身体の状態、生活状況にあった支援を行う「成年後見人等」（家庭裁判所が選びます）が、財産の管理やサービス利用契約のお手伝いなど、さまざまな支援を行います。

「どんな制度なの？」「成年後見人を選ぶ手続きをしたい」など、詳しい相談は区役所（高齢・障害支援課）、地域ケアプラザ、基幹相談支援センター、区社会福祉協議会で受け付けています。ご本人のお気持ちを大切にしながら、身体の状態や生活の状況に合わせた支援と一緒に考えていきます。

計画をつくるために行った調査・企画① 令和元年度中区区民意識調査

中区では、区政に対する区民の評価、ニーズやまちづくりの課題を把握し、区政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、平成20年度からおおむね2～3年ごとに区民意識調査を実施しています。

令和元年度は「第4期中区地域福祉保健計画」及び「第2期中区多文化共生推進アクションプラン」の策定に向け、地域福祉、多文化共生を重要調査項目とし、外国人を含む18歳以上の区内居住者4,000人を対象に実施しました。

1 概要

調査対象	中区内に居住する18歳以上の方
対象数	4,000人(内訳／日本国籍3,500人、外国籍500人)
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収 (外国籍の方へは、やさしい日本語・英語・中国語簡体字3種類の調査票を送付)
調査項目 (計48問)	<ul style="list-style-type: none"> ●属性質問(10問) ●中区の居住理由・居住意向、中区の魅力について(3問) ●中区の行政サービスについて(1問) ●「多文化共生」について(10問) ●「地域福祉」について(11問) ●「自治会町内会」「ごみ・資源回収」について(3問) ●「防災」について(7問) ●「行政情報」について(2問) ●自由意見(1問)
調査期間	令和元年7月18日(木)～8月9日(金)
回収結果	<ul style="list-style-type: none"> ●有効回収数 1,325 件(内訳／日本国籍1,242件、外国籍83件) ●有効回収率 33.1%【前回(平成27年度)調査実績37.7%】

2 調査結果のポイント(「中区地域福祉保健計画」関連部分のみ)

地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動参加について、約40%の方が「関わりたいが今は活動できない」と回答し、年代別に見ると年代が上がるにつれて、参加意向が高い。 ●地域が住みやすくなるために特に必要だと考える取組について、30%を超える方が「災害に備えて近隣で助け合うしくみを作る」「支援が必要な方に早く気づくことができる体制を作る」と回答している。
多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人増加に関する意見について、80%を超える方が「自然な傾向である」と回答している。一方、約70%の方が「生活のマナーやルールが守られなくなる」、60%を超える方が「治安悪化の恐れが不安」と回答している。

計画をつくるために行った調査・企画② グループインタビュー

中区地域福祉保健計画に携わった、または、今後の計画に携わることが期待される人や団体に、グループでのインタビューを行い、区内の住民、企業や団体等の意見を把握し、計画策定に反映しました。

1 概要

実施時期・回数	令和元年11月～12月・計4回
インタビュー対象者(43名)	<p>【地縁役員・ボランティア団体】 麦田町町内会会長、モアレ横浜富士見町自治会長、寿地区民生委員、第1地区中部民生委員、関内地区主任児童委員、関内地区社協会長、新本牧地区社協会長、困りごと引き受け隊、生活支援KBT(希望の友)、本牧元町南部町内会ボランティア会はまなす</p> <p>【支援の狭間に陥る対象者を支える団体】 つながるcafé(認知症カフェ)、コミュニティカフェおしゃべりば、脳トレリーダー、丘の上の緑のサロン、障害児訓練会ちゅーりっぷ、不登校・ひきこもり支援 よこはま東部ユースプラザ、(社福)恵友会(障害者支援)、中区後見的支援室らるご(障害者支援)、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター</p> <p>【福祉サービス事業者や相談員】 横浜市立みなと赤十字病院、中区在宅医療相談室、ポーラ訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ケアサービスホクゼン本牧、小規模多機能居宅介護YMCAライフサポートセンター関内、有料老人ホームすいとび一本牧三溪園、東部学校教育事務所スクールソーシャルワーカー、学童保育所本牧かもめクラブ、中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」、中区障害者地域活動ホーム「みはらしポンテ」、放課後等デイサービスこんぴす、就労継続支援B型ぷれいす、地域ケアプラザ</p> <p>【暮らしを支える企業や商店】 ひらがな商店会マーケットテラスカフェ、イオンリテール(株)イオン本牧店、横山元町郵便局、朝日新聞サービスアンカー ASA 本牧、中スポーツセンター、学習塾エクスペッション総合教育、野毛地区センター、福祉用具事業所ホクゼン・アメニティ・サービス</p>
実施者	NPO法人よこはま地域福祉研究センター／中区役所福祉保健課／(福)横浜市中区社会福祉協議会

2 主なご意見

- 必要としているサービスや制度がない人が、地域や社会から取り残されているのではないかと。
- 外国人も日本人と同じような困りごとがあり、一緒に考えることが必要。
- 子育て世帯が、近隣との交流がなく、地域とつながれないことが課題。
- 地域の取組を知ってもらい、参加してもらうことで仲間を増やせるとよい。
- 困っていないうちに地域とつながっておくことが大切。
- まちを元気にするための方法について、アイデアを出し合いたい。効果的な活動を教えてほしい。



nakanaka iinei

第4章 地区別計画

地区別計画は、地域が主体となり、目指すまちの姿や地域の様々な課題に対する取組をまとめたものです。地域に住む人・働く人が中心となって策定・推進する計画です。中区では、区内の12連合町内会エリアに寿地区を加えた13地区で策定しています。

策定エリア

- ①第1北部地区 ②第1地区中部 ③関内地区 ④埋地地区 ⑤寿地区
- ⑥石川打越地区 ⑦第2地区 ⑧第3地区 ⑨第4地区南部 ⑩第4地区北部
- ⑪本牧・根岸地区 ⑫第6地区 ⑬新本牧地区



日頃から地域において様々な活動を行っている自治会町内会や地区社会福祉協議会のメンバーなど、各地区の住民、活動者のみなさんによって検討が重ねられ、作成に至りました。今後も定期的に地域や各団体の状況や活動を共有し合う対話・学びの機会を持ち続けていくことが大切です。取組が進んだことや難しいことを確認し合い、次の活動につなげていきます。

地区と区域一覧

地区連合町内会	区 域
① 第1北部地区	赤門町・内田町・黄金町・桜木町・野毛町・初音町・花咲町・英町・日ノ出町・宮川町
② 第1地区中部	曙町・伊勢佐木町・末広町・末吉町・羽衣町・福富町・蓬莱町・弥生町・吉田町・若葉町・長者町の一部
③ 関内地区	相生町・太田町・尾上町・海岸通・北仲通・新港1丁目・新港2丁目・住吉町・常盤町・日本大通・弁天通・本町・真砂町・港町・南仲通・元浜町・横浜公園
④ 埋地地区	翁町・千歳町・万代町・富士見町・不老町・山田町・山吹町・吉浜町・扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部
⑤ 寿地区	扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部
⑥ 石川打越地区	石川町・打越
⑦ 第2地区	新山下一丁目・新山下二丁目・新山下三丁目・元町・山下町
⑧ 第3地区	上野町・柏葉・鷲山・竹之丸・立野・仲尾台・西之谷町・本牧緑ヶ丘・豆口台・妙香寺台・麦田町・大和町・滝之上・山手町の一部
⑨ 第4地区南部	本郷町・本牧町・本牧満坂・本牧荒井の一部
⑩ 第4地区北部	北方町・小港町・諏訪町・千代崎町・本牧十二天・山手町の一部
⑪ 本牧・根岸地区	根岸町・根岸加曾台・池袋・矢口台・本牧間門・本牧荒井の一部・本牧三之谷・本牧大里町・本牧元町・本牧原の一部・錦町・かもめ町・千鳥町・豊浦町・本牧ふ頭・南本牧
⑫ 第6地区	大芝台・大平町・塚越・寺久保・西竹之丸・根岸旭台・根岸台・簗沢・山元町・滝之上・山手町の一部
⑬ 新本牧地区	本牧宮原・本牧和田・和田山・本牧原の一部

※人口・世帯などのデータは、町丁別に分け統計をとっていますが、番地別には分けられないため、一部重複して計上しています。

第1北部地区

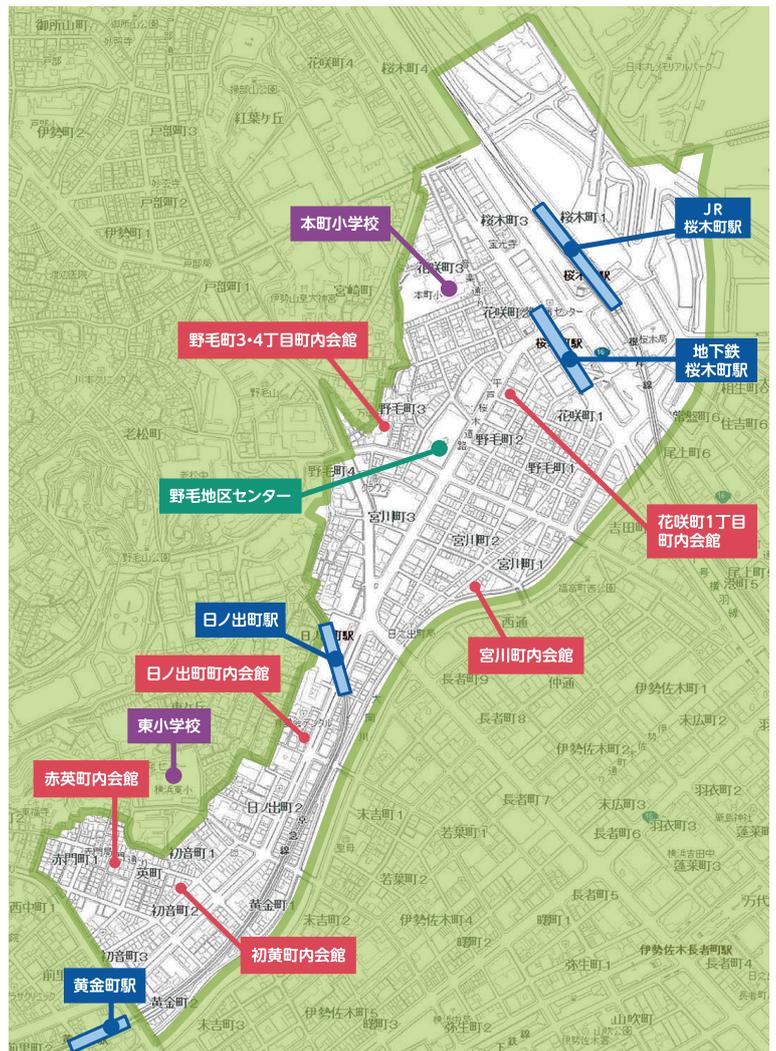
5年後の目指す姿

多世代・多国籍の人が、ともに地区活動、見守り、
情報発信に取り組むまち



第1北部地区はこんなまちです

野毛山丘陵の裾野と大岡川に沿った地域で、川の上流は赤門で有名な東福寺から、下流は桜木町駅までの細長い地区。古くからの商店街があり、人情味ある下町と新しい街並みが融合しています。野毛大道芸などのイベントや大岡川を活用した取組、アートを取り入れたまちづくり等で活気にあふれています。



赤門町・内田町・黄金町・桜木町・野毛町・初音町・花咲町・英町・日ノ出町・宮川町

これまでの計画(第3期)の振り返り

ふれあい給食会の参加者を増やすために、対象者の見直しやチラシ、メニューの工夫をし、周知を広げました。

地域の活動を共有し、周知するため、新たに「イベントマップ」を作成し、回覧や掲示板の掲示を行いました。

自治会町内会未加入者や外国人も地域行事に参加できるよう、多言語版のチラシを作成し、掲示板・回覧で周知しました。

数多く行われている防犯パトロールを通じて、人と人との交流の輪が広がり、安全・安心なまちづくりが進んでいます。

ラジオ体操や餅つき大会、親子ハイキング等の様々な地域活動を通じて、新たな交流が生まれ、地域活動の活性化につながりました。

地域活動の担い手が不足しており、いろいろな機関が繋がって取り組む工夫が必要です。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>孤立を予防し、お互いが見守り合える、声かけができるようきっかけを作ろう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ふれあい給食会を継続していきます。 ● 様々な地域の活動やイベント(親子ハイキング)、民生委員・児童委員の定期訪問等を通じて、こどもから高齢者、障害の有無や国籍を超えて、お互いに見守り合えるきっかけづくりを行います。 ● 小学校とのつながりを生かして、孤立予防に取り組みます。(ふれあい給食会での交流等)
<p>様々な関係機関や団体と、人が上手につながるために、対話と学びの機会を増やそう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区連合会議、中なかいいネ！推進会議等、様々な人が集まる会議で、取組について共有し、新しい取組等も伝えていきます。 ● それぞれ地区で取り組んでいる良い活動を見つけ、支援していきます。 ● 中なかいいネ！推進会議で取り組んでいるイベントMAPの内容をさらに充実させます。
<p>ラジオ体操等を通じ、体力づくりを引き続き、取り組んでいこう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本町小学校で行われているラジオ体操、大運動会、その他、各町内会で行われているラジオ体操や、介護予防教室、こども会の活動等、身近な場所で取り組める健康づくりの活動を把握し、支援していく方法を検討していきます。
<p>安全・安心なまちづくりをしよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 防犯パトロール(野毛地区昼・夜、日ノ出町エリア)を継続します。

第4期計画はこのようにつくりました

地区社協のメンバーを中心に構成された「第1北部地区中なかいいネ！推進会議」を年4回実施し、中心メンバーで話し合いながら作りました。



nakanaka photo



取り組む理由

視点

- コロナ禍で地域の活動が減少しています。
- 今までの取り組みが「孤立予防」の活動であることを再認識し、気持ちを新たに取り組む必要があります。

えん結び

- 企業や商店、NPO 法人、警察等、様々な機関や団体が多く存在し、まちづくりに関わっており、交流も盛んです。地区は、縦長の地形であり、北側と南側にある地区の活動の共有が難しいです。
- 各々の活動をうまくつなげていくことが、地域の活性化につながると考えます。

えん結び

- 個人での健康づくりと地域での健康づくりの両輪で健康づくりを進めていく必要があります。
- 発災時に動ける体を維持します。

元気いっぱい

- 主体的に防犯パトロールが行われており、地域の見守りに効果が期待できます。

えん結び

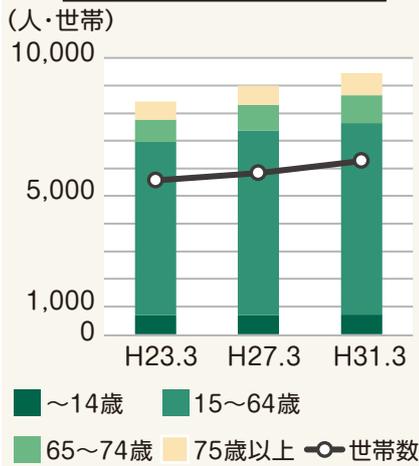
えん結び…見守り力を高める取組 元気いっぱい…健康づくりの取組

第1北部地区の統計データ

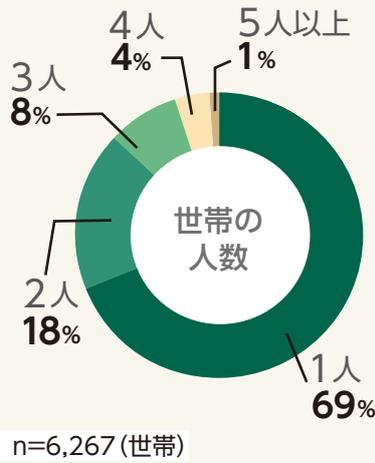
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	8,423	681	6,289	797	656	17.3	5,565	1.51
H27.3	8,994	681	6,693	917	703	18.0	5,831	1.54
H31.3	9,454	719	6,923	1,007	805	19.2	6,267	1.51

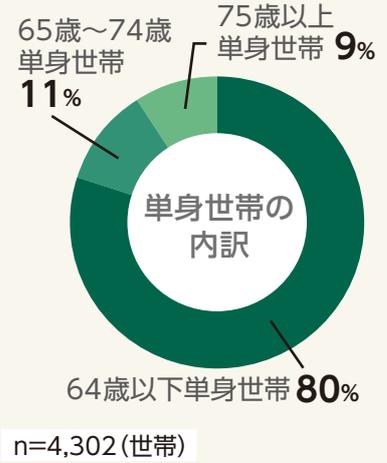
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)

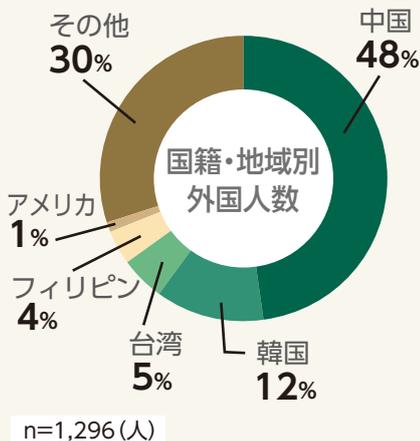


世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	6,064	4,079	67.3	427	375	250
H31.3	6,267	4,302	68.6	468	395	257
R2.3	6,425	4,479	69.7	435	440	257

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

地区内の外国人の状況 (H31.4現在)



データから見た 第1北部地区

人口、世帯数とも微増しています。

一方で、高齢化率は区平均(23.4%)よりは低いですが、年々増加してきています。昔から住む住民が多くいる地域もあり、それらの地域では高齢化率も高くなっています。

地区内には外国人も多く、地区の人口の13.6%を占めています。国籍別では中国、次いで韓国が多いですが、その他の国の占める割合も高くなっています。

これまでの計画(第3期)の振り返り

各種地域のイベント(さくら祭り、おしゃべり会、バスハイク等)で交流をはかりました。

伊勢ぶらクラブでコグニサイズ(介護予防体操)に取り組み、介護予防に取り組みました。

ラジオ体操では、国籍の異なる生徒や家族が参加しやすいよう、多言語版チラシを作成するなど、多文化共生に取り組みました。

住宅地だけでなく、商業施設・店舗が多いことから、住民だけでなく在勤の方とともに地域づくりに取り組む必要があります。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>顔が見える関係づくりをすすめます。(地域課題に地域で取り組む土台づくり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染症対策を踏まえた上で、お花見の集い、バス旅行、おしゃべり会、親子ハイキング、もちつき大会、視覚障害者と青少年の交流ボーリング大会などのイベントや、健康づくりと商店会活性化イベント等、新たな機会を検討します。 ● 生活習慣や文化の異なる国籍の方々が地域生活を送りやすくするとともに、国籍や文化に関わらず理解しあい、交流をはかるための場や方法を検討します。(外国籍住民との交流会、国際交流ラウンジと繋がる機会等) ● より身近な範囲で住民同士のつながりができるようにしていきます。また、困ったことがあった時に声をかけあいます。
<p>地域でこどもを見守り、安心して子育てができるまちを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ラジオ体操を継続します。国籍の異なるこどもたちとその家族等が参加しやすい方法を継続的に検討し、実施します。 ● こどもを見守り、支援できる取り組みを検討します。(子ども食堂や居場所との連携など) ● 赤ちゃん学級や子育て支援者による相談を周知します。より多くの住民が利用できるよう周知方法を検討します。
<p>認知症への正しい理解が進み、誰もが安心して地域で生活できるようなまちを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症サポーター養成講座を開催します。また、多くの方に参加してもらうための周知方法を検討し、実施します。 ● 企業、商業施設、店舗等でも認知症サポーター養成講座を開催することと併せ、認知症の方でも安心して買い物をしたり交流したりすることができる場や方法を検討します。 ● 介護予防の取組と交流をはかる場をつくっていきます。

第4期計画はこのようにつくりました

地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員等で構成される「第1地区中部中なかいいネ!推進会議」を年4回程度実施し、話し合いながら作りました。

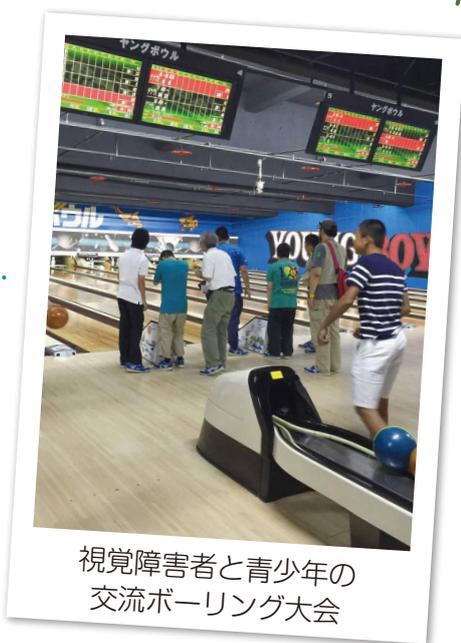


中学生の職業体験

nakanaka photo



ラジオ体操



視覚障害者と青少年の
交流ボーリング大会



取り組む理由

視点

- 感染症拡大の影響により、既存の交流の場が縮小・休止となっており、交流の機会をつくる必要がある。
- 以前と同様か、現状にあわせた新しい手法、担い手を検討する必要がある。
- 新しい住民も増えていくので、全ての地域活動の活性化に不可欠な顔を見知った関係を醸成する必要がある。
- 単身世帯が多く、困ったときにすぐに気づける関係づくりが必要。

えん結び

- 国籍の異なる子どもが多い地域特性がある。孤立して育児している地域住民も少なくない。
- 住居と商業地域が重なる。その中で家庭の経済事情や文化事情、(日本も含め)国籍の異なる子どもたちが共生し、安心、安全に育つことができるよう、その基本となる食を確保し、交流、食育等をすすめる必要がある。
- 子育て支援に関する情報のさらなる周知が必要。

えん結び
元気いっぱい

- 認知症への正しい理解をさらに広める必要がある。認知症サポーター養成講座開催をうまく周知できていない。
- お店でも、認知症の方への適切な対応方法がわからず、困る事がある。
- 介護予防グループが活動できていない。

えん結び
元気いっぱい

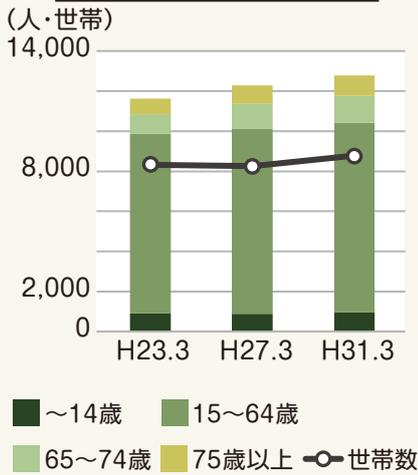
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

第1地区中部の統計データ

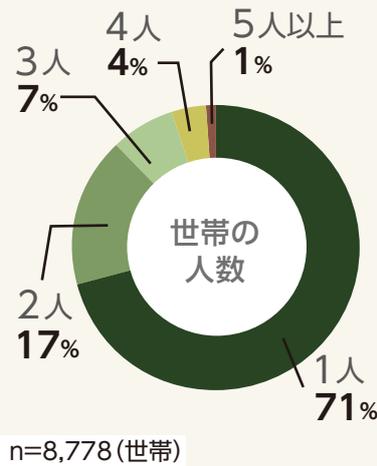
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	11,623	901	8,971	969	782	15.1	8,313	1.40
H27.3	12,284	887	9,237	1,234	926	17.6	8,255	1.49
H31.3	12,774	946	9,473	1,341	1,014	18.4	8,778	1.46

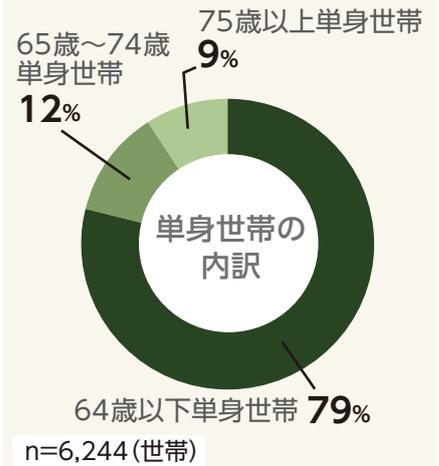
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)

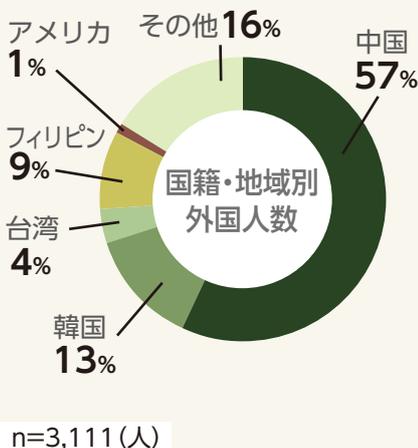


世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	8,626	6,022	69.8	707	523	271
H31.3	8,778	6,244	71.1	721	573	285
R2.3	9,172	6,638	72.4	738	604	302

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

地区内の外国人の状況 (H31.4現在)



国籍・地域	人数(人)	割合(%)
中国	1,780	57.2
韓国	404	13.0
台湾	143	4.6
フィリピン	269	8.6
アメリカ	23	0.7
その他	492	15.8

データから見た第1地区中部

総人口は増加しており、世帯数は平成27年にやや減少しましたが、その後、増加に転じています。単身世帯が総世帯の7割を占めており、単身世帯総数は、中区で一番多く、世帯平均人数は1.46人と区内では2番目に少なくなっています。また、単身世帯の8割は64歳以下が占めています。

高齢化率は18.4%と中区平均(23.4%)よりは、低くなっていますが、年々上昇してきています。

外国人数は、増加しており、人口に占める割合は23.7%と区内で一番高く、5人に1人以上が外国人です。町別では外国人の割合が50%を超えている町もあります。

外国人の国籍別では、中国が半数を超えていますが、韓国、フィリピンなども多く、その他の割合も多くなっています。



関内地区

5年後の目指す姿

「こんにちは」「コンニチハ」
笑顔が繋がるまち・関内



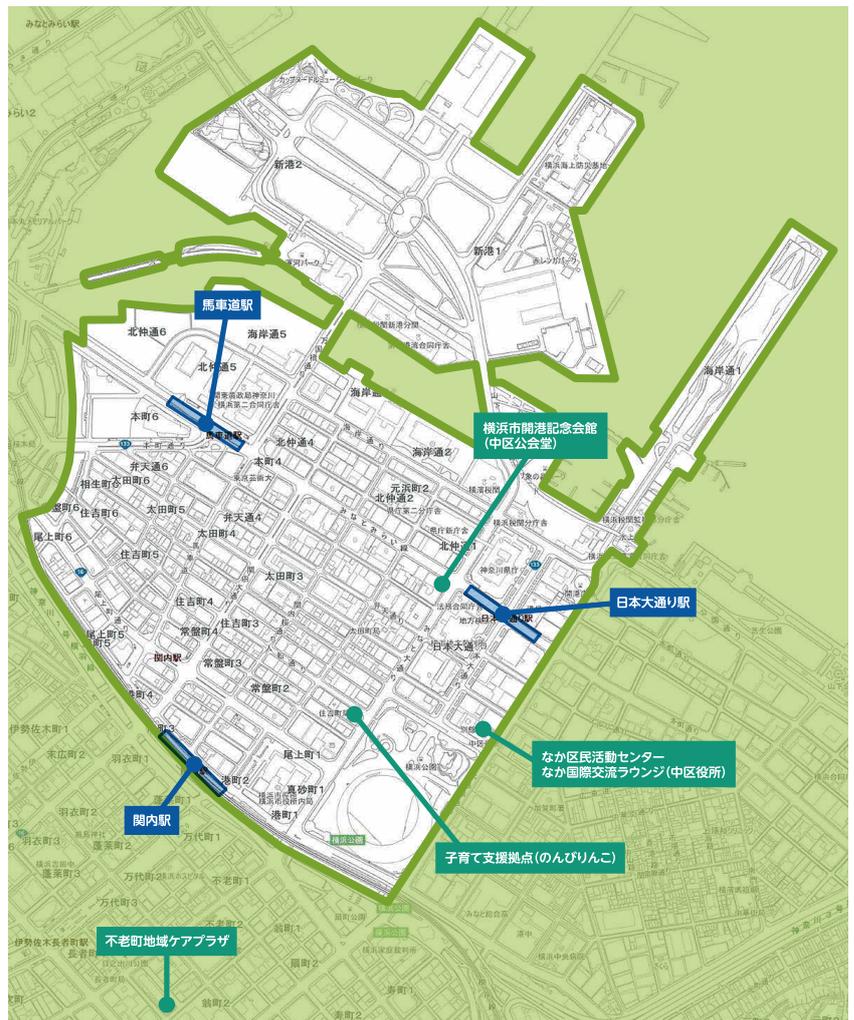
子ども防災ウォーク ▲



おしゃべりサロン ▲

関内地区はこんなまちです

横浜開港以来からの歴史のある街並みのある地域です。官公庁街や飲食店街、オフィスが多く、近年マンションが建築され、住民も増えてきています。山坂は少なく、昔ながらの建物も多く、観光スポットもたくさんある地区です。



相生町・太田町・尾上町・海岸通・北仲通・新港1丁目・新港2丁目・住吉町・常盤町・日本大通・弁天通・本町・真砂町・港町・南仲通・元浜町・横浜公園

nakanaka iinei!

これまでの計画(第3期)の振り返り

児童の保護者からの提案で、通学する子どもたちと親、地域の関係者が一緒に企画し、通学路で津波にあった際の避難場所を確認する「子ども防災ウォーク」が始まりました。津波の際の避難という住民の心配事が様々な人と共有され、新たな活動となりました。

「まちのクリーンアップ大作戦」として、関内地区の清掃活動を始めました。地域で活動していることが分かるようにお揃いのジャンパーで取り組みました。

「関内地区イベントカレンダー」を配布することで、関内地区で行われている様々な取組をお伝えし、人が集まるきっかけ作りが行われてきました。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>高齢者、子どもと子どもの保護者、障害のある方、外国人など様々な人とのつながりを作る取組をしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人が集まるきっかけ作りとなっている「関内地区イベントカレンダー」の取組を続けていきます。 ● 年代を超えて知り合うことができる「おしゃべりサロン」の取組を続けていきます。また、何気ない悩みなどを気軽に話せる場が増えるように取り組みます。 ● その時々課題を取り入れながら、「子ども防災ウォーク」の取組を続けていきます。
<p>企業、団体、学校や地域で活動している様々な人がつながって、交流する取組を行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● もちつき大会は、小・中学生も企画・運営に参加しています。子どもから大人まで地域の人が集えるイベントとして続けていきます。 ● 子どもから大人まで集まる場所となるよう、地域食堂に取り組みます。 ● 地域で活動している人同士が、知り合う機会を作っていきます。 ● 企業等と連携して「まちのクリーンアップ大作戦」を続けていきます。 ● 夏休み子どもラジオ体操やバーンゴルフは、体を動かしつつ多世代交流ができる健康づくりの取組として続けていきます。
<p>若い人も高齢者もみんなが自分の健康について考え、時には一緒に健康づくりに取り組んでいきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 北仲第2公園ラジオ体操のような定期的に開催する健康づくりの取組を続けていきます。 ● 脳と体の健康づくりの活動である「いきいきルンルン」を続けていきます。 ● 保健活動推進員が中心となって毎月1回ノルディックウォークに取り組みます。 ● 食を通して健康を考えると共に、人とのつながりができるような取組を始めます。 ● 健康を目的としていない集まりでも健康ミニ講座を実施し、全ての世代の人が健康を考えるきっかけを作ります。

第4期計画はこのようにつくりました

地区社協や民生委員、主任児童委員、保健活動推進員などで構成する「関内地区中なかいいネ!推進会議」で、2か月に1度、話し合いながら作りました。



まちのクリーンアップ大作戦



関内地区イベントカレンダー

nakanaka photo

取り組む理由

視点

- 新たな住居・住人が増えている中で、人が集まり知り合うきっかけを作りたいという声がありました。
- コロナ禍でも赤ちゃん訪問員や民生委員への訪問希望の声が多くあり、人と人のつながりが欠かせないことが分かりました。
- 地域活動に関わり続けることが難しい方も、子どもの時期や子育てをしている時期の一時でも地域活動に関わり、地域を知ること、何かあった時に助けを求めやすくなり、孤立予防につながります。

えん結び

- 学校関係者からも子どもたちが地域とつながれるイベントが大切であるとのご意見がありました。
- 住居以外に企業や商店も多い関内地区。様々な組織と交流しながら活動を広げている可能性があります。
- 地域で活動している人同士のお互いの顔はまだまだ見えにくい現状があります。

えん結び

- 健康については、若い人から高齢者まで考えてほしいことです。
- 一人暮らしの人の食生活が心配です。
- ノルディックウォーク等、生活習慣として継続的に運動に取り組む人が増えてきたので、今後も運動の取組を継続していきたいです。

えん結び
元気いっぱい

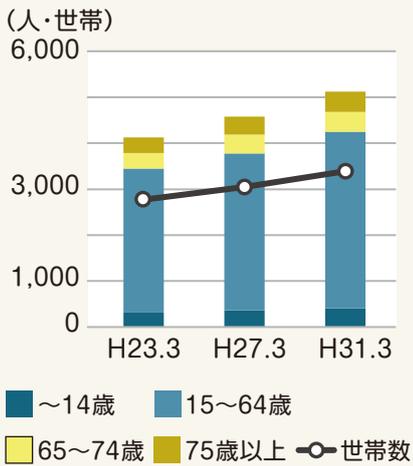
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

関内地区の統計データ

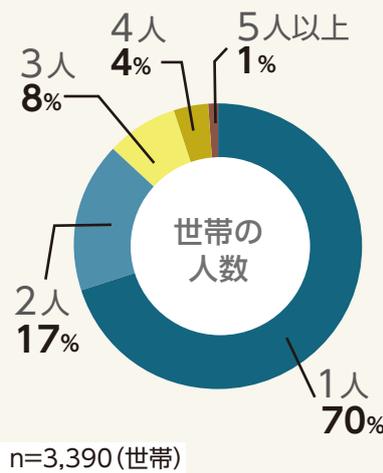
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	4,122	317	3,130	337	338	16.4	2,771	1.49
H27.3	4,575	361	3,413	410	391	17.5	3,043	1.50
H31.3	5,125	407	3,840	435	443	17.1	3,390	1.51

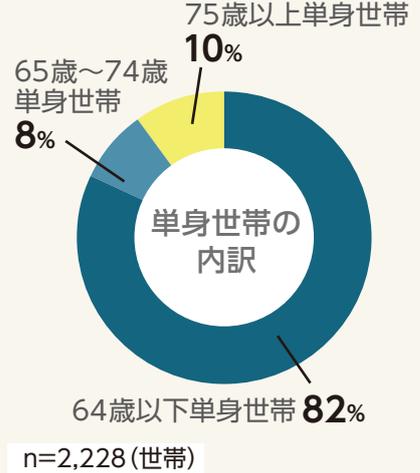
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	3,267	2,124	65.0	160	211	158
H31.3	3,390	2,228	65.7	174	220	156
R2.3	3,763	2,364	62.8	199	226	173

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	153	3.1
1年未満	550	11.2
1年以上5年未満	968	19.8
10年以上20年未満	884	18.0
20年以上	192	3.9
居住期間「不詳」	1,501	30.6

地区内の外国人数

(中区外国人数基礎調査より)

調査年	外国人数(人)	外国人比率(%)
H28.4	270	5.9
H31.4	339	6.6

データから見た関内地区

人口、世帯数とも年々増加しており、平成23年に比べ1.2倍となっています。勤労世代の人口割合が75%を占め、高齢者の割合は17.1%と区内では一番少ない地区です。

世帯構成をみると、7割が単身世帯で4人以上の世帯は5%に過ぎず、単身世帯の8割は勤労世代であり、その数は増加しています。住民の居住年数では出生時から住んでいる割合は3%と少なく、他地域から流入してきた住民がほとんどであることがわかります。

住民の多くはマンション、集合住宅に居住しており、今後も新たな集合住宅の建設により、人口、世帯数とも増加傾向が続くと思われます。

地区内の外国人数が少なく、割合は高くはありませんが、増加傾向がみられます。



埋地地区

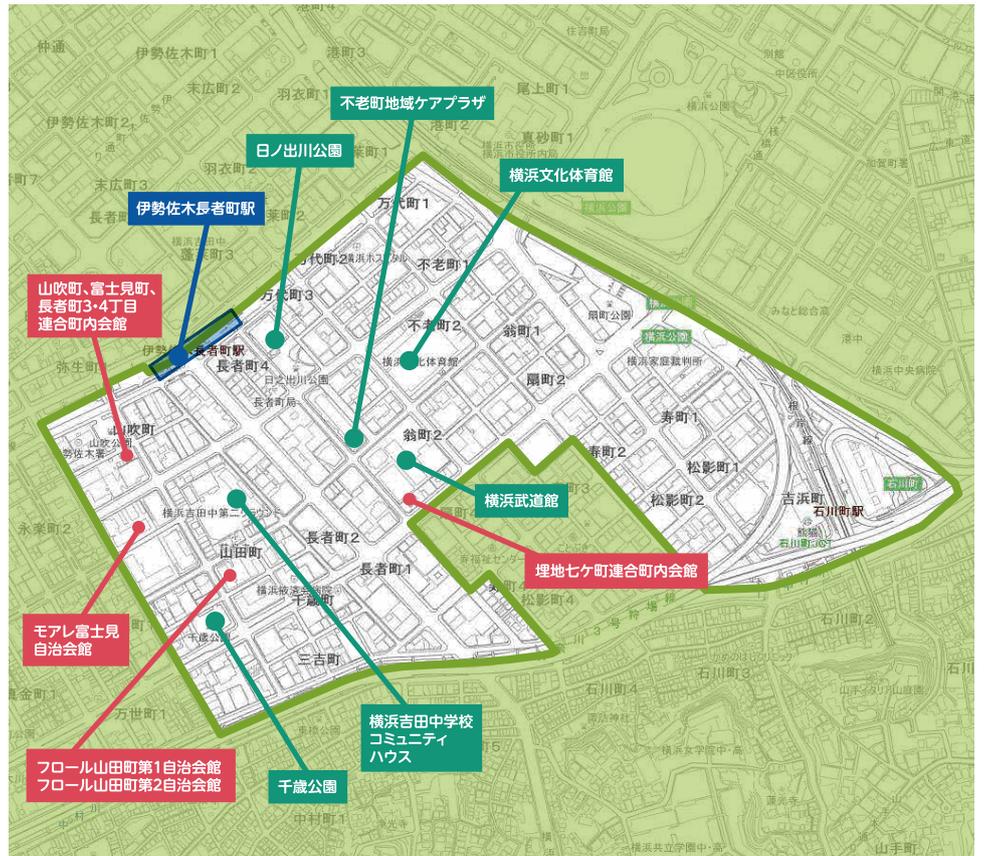
5年後の目指す姿

みんなが集う“夢”や“希望”が持てるまち



埋地地区は こんなまちです

今から約350年前、吉田勘兵衛氏による干拓事業により埋め立てられた地であることが、地区の名前の由来になっています。集合住宅と商業系ビルが林立し、交通の便が良く、暮らしやすい町です。また、新アリーナ、大学キャンパスの設置も予定されており、新たな魅力も加わります。近年、単身世帯数、外国籍居住者数の増大などがあり、顔のみえる関係づくりのための取組を進めています。



翁町・千歳町・万代町・富士見町・不老町・山田町・山吹町・吉浜町・扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部



これまでの計画(第3期)の振り返り

イベントや防災訓練を多言語で周知し、外国人も参加しやすいようにしました。

多言語による周知に取り組むことで、子どもや外国人のイベント参加が増え、様々な人たちの交流の場が増えました。

ラジオ体操では、子どもがお手本になり活躍してくれました。

新たな掲示板が設置され、地区の活動を周知する機会が増えました。

第4期計画

目標	第4期の取組
幅広い年代、様々な国籍の人同士が顔見知りになり、つながることができるまちにしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ● もちつき大会等を通して、地域に関わる人同士の交流を深めます。 ● 幅広い世代が楽しんで交流できる「埋地さろん」の取組を続けていきます。 ● 近所の人と顔見知りになることが、いざという時の助け合いにつながることを様々な場で伝えていきます。 ● 防災訓練やイベントの開催を多言語でお知らせしていきます。 ● 外国人と交流を図ることを目的とした講座(外国語を学ぶ教室等)の開催を検討します。
住民同士の交流の場を活用し、健康に対する意識を高めていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ● まちの歴史や伝統を知ることができ、様々な人と交流を深められる「歩け歩け大会」を続けていきます。 ● 誰でも参加でき、様々な人が一緒に健康づくりに取り組めるラジオ体操を続けていきます。 ● 「埋地さろん」等の人が集まる場で健康に関する情報を伝えていきます。 ● 認知症予防を含めた介護予防の取組を進めます。
企業・学校等に地域のイベントを通じた交流を働きかけていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在取り組んでいる「昔遊び」を充実させ、子どもに関する取組を学校や企業と共に取り組みます。 ● 地域には小・中学校はありませんが、地域の子どもたちが通う学校とのつながりがもてるよう検討します。

第4期計画はこのようにつくりました

連合町内会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員等で構成される「埋地地区中なかいいネ!推進会議」で、2か月に1度話し合って作りました。計画作成にあたり、地域の良いところや、困りごとについて意見を出し合い、今後の地域の取組を考えました。

nakanaka photo



取り組む理由

視点

- 集合住宅が多く、地域活動への参加率が低い。
- 閉じこもりがちな人が出かけられる場が必要。
- 地域に関心を持つきっかけになる集まりがあるとよい。
- 外国人が多いため、交流することでお互いを理解し合えるとよい。(なか国際交流ラウンジとの協力も継続する)
- 外国人の参加を待つだけではなく、積極的に交流する場も必要。
- 中学生が参加できる活動も必要。

えん結び

- 外国人が多いので交流することでお互い理解し合える健康づくりの取組があるとよい。
- 要支援者が多い地域なので、高齢者の介護予防の取組が必要。
- 誰もが参加できているラジオ体操等の活動を活かしていく。

元気いっぱい

- 企業・商店が多い地区であるため、活動や行事を一緒に取り組める関係性がもてると良いのではないかと。
- 「子どもの遊ぶ場所が少ない」、「子どもに様々な体験をさせてあげたい」との意見がある。
- 小学校は南区、中学校は第一地区中部となるため、学校との連携が難しい。

えん結び
その他

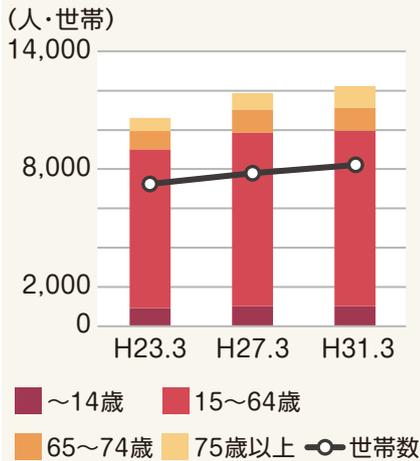
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

埋地地区の統計データ

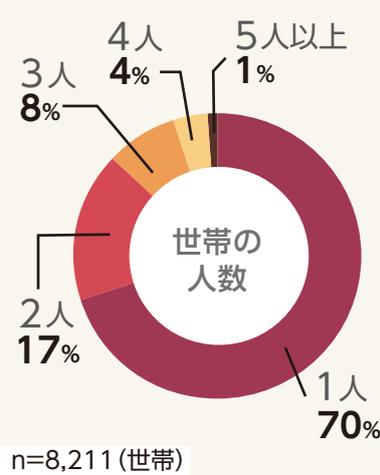
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	10,609	929	8,089	928	663	15.0	7,247	1.46
H27.3	11,884	1,027	8,845	1,168	844	16.9	7,803	1.52
H31.3	12,229	1,011	8,954	1,175	1,089	18.5	8,211	1.49

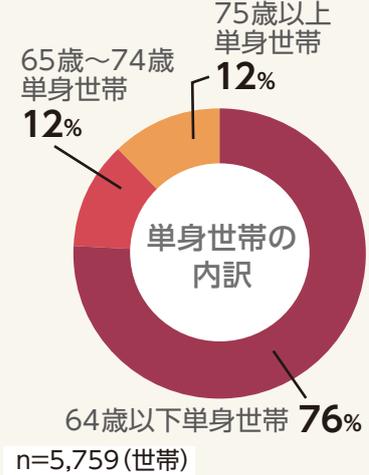
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)

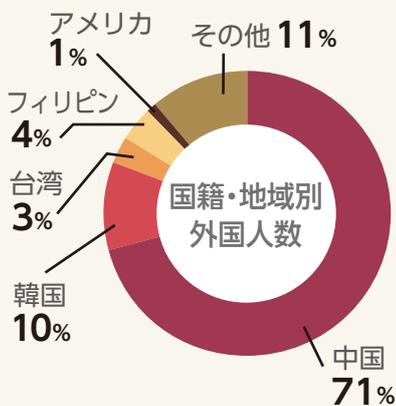


世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	8,014	5,479	68.4	690	586	231
H31.3	8,211	5,759	70.1	687	674	255
R2.3	8,278	5,828	70.4	686	705	282

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

地区内の外国人の状況 (H31.4現在)



国籍・地域	人数(人)	割合(%)
中国	2,582	70.8
韓国	353	9.7
台湾	129	3.5
フィリピン	156	4.3
アメリカ	36	1.0
その他	391	10.7

データから見た埋地地区

人口、世帯数とも増加しています。15～64歳の人口割合は71%を占めています。また、単身世帯の割合も高く、勤労者の単身世帯が多い地域です。

高齢化率は18.5%と区平均の23.4%を下回っていますが、年々増加してきています。また、要介護認定率も23.9%と高くなっています。

外国人数は3,647人と区内では一番多く、その割合も約2割となっており、地区内の5人に1人が外国人となっています。国籍・地域別では、中国が7割ですが、韓国、台湾、フィリピン等、多国籍の住民が多くなっています。外国人の割合が5割を超えている町もあります。



寿地区

5年後の目指す姿

寿に住んでいる、寿で育ったと、堂々と言えるまち
～寿はたがいに受け止め合い支え合う～



七夕まつり ▲



みんなの運動会 ▲

寿地区はこんなまちです

寿町を含む約0.06km²の範囲に120軒以上の簡易宿泊所が密集している地域で、約5,700人が宿泊しています。最盛期には、8,000人以上の労働者達でにぎわった寿地区も住民の高齢化と生活保護を受給する人が増加し、「福祉ニーズの高いまち」へと変容しています。令和元年には、横浜市寿町健康福祉交流センターがオープンし、高齢化に対応した交流や防災の取り組みを進めています。



扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部

これまでの計画(第3期)の振り返り

「コトブキンちゃんのとてくてく健康マップ」の作成は、健康づくりのための基本となるウォーキングと健康のバロメーターにもなる血圧測定、困ったときの相談窓口を総合した内容で、大変効果的な啓発媒体となりました。作成過程では、子どもの頃から寿町に慣れ親しんできた若い世代との共同作業による交流も生まれました。

みんなの運動会等の季節ごとのイベントは、多世代交流の場となり、地域の連帯感や団結力が深まりました。

久保山納骨堂や千秋の丘への慰霊は、寿地区と故人のつながりを保ち続けることであり、現在住む人々の安心感にもつながっていきます。

住民が手軽に情報を発信し、入手できる掲示板を設置しました。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>住んでいる人、住んでいた人、働く人、訪れる人などまちに関わる人が人とのつながりを感じられるまちにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まちの中で気軽に人とつながることが出来る場所や取組を多様にすることで、ひとりひとりが居心地の良さや生きがいを感じられるようにします。 ● つながりの場の運営者同士もネットワークを持ち、取組情報を共有します。 ● 寿地区に暮らす人のつながりを絶やさぬよう、久保山納骨堂や千秋の丘への慰霊を続けます。 ● ゆめ会議等、寿地区に関わる子ども、高齢者、障害者、働く人の現状を共有し、支えあうまちづくりを進めます。
<p>日常的な健康づくりを続けると共に、認知症等の病気になっても住みやすい地域づくりに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3期計画で作成した「コトブキンちゃんのとてくてく健康マップ」の更新を検討していきます。 ● ラジオ体操などの習慣的な健康づくりの取組を続けていきます。 ● 認知症の理解と予防について啓発を進めると共に、認知症になっても暮らし続けられるまちになるよう、人とのつながり作りを中心に取組を考えていきます。
<p>寿地区に関わる人に地区のことや役立つ情報を伝えていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 掲示板に寿地区での取組や健康のことなど役立つ情報を掲示します。 ● 病気や障害、防災等の寿地区に関わる人が知っているという良い情報を集め共有していきます。

第4期計画はこのようにつくりました

自治会や地区社協、民児協など地域に関わる人が集まる「ゆめ会議」(毎月開催)で、意見交換をしながら作りました。

!! nakanaka photo



マスク着用啓発キャンペーン



ことぶき福祉まつりのお太巻き



取り組む理由

視点

- コロナ禍ということもあり、気軽に話したり、のんびりしたりできる交流の場や取組が減ってきていると感じる。交流は、心の健康にもつながるので、様々な場があるとよい。引きこもりがちな人もいて心配がある。
- 困りごとを抱える人が、一時的に駆け込める場所も必要。
- 様々な人が関わり、「寿地区」を作っている。

えん結び

- 運動不足になりやすい状況が多く、日常的な運動習慣が必要。
- 健康づくりには、早期に相談や治療をすることが大切。
- 住民の高齢化が進み、認知症の方が増えてきていると感じる。道で迷っている人も見かけることがある。

元気いっぱい

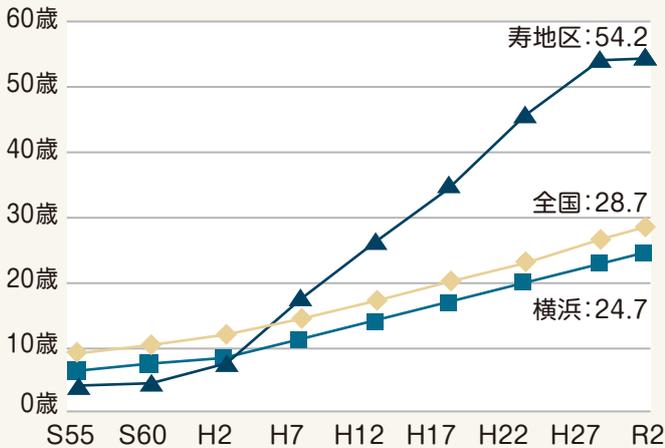
- 第3期計画で設置した掲示板をもっと活用したい。
- 地区で行われている様々な取組を知らない人もいる。
- 住民の健康意識が高いので、相談場所や健康に関する正確な情報を伝えられると一人一人の健康づくりが進むのではないかな。

えん結び
元気いっぱい

えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

寿地区の統計データ

65歳以上人口比率(高齢比率)の推移



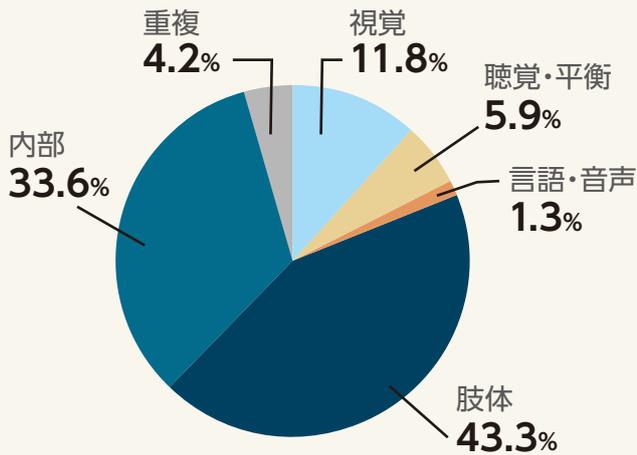
令和2年 要介護者数調査の結果

区分(介護度)	要介護(人)	要支援(人)	計(人)
5	45		
4	82		
3	186		
2	323	120	
1	175	56	
計	811	176	987

うち65歳以上計 911人

令和2年 障害種別内訳の割合

1～3級身体障害者手帳保持者 238人の内訳



データから見た寿地区

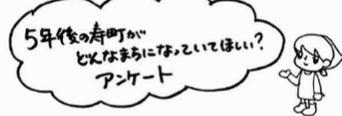
令和2年11月時点で簡易宿泊所に5,859人が宿泊しており、ほとんどが単身世帯です。

高齢化率は50%を超えており、そのスピードは全国、横浜市全体を大きく上回り、平成に入ってから急激に高齢化が進んでいます。高齢者の中でも75歳以上が3割以上を占めています。

要介護認定を受けている住民は987人で、高齢者全体に占める割合は28.6%となっています。また、1～3級の身体障害者手帳保持者は238人です。要介護者や障害のある住民も多い「福祉二 zonesの高いまち」といえます。(データ出典:「横浜市寿福祉プラザ相談室令和2年度業務概要」)

寿地区 ちょっと紹介

アンケートを実施したり地区のウォーキング・生活マップを作ったりしています



☆ごあいさつ
寿町では毎月、寿町にかかわっている事業者の方や町民を招いている福祉相談所の方などで、若狭区で、できることを話し合ったり、情報共有したりする「ことなかれ会議」が行われています。
最近、新しい住民の方や新しい世代の方が行き来するようになり、改めて会議で話し合うことを考えていきたく、アンケートをする運びとなりました。ぜひ、ご協力をお願いします。

- ☆今までのとり組み
- ① 住民さんが気軽に健康相談できるようになるという、相談しやすい場所(相談コーナー)を設置し、お散歩を楽しみながら通えるような施設を作りました。
 - ② 町民や事業者など寿町の方の健康維持や福祉相談が必要だな、という声から、定期的に健康相談を実施しました。

アンケートは無料で、答えられることを願っています。

石川打越地区

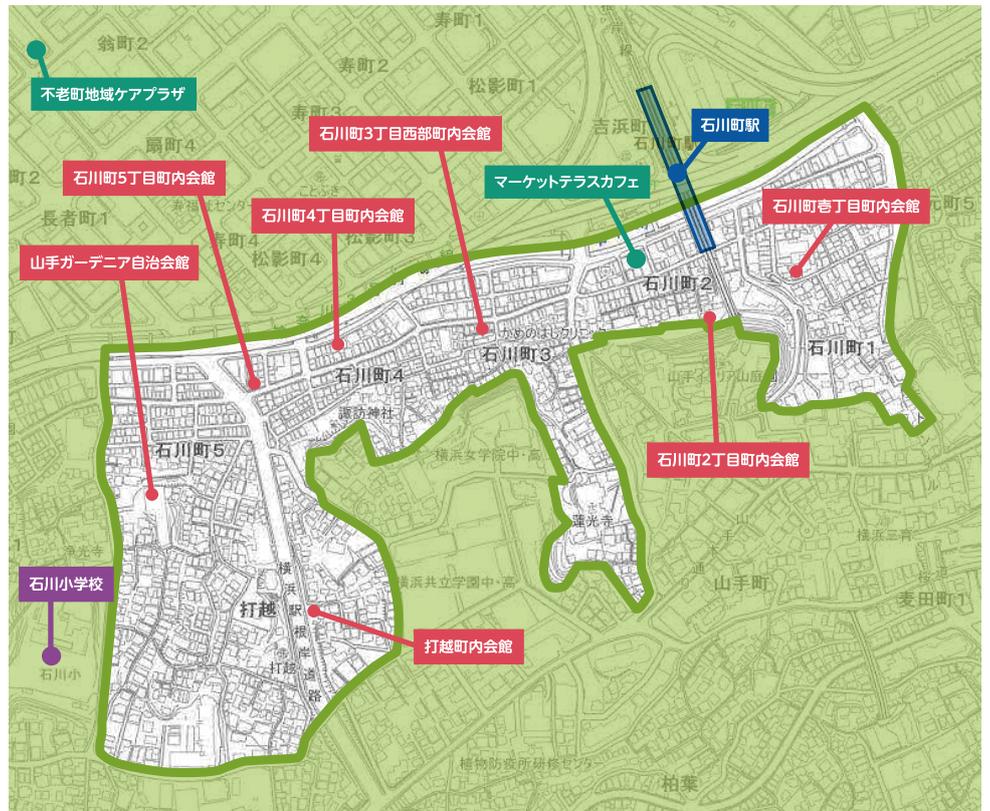
5年後の目指す姿

住んでいる皆さんの支え合いや、助け合いが活き、
幸せだなあと感じられるまち



石川打越地区は こんなまちです

住宅地、商業地として発展してきた地区。通りを歩けば親しみやすい下町風情が感じられます。地域の結びつきが強く、地域活動が活発に行われています。地藏坂、牛坂、遊行坂など、急な勾配が多く坂のまちの一面もあります。



石川町・打越

nakanaka iinei

これまでの計画(第3期)の振り返り

健康会食会、ふれあいサロン、老人クラブ、バス旅行等の様々な活動を通じて地域住民の交流や見守りを進めてきました。

第2期計画から発行したイベントカレンダーは、発行を継続しており、より充実した内容となりました。地域の行事や活動内容を周知し、新たな参加者の増加に繋がりました。

第3期計画の初年度にあたる平成28年から夏休みのラジオ体操を開催し、年々、参加者が増え、子どもから高齢者までの幅広い世代の方が参加し、地域の子どもと顔の見える関係づくりが進んでいます。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>事業を通し、人々の繋がりを作り、健康寿命を伸ばします</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 見守り交流事業である「健康会食会」、「ふれあいサロン」、「ほっと石打」、「スイーツ会」の開催を増やし、住民の繋がりづくり、健康づくりの機会を増やします。 ● 特に「スイーツ会」に重点目標をおき、老人会、保健活動推進員、友愛活動推進員の活動場所とします。 <p>具体的計画 (年間の実施回数と参加・利用人数の目標)</p> <p>①健康会食会…年6回/各50人 ②ふれあいサロン…年12回/各25人 ③ほっと石打…年12回/月1件 ④スイーツ会…年12回/各15人</p>
<p>地域の大人と子どもの交流から、大切な絆を作ります</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流事業(観劇会・ラジオ体操)については、参加者の倍増を目標とします。 ● ラジオ体操については、地理的な条件に課題があり、今後検討していきます。 ● 納涼フェスタを今期の重点とし、子どもの関係機関や商店街と協力して子どもを中心に世代間交流を進めていきます。 <p>具体的計画 ①バス旅行…年1回/100人 ②観劇会…年1回/70人 ③納涼フェスタ…年1回/200人 ④ラジオ体操…年7回/各50人</p>
<p>防災は、自助、共助、公助から</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の消火活動、防災拠点運営の充実を目指します。日々の防災に対する認識に加えて、室内における災害対策(家具転倒防止、感電ブレーカーの設置など)の充実を推奨していきます。 ● 商店街の防災訓練参加の協力をすすめます。 ● 防災拠点運営の班編成の変更など5か年計画を試作します。 <p>具体的計画 ①拠点運営…年1回/120人 ②防災フェスタ…年1回/100人 ③危機管理委員会…年1回/10人</p>
<p>地域の情報を住民に もれなく届けます</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の広報活動を維持し、いろいろなテーマの記事を掲載していきます。 <p>具体的計画 ①イベントカレンダー…年4回発行/2000枚 ②広報いしうち…年4回発行/2000枚 ③防災マップ</p>

第4期計画はこのようにつくりました

連合町内会、地区社協、民生委員・児童委員、スポーツ推進委員、青少年指導員等で構成される「石川打越地区中なかいいネ!推進会議」で意見交換をし、作業部会(計3回)と全体会(計2回)を開催し、アドバイザーの意見も取り入れ、長期計画と5か年計画を策定しました。



取り組む理由

視点

- 見守り・交流事業には具体的な数字の目標を設定しました。
- 「スイーツ会」の運営については、今後皆さんの意見をいただいて、充実した内容を検討する必要があります。
- 「ほっと石打」について、今後一緒に検討していきます。
- 新たに老人会や保健活動推進員、友愛活動推進員が活動する場所を考える必要があります。

えん結び
元気いっぱい

- 商店街の裏フェスと町内会の夏祭りに絡んだイベントや、数少ない子どもを中心とした内容に取り組みます。
- 盆踊りの常設に向け、様々な課題の検討が必要です。
- 子どもを主としたイベントの開催を増やし、親子3世代の交流の場を増やす必要があります。
- 新たに高齢者も参加できるように、運動会やアスレチック・ゲームの開催を取り入れます。

えん結び
元気いっぱい

- 屋内における防災対策が不透明なため、感震ブレーカーや家具倒壊防止器具設置の推奨を図る必要があります。

その他

- 地域の情報を住民間で、共有できる広報体制が必要です。

えん結び
元気いっぱい

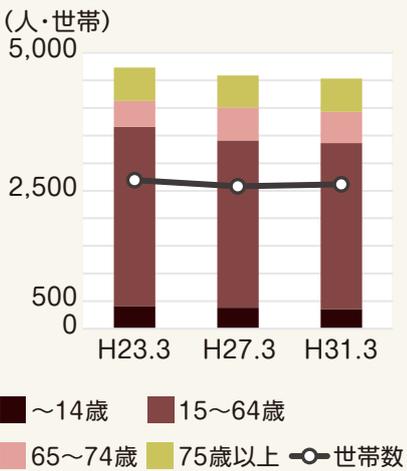
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

石川打越地区の統計データ

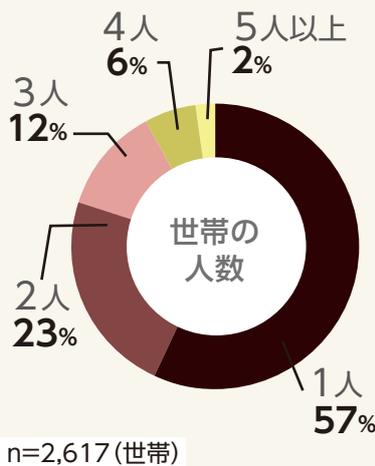
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	4,732	410	3,246	472	604	22.7	2,693	1.76
H27.3	4,589	382	3,031	595	581	25.6	2,581	1.78
H31.3	4,533	359	3,004	565	605	25.8	2,617	1.73

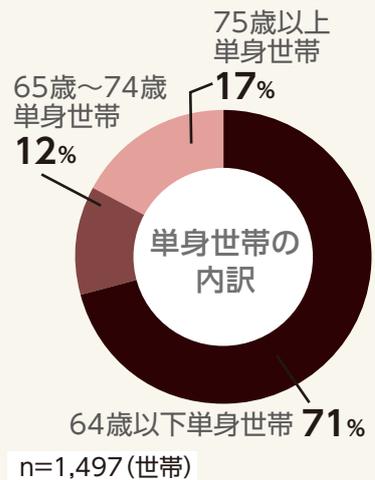
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	2,603	1,456	55.9	186	244	189
H31.3	2,617	1,497	57.2	175	263	199
R2.3	2,665	1,570	58.9	187	265	193

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	522	11.9
1年未満	197	4.5
1年以上5年未満	555	12.6
5年以上10年未満	455	10.3
10年以上20年未満	673	15.3
20年以上	1,020	23.2
居住期間「不詳」	977	22.2

地区内の外国人数

(中区外国人数基礎調査より)

調査年	外国人数(人)	外国人比率(%)
H28.4	383	8.4
H31.4	460	10.2

データから見た石川打越地区

人口は全体として減少傾向にあり、特に64歳以下の人口が減少しており、子どもの数も減少しています。反面、高齢者の人口は、やや増加しており、高齢化率も25.8%と年々高くなっています。

高齢者の単身世帯は、単身世帯全体の約3割を占め、高くなっています。また、65歳以上の2人世帯も多くなっています。

居住年数を見ると、20年以上の割合が高く、古くからこの地域に住んでいる住民が多いことがわかります。

外国人数は増加しており、全体の1割以上を占めていて、14歳以下の人口より多くなっています。

第2地区

5年後の目指す姿

多様な年代、国の人々がいきいきと暮らす
豊かで賑わいあるきれいなまち



第2地区は こんなまちです

元町商店街や中華街、山下公園などの観光地があり、開港の歴史や国際色豊かな文化が息づき、外国人も多く暮らしています。地域では異世代間の交流も盛んで、夏祭りなどでは子どもたちも活躍しています。

ふれあいサロンにおける高齢者の見守りや、健康づくりの活動も活発に行われています。



新山下一丁目・新山下二丁目・新山下三丁目・元町・山下町

nakanaka iinei

これまでの計画(第3期)の振り返り

ふれあいサロンを毎週実施し、敬老会やクリスマス会と活発に活動しました。また、利用者アンケートを実施し、開催方法の見直しと充実につなげました。

まちぐるみの健康活動等、健康づくりに率先して取り組みました。

外国人も住みやすいまちを目指し、多文化交流会の開催や夏祭り等の多言語広報に取り組みました。

夏祭りや餅つきに、若い世代を含め多くの方々が参加し、活躍できるよう工夫しました。

子育てや生活困窮など様々なテーマで勉強会を開催し、意見交換をしました。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>子どもから高齢者まで様々な世代がつながり支え合うまちにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ふれあいサロンや食事会などの集いの場所を大切に、参加者である高齢者と担い手がゆるやかに見守りあえる活動を続けていきます。 ● ひとり暮らしの高齢者を見守り支援につなげるしくみづくりや、見守りキーホルダーの普及を広げます。 ● みはらしポンテとの連携・交流、認知症サポーター養成講座などにより、障害や認知症について理解を広げます。 ● 夏祭りに向けた太鼓・盆踊りの練習、餅つき、山下町おとなりサンデーなどを通して、子どもや子育て世代を巻き込んでいきます。
<p>健康づくりの取組で地域の交流を広げます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ふれあいサロンの健康講座、ラジオ体操、健康麻雀、太極拳など、地域での多彩な健康づくりの取組を続けていきます。
<p>外国人も暮らしやすいまちづくりを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● なか国際交流ラウンジ「にじいろ探検隊」との連携を継続し、夏祭り等の行事の多言語広報などを進め、外国人の更なる地域参画を促します。 ● 多文化交流会の開催を通して、顔の見える関係づくりを進めます。
<p>きれいで安全、活気あるまちづくりを地域ぐるみで進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新山下運河の花いっぱい運動や近隣企業と連携した活気づくり、中華街クリーンアップ、各公園愛護会やハマロード・サポーター、通学路沿いの清掃など、自治会にとどまらず幅広く参加者を巻き込んだ取組を通して、まちをきれいにし、活気づけていきます。 ● 消防団活動や防災訓練への参加を一層広げます。

第4期計画はこのようにつくりました

偶数月の第4金曜日に「第2地区中なかいいネ! 推進会議」を定例で開催し、地区社協メンバーを中心に話し合いや情報交換を重ね、新たな取組も盛り込みました。

また、5年前に定めた目標の取組状況をアンケート形式で収集・把握することで第3期計画を振り返り、第4期計画の策定につなげました。

nakanaka photo



取り組む理由

視点

- 住民の高齢化に伴い孤立死等も発生しており、見守りを通じた地域のセーフティネットを構築する必要がある。
- 高齢者の社会活動の促進や担い手との交流を進める。
- 次世代の担い手の育成が必要である。
- 障害者や認知症の方にやさしいまちづくりを進める必要がある。

えん結び

- 地域では多彩な健康づくりの取組が活発に行われており、交流と健康寿命の延伸に取り組む。

元気いっぱい

- 人口に占める外国人の割合が高いため、外国人の地域への参画、日本人と外国人との交流を促すことで、安心・安全で豊かな地域づくりにつなげる必要がある。

えん結び

- 開港のまちの特色に恵まれたエリアとして、豊かな環境と地域資源を生かし、賑わいある美しいまちづくりを進める必要がある。
- 来街者の多いまちとして、安全と美しさを守るために多世代の協力が不可欠である。

元気いっぱい
その他

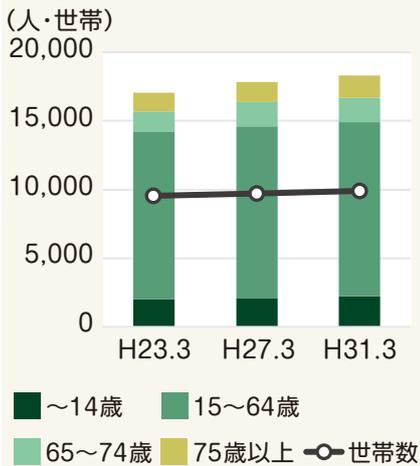
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

第2地区の統計データ

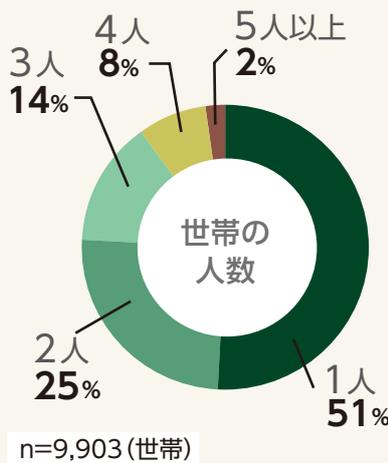
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	17,049	2,007	12,243	1,434	1,365	16.4	9,548	1.79
H27.3	17,836	2,093	12,527	1,756	1,460	18.0	9,719	1.84
H31.3	18,303	2,247	12,655	1,763	1,638	18.6	9,903	1.85

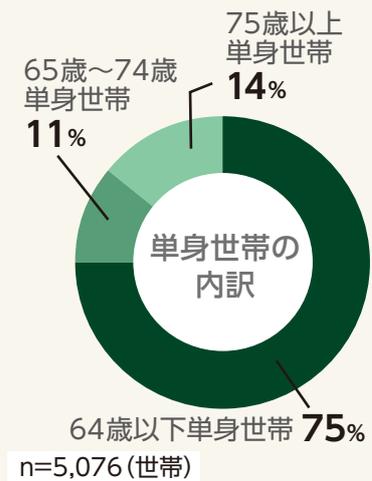
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	9,718	4,937	50.8	543	655	578
H31.3	9,903	5,076	51.3	562	692	609
R2.3	9,964	5,181	52.0	581	714	613

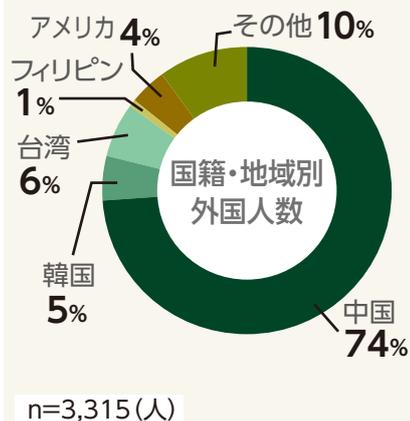
※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

外国人数の推移

(中区外国人数基礎調査より)

調査年	外国人数(人)	外国人比率(%)
H28.4	3,037	16.9
H31.4	3,315	18.1

地区内の外国人の状況 (H31.4現在)



データから見た第2地区

総人口、世帯数ともに増加傾向にあります。14歳以下の子ども数がやや増加しており、商業地が多い割には他地区に比べ子どもの割合も12.3%と高くなっています。

単身世帯の割合も高く、全世帯の半数以上が単身世帯となっています。

高齢化率は18.6%で中区平均(23.4%)を下回っていますが、高齢者の数は年々増加してきています。

外国人数は区内で2番目に多く、その割合も18.1%と高くなっています。外国人数、割合ともに増加傾向にあります。地区内に中華街があることも背景に、外国人の73.7%を中国籍が占めています。

第3地区

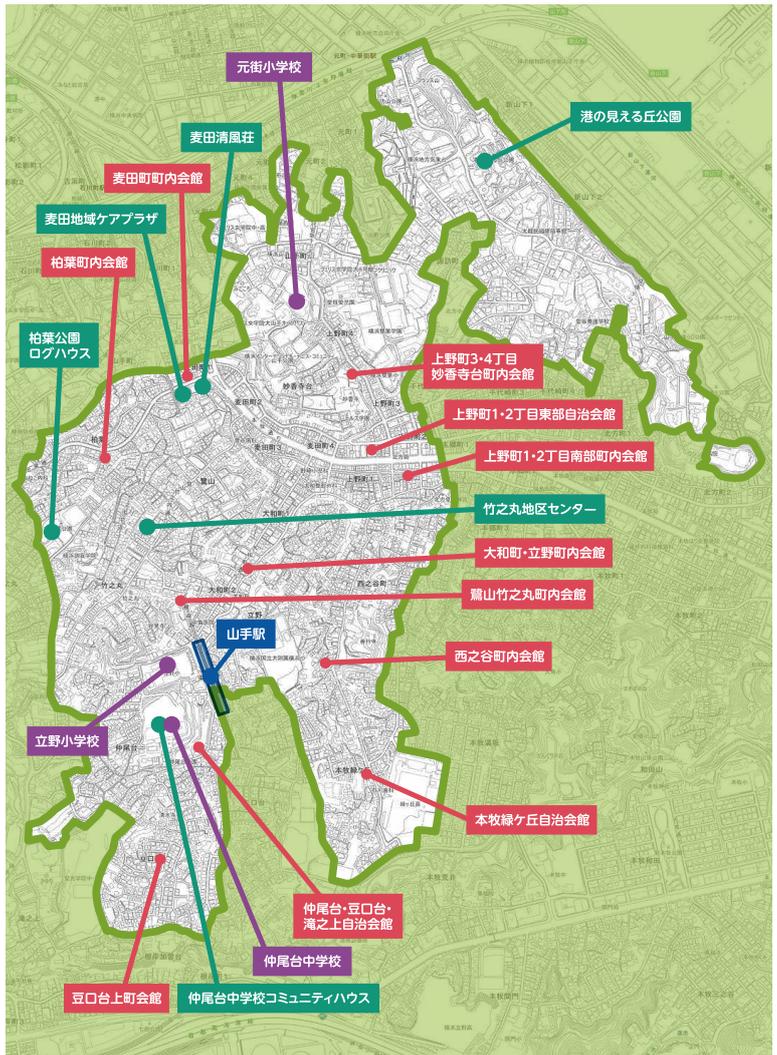
5年後の目指す姿

いろいろな世代が触れ合い、地域丸ごとのつながり強化で、
困りごとを解決できる第3地区



第3地区はこんなまちです

古き良き横浜の姿が今でも残る地域で、本牧通り沿いに商店が軒を連ね、その背後の丘陵地帯に住宅地が広がっています。長く住み続けている住民が多いため、少子高齢化が年々進み独居世帯も多くなっています。そのような中でも地域の繋がりを大切にして、ふれあいサロンや子育てサロン等福祉活動が多数活発に行われています。



上野町・柏葉・鷺山・竹之丸・立野・仲尾台・西之谷町・本牧緑ヶ丘・豆口台・妙香寺台・麦田町・大和町・滝之上・山手町の一部

これまでの計画(第3期)の振り返り

高齢者食事会・ふれあいサロン、子育てサロン等既存の事業継続に加え、平成30年10月より生活支援事業として、高齢者対象の「困りごと引き受け隊」事業が発足し、住民から好評を得ています。各自治会町内会でもサロンや健康クラブ等が盛んで、地域交流や健康づくりへの取組が活発に行われています。「元気づくりコンサート」も多世代に渡り好評を得ており、第3地区文化事業として定着してきています。運動会も58回を迎え、若いも若きも秋の一日を大いに楽しんでいます。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>こどもから高齢者まで、様々な世代のつながりと助け合いの機会を増やします</p>	<p>第3期までに取り組んだ事業を改善、継続していきます</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お楽しみ食事会(奇数月・第3水曜日) ● ふれあいサロン(毎月・第2木曜日) ● 西之谷読み聞かせ会(毎月・第1水曜日) ● むぎた子育てサロン(毎月・第4水曜日) ● 「困りごと引き受け隊」(常時依頼受付) ● 第3地区大運動会(10月第3日曜日) ● 第3地区元気づくりコンサート(10月第1日曜日) <p>身近な地域での「見守り・支え合い」活動を進め、定着を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地区社協の運営の課題の話し合い、基盤を強化 ● 自治会町内会単位での見守りの仕組みづくり <p>第3地区全体で運営体制の見直し整備を図ります</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な主体と連携・協働できるネットワークを作り、役割分担等を整備 ● 「身近な地域での見守り・支え合い活動」を進めるためのリーダーやサポーターの選出と育成、ボランティアの募集
<p>健康づくりの取組により、住民が元気で交流ができる第3地区にします</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会町内会別に、ラジオ体操がより交流の図れる場になるように取り組めます。 ● 色々なスポーツ等の同好者が集まって交流できるようにします。 ● 保健活動推進員主催の「第3地区歩こう会」をスポーツ推進委員、青少年指導員の協力も受け、第3地区の幅広い世代が参加できるようにします。
<p>地区社協や地区別計画を広く周知し、その実行のため第3地区のヨコの関係を強化します</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的に会報を配布し、事業への参加を呼びかけるとともに、住民の福祉意識を深めます。 ● 新規事業の導入につながるよう、参画する方に必要な研修を行い、理解を深めます。

第4期計画はこのようにつくりました

地区社協や自治会町内会長、民児協、ボランティアグループなどの代表で構成される「中なかいいネ! 第3地区プロジェクトチーム」を中心に、令和元年度に3回、令和2年度に2回のプロジェクト会議に加え、勉強会なども開催しながら作りました。

nakanaka photo



取り組む理由

視点

- 高齢者・子ども・保護者・障害者等とのつながり・見守りを図るため
- 地区社協の目的である一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくりを目指すため
- 居場所や交流事業の継続のため

- 新たな福祉・生活課題が増えているため、行政を中心とした的確な対策とともに、問題が深刻化する前に身近な地域で早期に発見し、予防的な視点も含めてサポートする総合的な体制が必要となっており、地域住民の参加と協力が不可欠となっているため

- 自治会町内会単位で「身近な地域での見守り・支え合い活動」に取り組みやすい環境を作るため

- ロコモティブシンドローム予防のため
- スポーツを通して地域の交流を進めるため

- 地域住民に第3地区福祉保健計画を知ってもらい、ボランティア等で関わる方を増やすため
- 第3地区内のイベント等を周知し、住民の参加を増やすため
- 自治会町内会長、民生委員児童委員等を中心に第4期計画の理解を促し、運営を強化するため

えん結び

元気いっぱい

その他

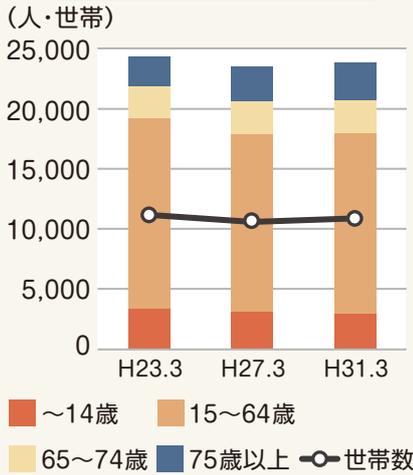
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

第3地区の統計データ

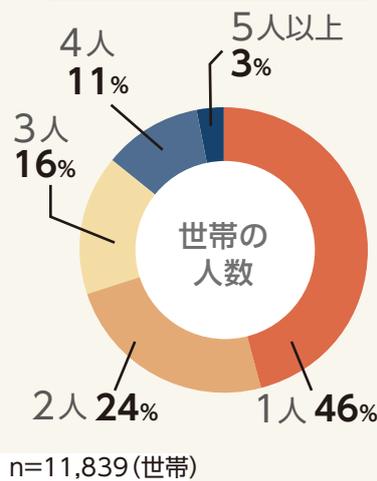
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	24,380	3,224	15,879	2,487	2,790	21.6	12,605	2.02
H27.3	23,502	2,988	14,909	2,737	2,868	23.8	11,389	2.06
H31.3	23,795	2,928	15,210	2,626	3,031	23.8	11,839	2.01

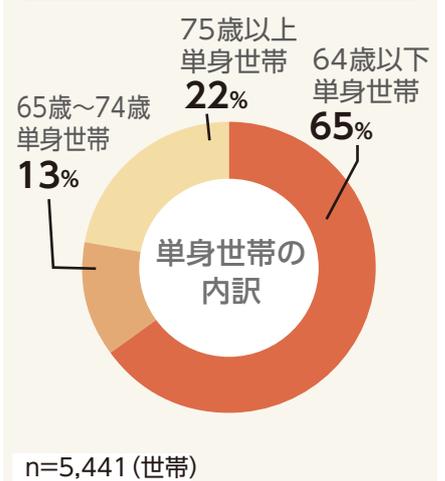
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	11,594	5,162	44.5	674	1,206	1,040
H31.3	11,839	5,441	46.0	689	1,222	1,030
R2.3	12,030	5,691	47.3	710	1,221	1,039

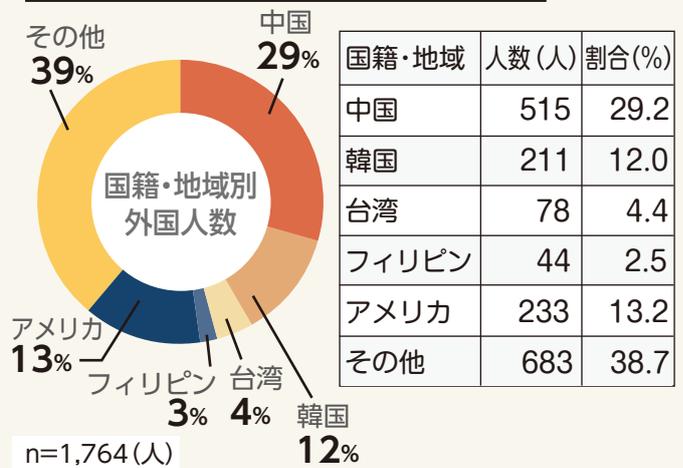
※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

地区の要介護高齢者の状況 (R2.9現在)

	高齢化率(%)	要介護認定率(%)	要支援の割合(%)	要介護の割合(%)
第3地区	23.93	21.94	4.19	17.75
中区平均	23.00	21.80	4.82	16.99
市平均	24.11	19.57	5.59	13.98

出展:横浜市健康福祉局資料

地区内の外国人の状況 (H31.4現在)



出展:中区外国人人数基礎調査より

データから見た第3地区

人口、世帯数とも区内で2番目に多い地区です。総人口、世帯数は減少傾向にありましたが、近年はやや増加に転じています。特に75歳以上の高齢者が増加しており、高齢化率も中区平均(23%)より高く、75歳以上の単身世帯も1,200世帯を超えています。また、65歳以上の二人暮らしの割合も他地区に比べ高くなっています。

要介護認定率も約22%となっており、人口も多いことから、介護を必要とする高齢者の数が多いことが分かります。

地区内の外国人の割合は8%程度ですが、他地区に比べて、米国、その他の国・地域の割合が高いことが特徴です。

第4地区南部

5年後の目指す姿

声がかけあえるまち
第4地区南部



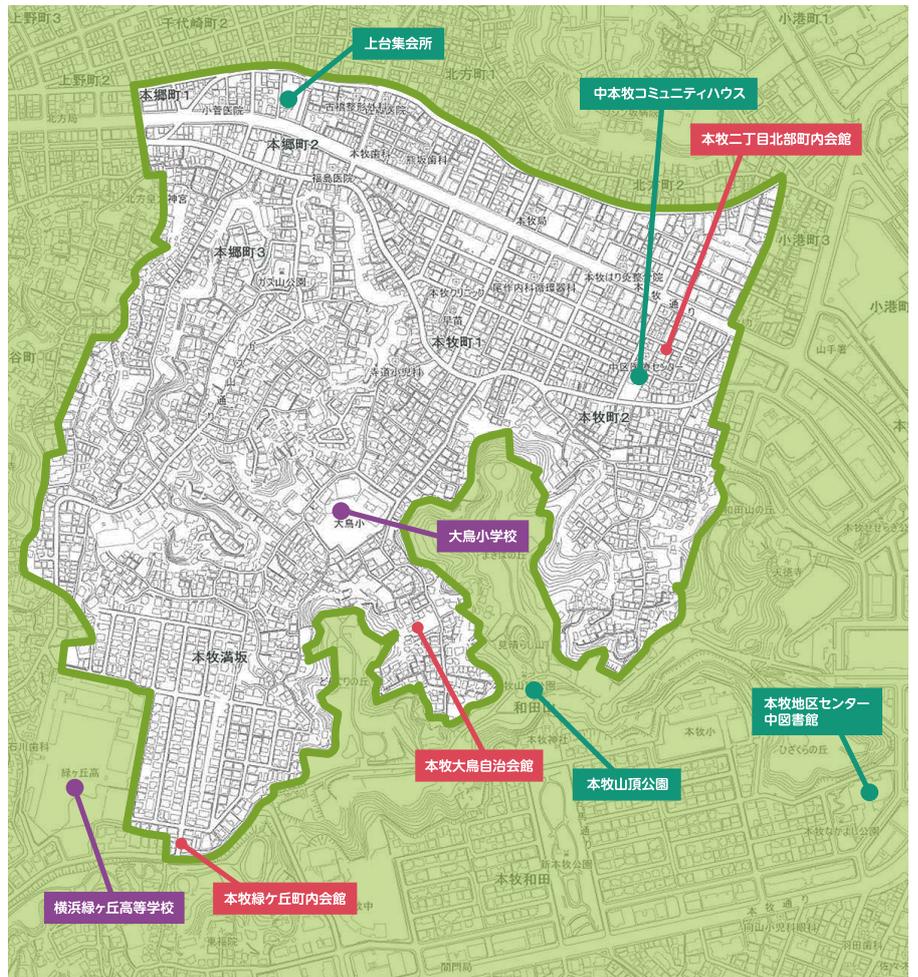
大運動会 ▲



Honmoku Halloween 仮装パレード ▲

第4地区南部は こんなまちです

開港前からの歴史と戦後のアメリカ文化の影響を受けた独特の本牧文化が形成されています。旧路面電車の通っていた本牧通りには現在では市営バスが頻繁に通る、住民の主要な交通機関となっています。また、急な坂や階段の多い住宅地と平地の商店街エリアからなり、住民が住んでいる場所の大半は丘陵地となっており、高齢者や障害者などの負担となっています。住民同士のきずなは深く、地域でのお祭りやイベントが盛んに行われています。



本郷町・本牧町・本牧満坂・本牧荒井の一部

nakanaka iinei!

これまでの計画(第3期)の振り返り

こどもから高齢者まで幅広い世代が参加するイベントを通して、多世代のつながりが深まりました。

横浜マリンFMやSNSなどの様々なツール、ミニサロンや食事会の集まりの場を通して必要な情報を必要な人に提供することができました。

より身近な範囲で、地域に密着したミニサロンや健康教室、防災の取組が進み、近隣住民のつながりが深まりました。



第4期計画

目標	第4期の取組
<p>もっと地域活動を知って、参加してもらって、地域のつながりを作ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● マリンFMやSNSなど様々な情報媒体を活用し、地域情報を伝えていきます。 ● 地域活動の担い手が減っている中で、負担感なく活動できるよう、方法を工夫して、交流する機会を持ち続けていきます。 ● 活動している団体同士が連携し、お互いの利点を生かした活動をしていきます。
<p>誰もが声をかけ合えるまちにしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民や地元企業を対象に認知症の理解を深めてもらい、認知症になっても暮らしやすいまちにしていきます。 ● より身近な範囲での住民同士のつながりを目指し、サロン等を行います。 ● 企業と住民が連携し、ゆるやかに見守る地域づくりに取り組みます。 ● 防災訓練やイベント等に障害のある方や外国人などいろいろな人が参加できるよう声をかけます。 ● 身近な生活環境を良くするよう声をかけあって考えていきます。
<p>一人一人が自分に合った健康づくり・つながりづくりを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多世代が参加できるふれあいウォークや大運動会等で、健康づくりを進めます。 ● 日ごろからウォーキングやラジオ体操等、身近な場所で、誰もが健康づくり・つながりづくりに参加できる機会をつくります。

第4期計画はこのようにつくりました

「本牧4南元気なまち運営委員会」でグループワークやアンケートを実施し、地域活動を振り返りました。また、令和2年度に開催されたいきいきゼミナール(計3回)の意見も参考にしました。



Honmoku Halloween 仮装パレード

nakanaka photo



取り組む理由

視点

- LINEなどの新しい情報ツールの活用が始まっている一方、個々の活動が知られていないため、ひとりひとりに情報を伝え、広げていきたい。
- 活動の担い手や参加者が減っている。活動内容を見直すことも必要。
- イベントを通して仲間を作ることで、お互いに元気であるかを気づかいあえる。
- 子どもから大人まで交流できるようになるとよい。
- 活動している団体同士で連携できるところもあるのではないかな。

えん結び

- 認知症の理解が進んできた。
- 地域のラジオ体操やミニサロン等でゆるやかな見守りが行われている。
- 困ったことを助け合える地域になるとよい。
- 全ての人が、顔見知りになっているとよい。
- 地域でこどもを育てる環境になるとよい。
- まちの美化に取り組みたい。

えん結び

- 地域のラジオ体操やウォーキングを通じて、近くの人と知り合えるとよい。
- 幅広い世代が交流できるイベント、防災や集まって行う健康づくりの取組に力を入れたい。

元気いっぱい

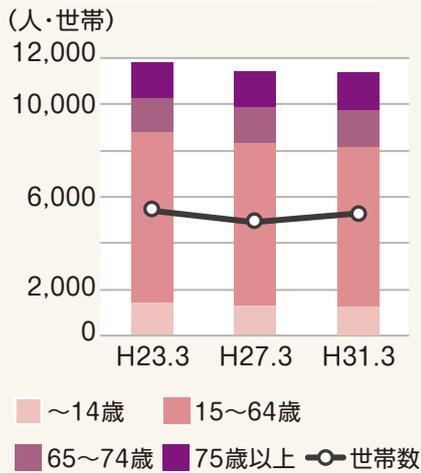
えん結び…見守り力を高める取組 元気いっぱい…健康づくりの取組

第4地区南部の統計データ

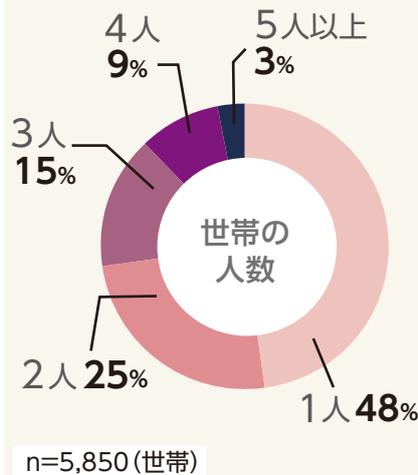
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	11,767	1,367	7,540	1,313	1,547	24.3	5,944	1.98
H27.3	11,368	1,256	7,031	1,567	1,514	27.1	5,659	2.01
H31.3	11,348	1,183	7,018	1,507	1,640	27.7	5,850	1.94

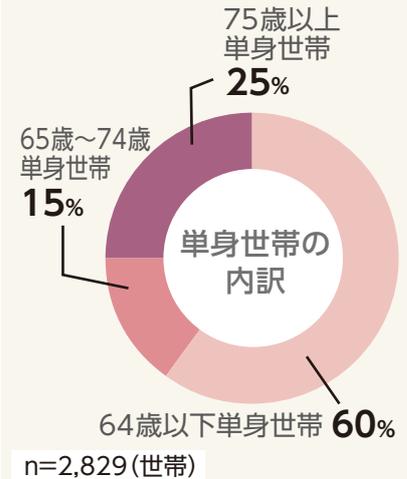
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	5,785	2,710	46.8	451	668	545
H31.3	5,850	2,829	48.4	437	692	559
R2.3	5,980	2,911	48.7	453	704	576

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	1,149	10.4
1年未満	545	4.9
1年以上5年未満	1,588	14.4
5年以上10年未満	1,360	12.3
10年以上20年未満	1,818	16.5
20年以上	2,793	25.3
居住期間「不詳」	1,770	16.1

データから見た第4地区南部

総人口は、平成27年からはほぼ横ばいですが、75歳以上の高齢者が増加しています。高齢化率も中区平均(23.4%)より高く、今後も上昇すると思われます。また、高齢者の単身世帯が多く、65歳以上の2人暮らしの世帯を加えると、全世帯の約3割が高齢者のみの世帯となっています。

住民の居住年数を見ると、20年以上という割合が高く、長くこの地区に住み続けている住民が多いことが分かります。

令和元年の区民意識調査では、「自治会町内会への加入」について回答者の75.2%(n=109)が加入していて、地域活動への参加率も他地区に比べ、高い割合を示しています。

第4地区北部

5年後の目指す姿

こどもたちの「ふるさと」になるまち
～安心して住みやすい 誇れるまち～



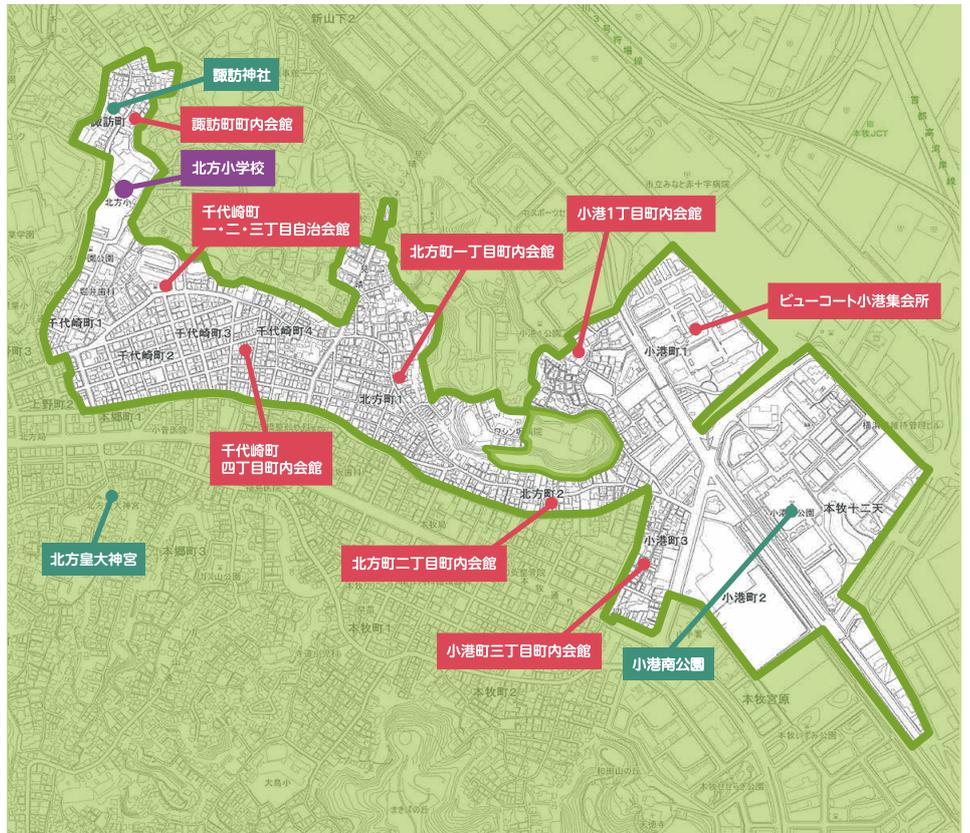
千代崎四囃子連 ▲



子育てサロン「ひだまり」 ▲

第4地区北部は こんなまちです

坂の多い丘陵地から海辺の埋立地へと東西に広がり、昔ながらの下町の風情が残る住宅地と集合住宅が立ち並ぶ地域があります。子育てサロンや高齢者食事会等、世代の垣根を越えた見守り活動が盛んに行われ、介護予防の観点からの健康づくりの活動にも積極的に取り組まれています。



北方町・小港町・諏訪町・千代崎町・本牧十二天・山手町の一部



これまでの計画(第3期)の振り返り

自治会町内会や民生委員・児童委員が消費生活推進員と一緒に、高齢者食事会「あじさい会」において振り込め詐欺を防止するための紙芝居を行うなど、増加傾向にある単身世帯の高齢者を見守る活動を行いました。

民生委員・児童委員が中心となりキャラバン・メイトを養成し、山手警察署・加賀町警察署・横浜銀行で認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症の人とその家族が安心して暮らしていけるよう支援を行いました。

コロナ禍により地域行事が減少したことで、これまでやってきた自治会町内会の活動が交流の場として大切な役割を果たしていることを改めて感じました。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>参加者も担い手も楽しみながら仲間を作り、ゆるやかに見守り・支え合える関係をつくっていきこう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日ごろから声を掛け合い、助け合える関係をつくりまします。(あいさつ、声掛け、消費者被害の予防啓発、多言語対応) ● 誰もが参加しやすくなるよう行事や活動を工夫し、仲間づくりや見守り合える居場所づくりの取組を続けます。(子育てサロン「ひだまり」・高齢者食事会「あじさい会」・老人会・運動会・お祭り・餅つき・成人のお祝い・グラウンドゴルフ・各町内における小さな単位での活動) ● 認知症やその介護者への理解を広めていきます。(企業も含めた認知症サポーター養成講座) ● 地域活動の担い手同士で定期的に情報を交換し、活動状況を地域に伝えていきます。〔まちづくり会議〕の開催・〔まちづくり会議通信〕の発行)
<p>気軽に誰もが参加できる地域活動を通して、健康で元気なまちづくりを進めよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まちぐるみで健康意識を高めるための活動を続けます。(ラジオ体操・ウォーキング・健康講座・脳トレ講座・研修) ● 趣味や特技を生かして活動できる場をつくりまします。 ● みんなで声を掛け合い、町内美化に取り組みまします。(草刈り・ごみ捨ての見守り)
<p>子どもたちが安心して暮らしやすいまちにしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多世代交流を深め、顔の見える関係づくりを進めます。(千代崎四姉子連・運動会・防災訓練・餅つきなど) ● 子育て世代が交流できる活動を続けます。(子育てサロン「ひだまり」・子ども会) ● 身近な見守り活動により、地域の一人ひとりが子どもたちの健やかな成長をゆるやかに見守ります。(児童の登下校時のあいさつ運動・夜警など)

第4期計画はこのようにつくりました

第4地区北部では、「まちづくり会議」という名称で地区別推進会議を開催しています。

「まちづくり会議」では、7つの自治会町内会を3つのグループに分け、グループワークを行いました。地域で今後も続けていきたい取組や、今後始めたい地域活動などについて意見交換をしながら計画にまとめました。



nakanaka photo

取り組む理由

視点

- いざというときや困ったときに身近な人同士で助け合えるよう、隣近所のつながりを深めたい。
- 日本に慣れない外国の方々やと理解し合える関係をつくりたい。
- 新たに住民となった方が地域の人と出会い、つながる場をつくりたい。年齢に関わらず様々な世代のつながりをつくりたい。
- 高齢になっても、認知症になっても安心して過ごせるまちにしたい。認知症の家族への支援にも目を向けていきたい。
- 多くの人に様々な地域活動を知ってもらい、まちに関心を持ってほしい。
- 時々の状況をふまえて、できる活動を行いたい。

えん結び

- 自分の健康だけでなく、隣近所の人と一緒に健康になるよう声を掛け合い、まち全体が健康になるようにしたい。
- 役割を持って参加できる活動があることを多くの人に周知し、元気な人を増やしたい。
- 誰もがルールを守り、気持ちよく住めるまちにしたい。

元気いっぱい

- 子育て世代に地域行事に参加してもらいたい。
- 親子の孤立を防ぐため、地域全体で子育てをしていきたい。
- 地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守り、地域活動を未来につないでいきたい。

子どもたちは
宝もの

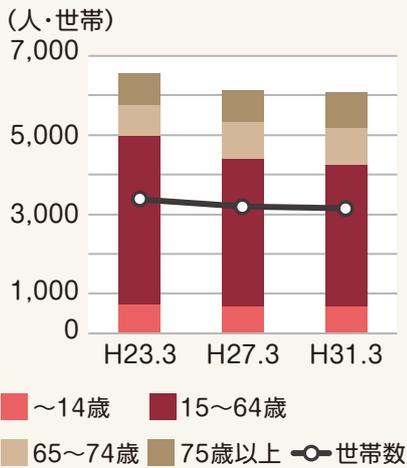
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

第4地区北部の統計データ

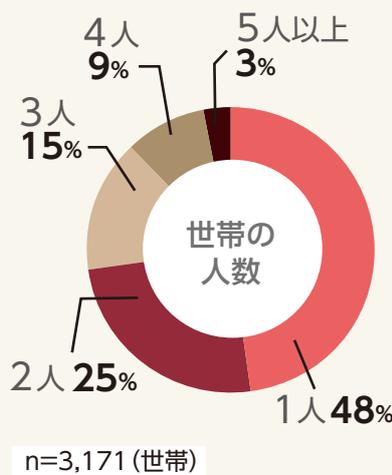
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	6,658	744	4,336	763	815	23.7	3,408	1.95
H27.3	6,204	683	3,791	918	812	27.9	3,185	1.95
H31.3	6,128	690	3,650	914	874	29.2	3,171	1.93

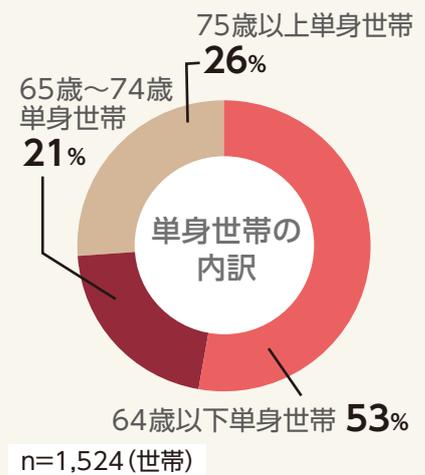
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	3,122	1,483	47.5	306	380	302
H31.3	3,171	1,524	48.1	326	396	297
R2.3	3,310	1,548	46.8	330	394	303

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	599	10.2
1年未満	368	6.3
1年以上5年未満	977	16.6
5年以上10年未満	724	12.3
10年以上20年未満	1,009	17.2
20年以上	1,339	22.8
居住期間「不詳」	855	14.6

データから見た第4地区北部

人口は減少傾向にあり、特に15～64歳の勤労世代の減少が大きくなっています。

高齢化率は29.2%で中区平均(23.4%)を大きく超えていて、区内では寿地区に次ぎ、2番目に高くなっています。また、単身の高齢者が多く、65歳以上の2人暮らしを含めると、全世帯の3分の1が高齢者のみの世帯となります。

居住年数を見ると、出生時からと20年以上を合わせると33%となり、長くこの地区に住み続けている住民が多いことが分かります。



本牧・根岸地区

5年後の目指す姿

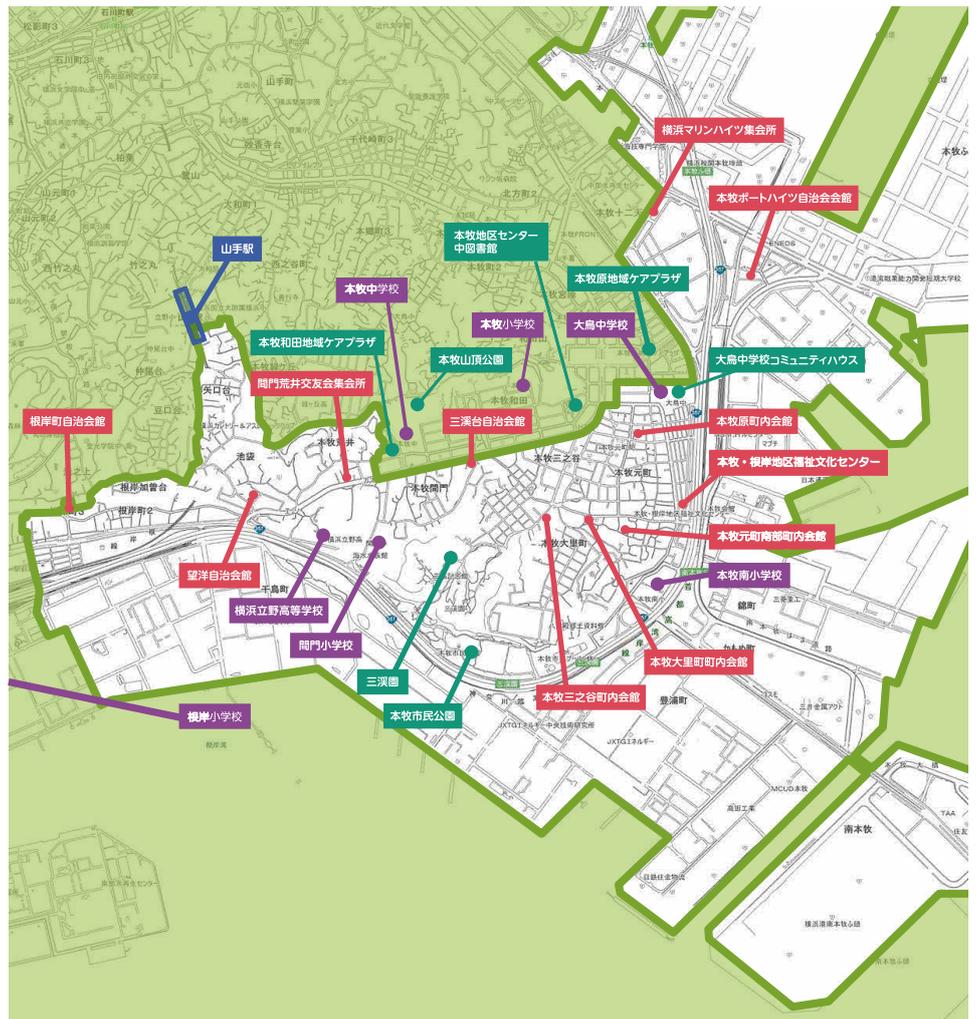
誰もが地域の一員として、
安心して過ごせるまち本牧・根岸



本牧・根岸地区は こんなまちです

古い伝統があり、おしゃれな町並みの閑静な住宅街と、埋立地の埠頭や工場、製油所などがある地区です。大規模マンションの建設により、若い世代の人口が多く、様々な世代の活動や交流が活発に行われています。

また、住民だけではなく、学校や企業、医療・福祉関係の事業所も地域とのつながりを大切に、地域活動に参加しています。



根岸町・根岸加曽台・池袋・矢口台・本牧間門・本牧荒井の一部・本牧三之谷・本牧大里町・本牧元町・本牧原の一部・錦町・かもめ町・千鳥町・豊浦町・本牧ふ頭・南本牧

これまでの計画(第3期)の振り返り

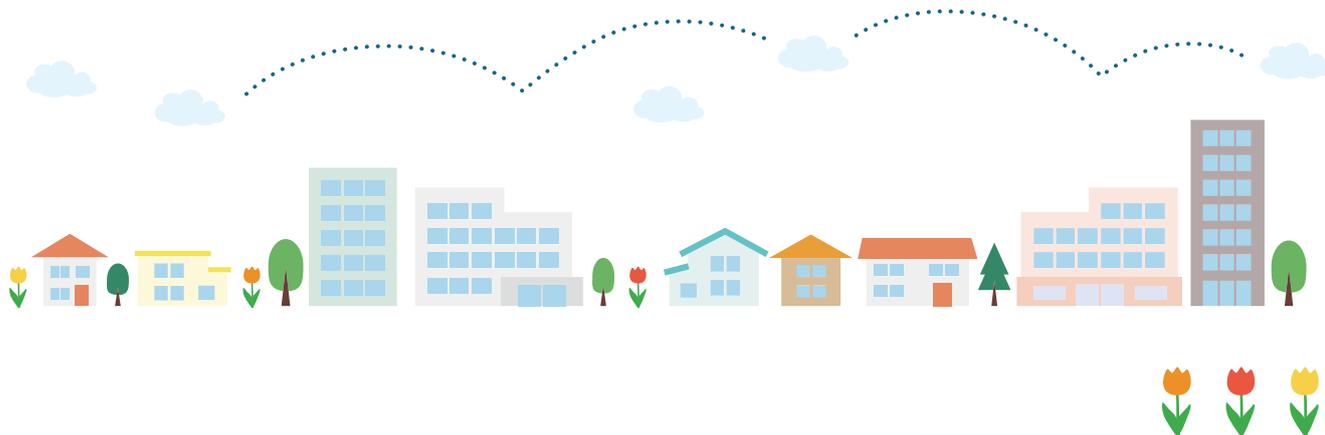
自治会町内会や民生委員・児童委員を中心に、サロンや高齢者食事会などが活発に行われています。様々な関係機関や地域活動団体が連携し、地域のつながりをつくるための活動をしています。コロナ禍により中止せざるを得ない活動もありましたが、本牧ライトアッププロジェクトやスプリングコンサートなど、世代を超えた交流ができる活動を続けています。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>誰もが気軽に参加でき、交流することができる場や機会を増やします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在取り組んでいる地域活動を継続していきます。 ● 地域活動を知り、参加・交流ができるよう、広報紙等による情報発信をきめ細かく行います。 ● 趣味を生かした交流など、気軽に参加ができる機会を検討していきます。
<p>地域のつながりを深め、住民同士で緩やかな見守りができるまちを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンや高齢者食事会のほかにも、地域で「集まる場所」を増やします。 ● 「集まる場所」まで来ることが困難な人のために、移動手段や解決に向けた工夫を検討します。 ● 誰もが参加できるような活動を始めます。また、障害や認知症への理解が進むよう、講座や研修を開催します。
<p>誰もが健康で暮らし続けることができるよう、健康づくりに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代を超えた健康づくりの方法を検討し、実践します。 ● 自宅でできる健康体操やストレッチ方法などをインターネットやSNSを使って情報発信し、自分のペースで健康づくりに取り組めるよう支援します。 ● 医療や福祉に関する制度やサービス、相談機関を知ってもらえるよう、講座や研修を企画します。
<p>災害時に地域住民が力を合わせて対応することができる地域をつくりまします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりが防災の意識を持つことができるよう、避難訓練の実施や災害情報の提供を行い、備蓄品や避難所、ペットの同行避難などへの理解を深めます。 ● とより近所のひとり暮らし高齢者や障害がある人を把握し、いざというときに迅速かつ適切に避難ができるよう、地域での助け合いの関係性を構築します。

第4期計画はこのようにつくりました

本牧・根岸地区社会福祉協議会で、地区別計画の推進状況を共有し、取組に関する工夫や課題について話し合いました。また、地域に潜在するニーズや課題を把握するため、令和2年に地区懇談会を開催し、当事者や事業所等の地域で暮らす人や働く人のご意見を計画に反映しました。



取り組む理由

視点

- 様々な世代の人とつながり、地域の見守りにつなげたい。
- 生きづらさを抱えている人も地域で安心して生活を送れるよう、住民同士がつながりを持ちたい。
- 自分の知識や特技、趣味などを生かした活動をすることで、人とのつながりを持ち、地域での孤立を防ぎたい。そのための交流のきっかけを増やしたい。

えん結び

- 引きこもりや虐待、貧困等の周りに助けを求めにくく、周りが気づきづらい困りごとについて、地域に関心を持ってもらいたい。
- 様々な課題に気づき、住民同士で緩やかな見守りができるよう、相互理解を深める取組が必要だと思う。

えん結び
その他

- 健康づくりが主な目的ではない活動でも、交流することで健康づくりにつながることもある。
- with コロナ、after コロナを考えて、運動機能低下等を予防する必要がある。
- 住み慣れた地域で元気で生活するためには、健康につながる取組を多世代に向けて発信する必要があると思う。
- 住み慣れた場所で生活を続けるには、更なる健康づくりが必要だと思う。

元気いっぱい

- 今後、災害のリスクが高まる可能性がある。地域全体の意識は高いが、「自分のこと」として捉えている人が少ないという声がある。
- 単身世帯の多い地域や介護・医療的ケアが必要な人、障害のある人などへの支援を考える必要がある。

元気いっぱい
その他

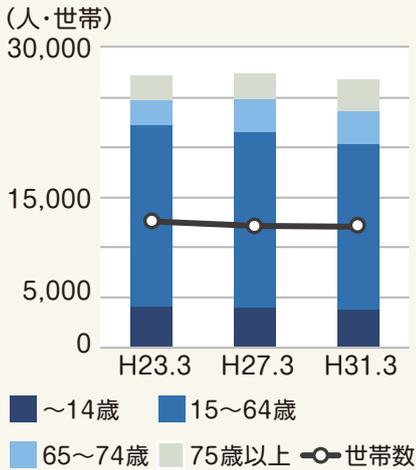
えん結び…見守り力を高める取組 元気いっぱい…健康づくりの取組

本牧・根岸地区の統計データ

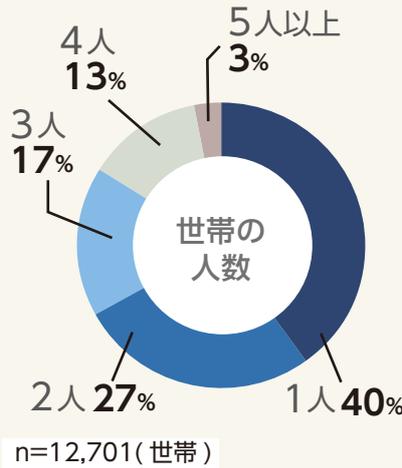
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	27,418	3,920	18,466	2,582	2,450	18.4	13,075	2.10
H27.3	27,678	3,868	17,966	3,180	2,664	21.1	12,824	2.16
H31.3	26,992	3,572	17,085	3,282	3,053	23.5	12,701	2.13

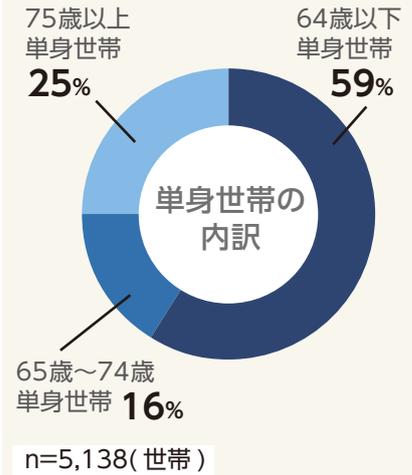
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

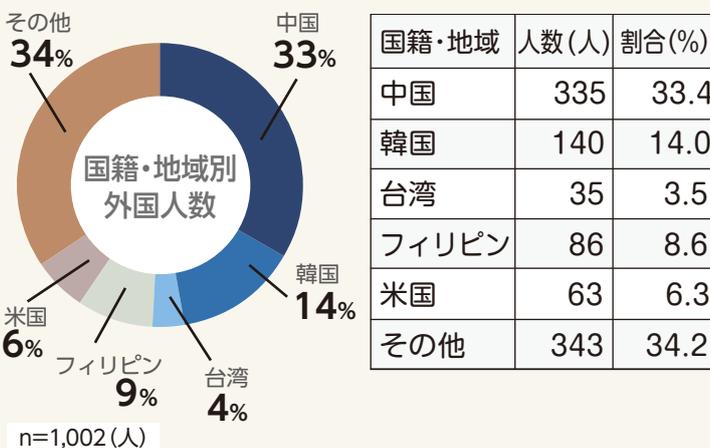
調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	12,746	5,084	39.9	809	1,176	1,146
H31.3	12,701	5,138	40.5	818	1,264	1,216
R2.3	12,834	5,298	41.3	822	1,317	1,250

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数 (H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	2,307	8.4
1年未満	1,479	5.4
1年以上5年未満	4,803	17.6
5年以上10年未満	3,941	14.4
10年以上20年未満	5,043	18.5
20年以上	5,255	19.2
不詳	4,499	16.5

地区内の外国人の状況 (H31.4現在)



データから見た本牧・根岸地区

- 総人口、世帯数ともにやや減少しています。特に、14歳以下と15歳～64歳の人口が減少し、高齢者は増加し、高齢化率が23.5%となっています。
- 子どもの数は減少していますが、他地区に比べ14歳以下の人口割合は13.2%と高く、区内で一番高いです。
- 単身世帯の割合は、他地区に比べ低くなっていますが、75歳以上の単身世帯数が区内で一番多く、増加しています。
- 居住年数にはばらつきがあります。
- 地区内の外国人数は1,002人ですが、多国籍の外国人が居住しています。



第6地区

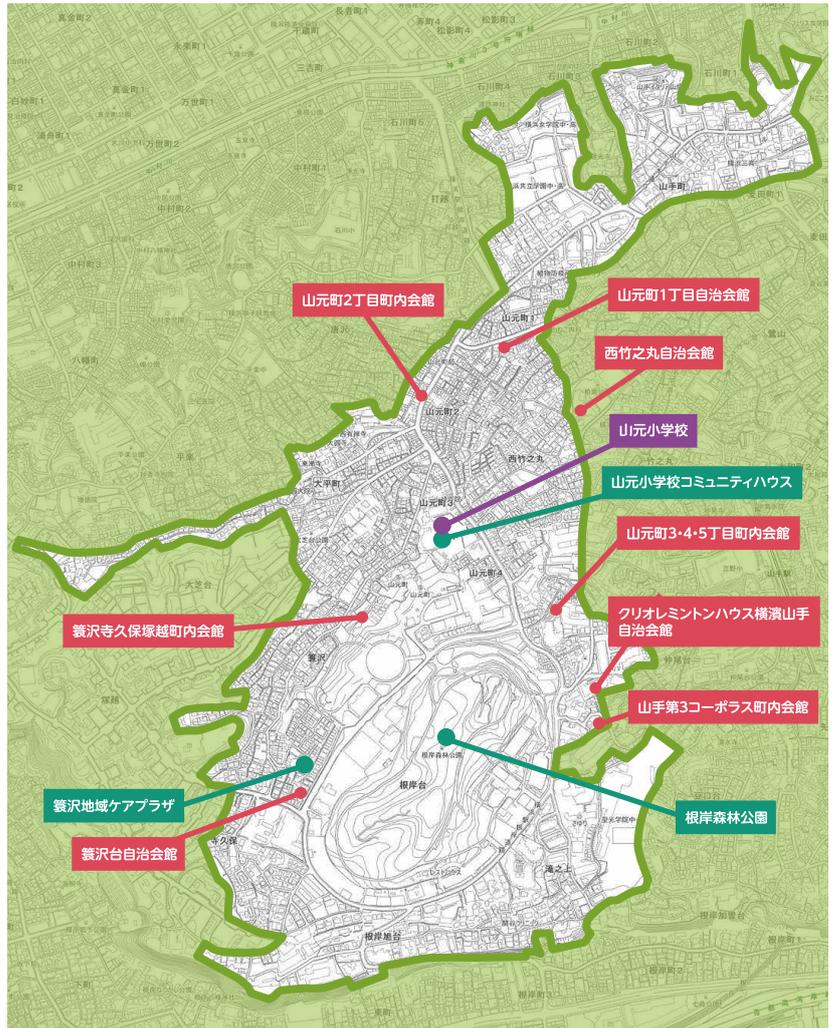
5年後の目指す姿

みんなでふれあう町づくり



第6地区はこんなまちです

歴史ある丘陵地帯に形作られた地域であり、急な坂道や階段、狭い道が多く、この地形により特に高齢者、障害者等にとって生活上の厳しい側面があります。一方で根岸森林公園は、住民の憩いの場所として多くの方に愛されています。昔ながらの下町の良さを生かした地域住民の助け合いの精神が息づいており、支え合う町づくりを目指しています。



大芝台・大平町・塚越・寺久保・西竹之丸・根岸旭台・根岸台・箕沢・山元町・滝之上・山手町の一部

これまでの計画(第3期)の振り返り

盆踊りなど共通の目標に対し、第6地区全体で取り組むことができました。

イベントカレンダーが定着してきており、イベント参加のきっかけになっています。

お祭りで「ジュニアリーダー」が活躍し、盛り上げています。

横浜訓盲院との視覚障害者の誘導訓練を通じて障害に対する理解が深まりました。

第4期計画

目標	第4期の取組
子どもから高齢者まで様々な世代がふれあう町にします。	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在行われているイベントを工夫して、子どもからお年寄り、障害者、外国人などの幅広い交流を図ります。(盆踊り、箕沢地域ケアプラザ祭りとの連携、運動会等) ● 若い世代の参加を促すため、Web版イベントカレンダーや、SNSを活用した情報発信を行います。 ● みんなが気軽に誰とでも「あいさつ」できるような環境づくりを進めます。 ● 子育て世代の交流の輪を広げるために、情報発信を行います。
現在行われている取組を活性化し、健康増進と地域交流を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在行われている健康づくりの取組を軸として、地域交流の場が更に分人が集まる場となるよう工夫します。(根岸森林公園・柏葉公園のラジオ体操、保健活動推進員のウォーキング、運動会等) ● 買い物支援の機会に集まった仲間同士でコミュニケーションを図り、健康づくりの一助とします。 ● 「ふれあいサロン」の継続等、集いの場所が増えるよう取り組みます。
安心・安全で、皆にやさしい町にします。	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災や防犯の取組を通じて、誰もが安心・安全で暮らしやすく、みんなが愛着を持てる町にします。 ● 商店街や公園等の地域の資源を生かして、町の活性化を図ります。

第4期計画はこのようにつくりました

連合町内会、商店街、横浜訓盲院、青少年指導員、地域関係企業などの代表で構成される「みんなで町づくりプロジェクト」でアンケートを実施しました。その結果を踏まえ、計4回のプロジェクト会議を開催して計画案を策定し、元気づくり推進協議会で決定しました。

nakanaka photo



取り組む理由

視点

- ご近所同士で縁側で気軽に話すような関係をつくりたい。
- 日常のちょっとした困りごとも、地域で助け合い、支え合えるような関係をつくりたい。
- 情報の共有が弱いので、地域の情報や課題をSNS等、様々な手段で発信できるようにしたい。
- 若い世代が地域コミュニティに参加するきっかけをつくりたい。

えん結び

- 根岸森林公園では、日常的にラジオ体操を行っており、人が集う環境となっているので、これを地域全体の元気や交流に発展させていきたい。

元気いっぱい

- 戦前からの町であり、狭い道路に家が密集している所も多い。また、空き家も目立つようになり、防災・防犯の対策が今まで以上に求められている。

その他

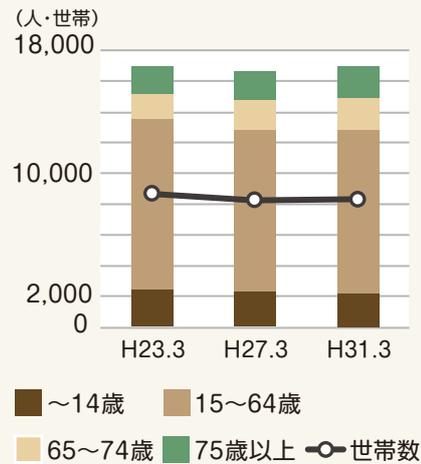
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

第6地区の統計データ

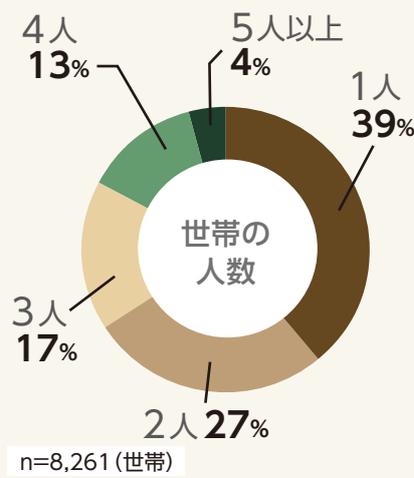
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	17,780	2,689	11,527	1,711	1,853	20.0	8,364	2.13
H27.3	17,480	2,562	10,941	2,036	1,941	22.8	8,036	2.18
H31.3	17,814	2,491	11,184	2,021	2,118	23.2	8,261	2.16

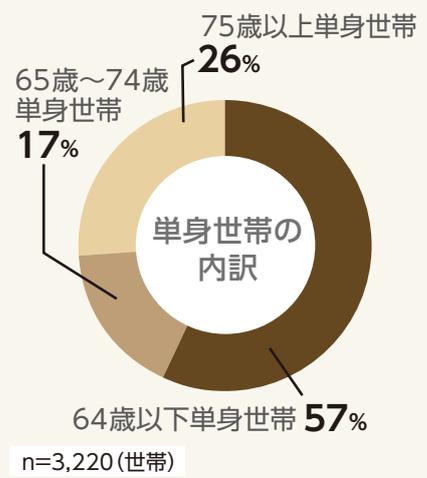
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数(世帯)	単身世帯数(世帯)	単身世帯の割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	8,130	3,092	38.0	531	812	758
H31.3	8,261	3,220	39.0	541	830	785
R2.3	8,279	3,276	39.6	547	856	801

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	1,434	8.4
1年未満	1,178	6.9
1年以上5年未満	2,571	15.1
5年以上10年未満	2,003	11.8
10年以上20年未満	3,774	22.2
20年以上	3,520	20.7
居住期間「不詳」	2,507	14.8

データから見た第6地区

第6地区の総人口は減少傾向でしたが、新たな住宅やマンションの建設が進み、ここ数年は人口、世帯数ともに増加しています。単身世帯の割合は低く、3人以上の世帯が1/3を占めています。世帯平均人数も2.16人と区内では2番目に多くなっています。14歳以下の人口は14.0%と区内では高い割合ですが、人数は減少しています。

高齢化率は徐々に上昇していますが、要介護認定率は区内で12番目と低く、元気な高齢者が多いと考えられます。

居住年数では、「出生時から居住」「20年以上」という割合が高いことから、長く住み続ける住民が多いことがわかります。



新本牧地区

5年後の目指す姿

新本牧は「あいさつ」でまちづくり
～広げよう！つなげよう！「人の和」～



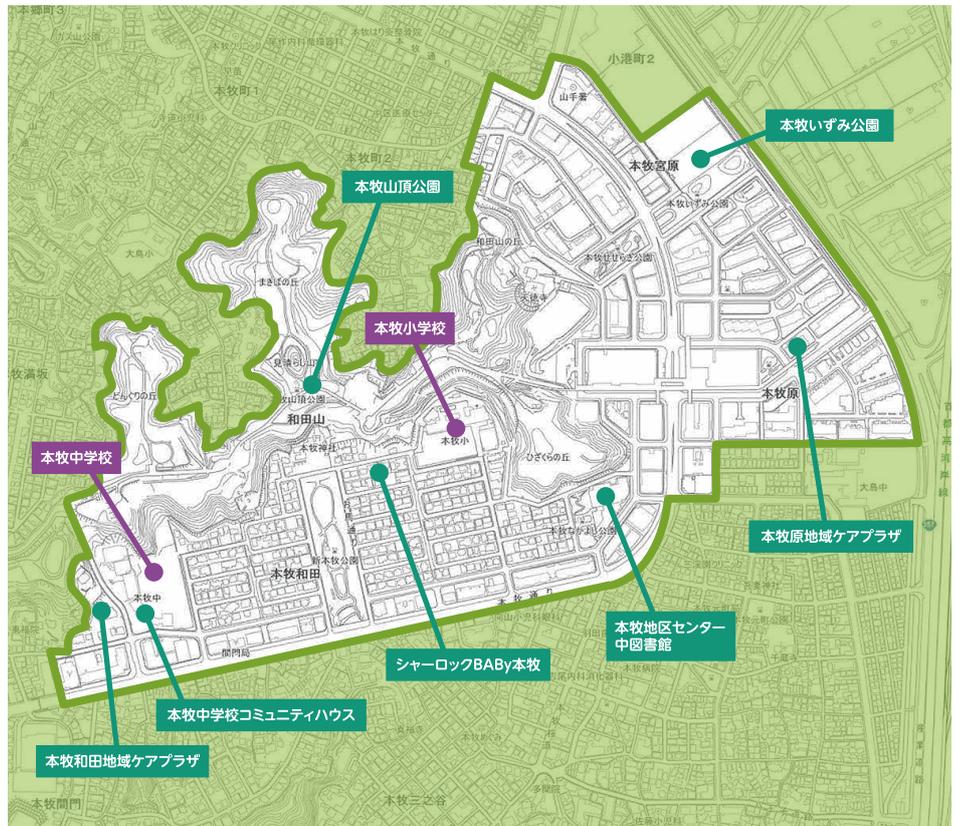
本牧ライトアッププロジェクト ▲



みどり会（地区社協）のお弁当配布 ▲

新本牧地区は こんなまちです

米軍の接収地だった土地を新たに開発してできた地域で、開発とともに移り住んだ住民が多いまちです。区画整理により公園や緑に囲まれ、道幅も広く景観が良いのが特徴です。地域の担い手として、現役世代が多く活躍しています。



本牧宮原・本牧和田・和田山・本牧原の一部

nakanaka iine!

これまでの計画(第3期)の振り返り

あいさつ運動を計画前期で実施し地域の子もたちと住民の交流が少しずつ進みました。

計画前期に小中学生に地域のイベントに参加してもらい内容の充実を図りました。

3地区(第4地区南部、本牧・根岸、新本牧)共催のイベントを開始し5年が過ぎ、地区の住民に浸透していきました。

高齢者食事会や日帰りバス旅行の充実を図りました。

第4期計画

目標	第4期の取組
<p>子どもを中心に地域を盛り上げ、困りごとを速やかに察知できる関係を作っていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元の小中学校の行事や取組に関心を持ち、子どもたちとの交流を深め、街中でも気軽に「あいさつ」できる環境を目指します。 ● 中学校の朝の「あいさつ」運動に参加し、顔の見える関係を作ります。 ● 高齢者(食事会・サロン等)の集う場に子どもたちが参加できる機会を増やします。
<p>交流の場を充実し、多世代に渡って助け合えるまちを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域にある施設や団体、企業と協力関係を深め、地域での参加の輪を広げていきます(施設・団体・企業の行事に積極的に共同参加する)。 ● 各自治会のラジオ体操を充実し、健康づくりをしながら様々な世代の交流を深めます。 ● 夏の神社例大祭を通じて住民の交流を促進します。
<p>環境面から住みやすいまちづくりを通して、住民が健康で安全に暮らせるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自治会の清掃活動を充実させまち全体をきれいにします。 ● 地区や自治会主催の防災訓練により多くの住民の参加を促していきます。 ● 警察や自転車販売店と協力し、自転車マナー向上&路上駐車減を目指した、広報活動を行います。 ● コロナ禍での閉塞的な暮らしから脱却するためのアイデアを募り、実施していきます。

第4期計画はこのようにつくりました

自治会町内会長、地区民児協、区民利用施設や福祉施設などで構成された「新本牧地区元気づくり推進協議会」で実施したアンケートをもとに計画の原案を作成し、それについて再び意見をもらい、計画を完成させました。

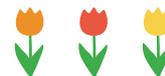
nakanaka photo



本牧ライトアッププロジェクト



みどり会(地区社協)のお弁当配布



取り組む理由

視点

- 地元の学校と連携し、地域のイベントなどに小中学生が積極的に参加できるような雰囲気になりたい。
- 全ての世代で困った事があったときに、お互いにすぐ、気づけるよう見守り合いたい。

えん結び

- イベントに参加する事により、普段からお互いに「あいさつ」し合える関係を作るようにしたい。
- 交流により親しく知り合い、多世代に渡って助け合えるようにしたい。

えん結び
元気いっぱい

- 環境の充実があってこそその元気なまちづくりを目指したい。
- コロナ禍の影響で孤立し、苦勞している多世代の住民(特に高齢者)を救える手立てを講じたい。

元気いっぱい
その他

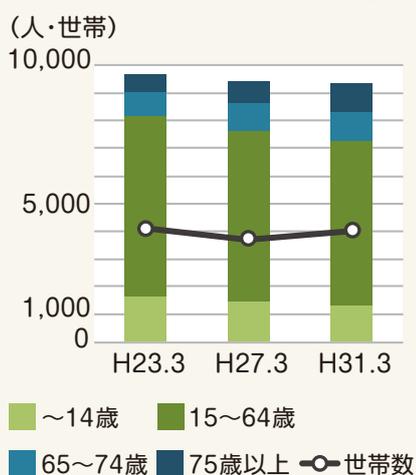
えん結び・・・見守り力を高める取組 元気いっぱい・・・健康づくりの取組

新本牧地区の統計データ

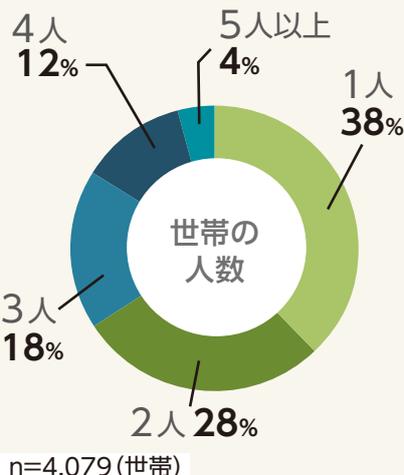
人口動態

調査年	人口(人)	～14歳(人)	15～64歳(人)	65～74歳(人)	75歳以上(人)	高齢化率(%)	世帯数(世帯)	世帯平均人数(人)
H23.3	9,627	1,645	6,513	710	759	15.3	4,099	2.35
H27.3	9,415	1,461	6,180	917	857	18.8	3,976	2.37
H31.3	9,287	1,319	5,911	1,024	1,033	22.1	4,079	2.28

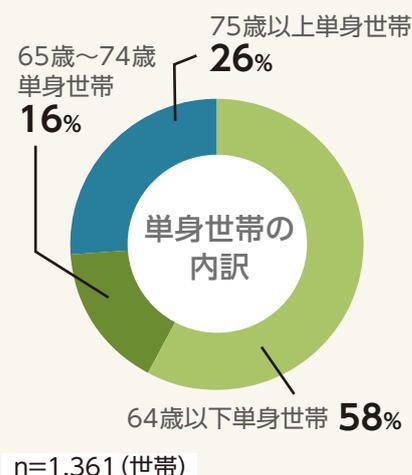
人口・世帯数の推移



世帯の状況 (H31.3現在)



単身世帯の状況 (H31.3現在)



世帯数・単身世帯の推移

調査年	世帯数総数(世帯)	単身世帯総数(世帯)	単身世帯割合(%)	65歳～74歳単身世帯(世帯)	75歳以上単身世帯(世帯)	65歳以上2人世帯(世帯)
H29.3	4,030	1,301	32.3	218	393	404
H31.3	4,079	1,361	33.4	238	421	408
R2.3	4,100	1,378	33.6	245	441	418

※人口・世帯データの出典は横浜市統計情報ポータルより

住民の居住年数

(H27 国勢調査より)

居住年数	人数(人)	割合(%)
出生時から居住	543	5.7
1年未満	783	8.3
1年以上5年未満	1,962	20.8
5年以上10年未満	1,475	15.6
10年以上20年未満	1,800	19.0
20年以上	1,317	14.0
居住期間「不詳」	1,569	16.6

データから見た新本牧地区

人口はやや減少傾向にあります。特に勤労世代の人口が減少しており、高齢者人口が増加しています。平成27年には18.8%であった高齢化率は平成31年には22.1%に上昇しています。

単身世帯の割合は33.4%(H31)と低く、世帯平均人数も2.28人と区内では一番多くなっています。14歳以下の子どもの割合も14%と区内では高く、ファミリー層が多く居住していることがわかります。

一方で住民の居住年数を見ると、長年居住している割合が高く、今後はさらに高齢化が加速していく可能性が高いと思われます。

参考 地域支援チーム

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザは、地域にある支援機関として、様々な職種（看護職、社会福祉職、コーディネーター等）が協力して、地域住民の安全・安心な暮らしを実現していく役割を担っています。また、これら3つの機関の職員で構成された地域支援チームが、各地区を支援していきます。

地域支援チーム(それぞれの役割)

区社会福祉協議会

地域の福祉活動を支援し、様々な福祉的課題の把握と解決を地域のみなさんや地域ケアプラザ、その他の関係機関と一緒にいきます。

区役所

地域協働の総合支援拠点として、地域の主体性を尊重しつつ、部や課の垣根をこえた総合力を発揮して地域活動を支援します。

地域ケアプラザ

地域の身近な施設であり、地域の情報、個人や各世帯で生じている福祉的な課題を把握し、課題解決に向けた活動を地域に身近な立場で地域住民とともにいきます。

地域支援チームで活動する目的は？

- ① 地区別計画における地域の取組が進むよう支援します。
- ② 地域活動が推進されるよう、新たな人材の発掘やネットワーク形成ができるよう支援します。
- ③ 地区別計画の策定や振り返りを支援します。

具体的な取組は？

① 地域支援チーム会議の開催

定期的に地域支援チーム会議を開催し、地域情報の共有や地区の課題解決に向けた地域を支援するための具体的な取組や、住民と地域課題等について話し合いができるようにするための工夫などを話し合います。

② 地区別計画に関する話し合いの支援

地区別計画は住民の話し合いによってつくられ進められるものです。住民が地区の課題やそれに対応する取組を話し合えるよう情報提供するなど支援します。



地域支援チームもチーム会議をはじめとして対話の機会を持つことで、地域のことを学んでいます。そこで学んだことや気づいたことを地域のみなさんにお伝えしていきます。

第5章 取組状況の確認(計画の振り返り)

「いつまでも安心して暮らしていけるようなまち」を目指し、中区の住む人・働く人すべての人の支え合いによる取組を行ったか振り返り、次の取組につなげていくことが大切です。

一年を通じて、取組の中で効果があったことや課題と感じていることを地域関係者、区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等で確認・共有し、その後の取組に生かすということを繰り返します。その経過を計画の進捗状況として、周知していきます。

目標の「もっとみんなの中なかいいネ!」を目指し、中区の多くの人に周知できたかを振り返る視点

- 計画(中なかいいネ!)を知っている人が増える
- 地域活動の意義が、計画(中なかいいネ!)に記載されていることを知っている活動者が増える
- 地域活動を知らなかった人が、計画(中なかいいネ!)をきっかけに地域活動に関心を持つ

活動の2本の柱「見守りを力高めるえん結び」と「健康づくりの元気いっぱい」の取組を振り返る視点

▶ どのような結果が出たでしょうか

- 地域にとってどのように良かったのか

▶ 取組の過程を振り返りましょう

- 地域でどのように取り組んだか(工夫したことや難しかったこと)

▶ 「もっとみんな」で取り組みましたか

- 新しい人や団体、企業・事業所等と取り組めたか
- 話し合いや取組の結果をどのように周知したか

3つの土台(人財・交流・情報)の取組を振り返る視点

人財

- 地域活動をどのように周知したか
- 人財発掘のための取組をどのように行ったか
- 地域活動を希望する人と活動や場のマッチングが行えたか
- 地域活動者のスキルアップのための取組をどのように行ったか

交流

- 住民同士で話し合える機会をどのようにつくったか
- 多様な人が交流できる機会をつくることができたか
- 企業や事業所と地域住民のマッチングができたか

情報

- 地域の情報や地域活動の情報提供をどのように行ったか

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」にするために、様々な人の気づきを共有することができたかを振り返る視点

- 対話や学びの機会をつくることができたか
- 生活の困りごとや困難を抱えている人の事例等を地域で共有できたか
- 生活の困りごと等に対応する活動や先進的な取組、良い結果が出ている活動を周知できたか

区民の意識(令和元年度中区区民意識調査)を5年後に比較します

▶ あなたは、この1か月間のご自身の健康状態をどう感じていますか。

- 健康である… **33.0%**
- どちらかという健康である… **45.4%**



▶ あなたは、隣近所と普段どのような付き合いをしていますか。

- 一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている… **3.5%**
- 困ったとき、相談したり助け合ったりする… **4.8%**



▶ あなたの今後の地域活動に関する考えで、最も近いものをお知らせください。

- 中心となって活動を運営したい… **1.3%**
- 活動している人のお手伝いをしたい… **16.8%**



▶ 隣近所の困っている方に対して、あなたはどのような手助けができると思いますか。

- 特にない… **20.2%**





1 市計画・区計画・地区別計画の関係

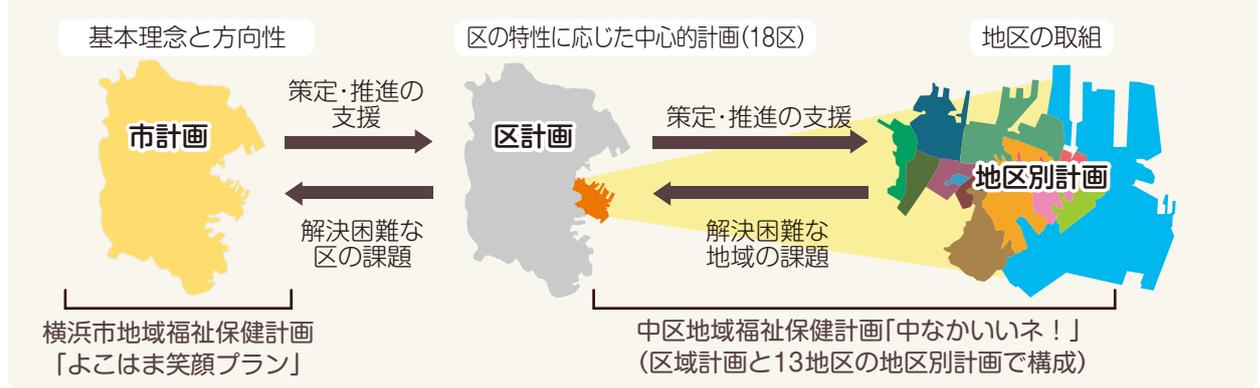
市計画 横浜市地域福祉保健計画(通称:よこはま笑顔プラン)

市全体の基本理念と方向性を示し、区計画の推進を支援する計画。

区計画 中区地域福祉保健計画(愛称:中なかいいネ！)

区ごとの特性に応じ、区の福祉保健に関する課題を解決する「区域計画」、より身近な地域の課題に対応するために住民が主体となり推進する「地区別計画」で構成されています。

市計画・区計画の関係(イメージ図)



2 中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」と関連のある計画

横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた中区アクションプラン

令和4年度～令和7年度

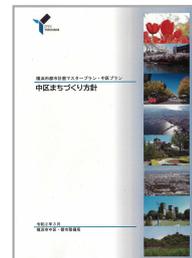
高齢者が可能な限り、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために必要な包括的支援・サービス提供体制を構築するための取組を整理した計画です。3つの要素の中の「元気な暮らし」と「つながる・支え合う」は、中区地域福祉保健計画の2本の柱「えん結び」と「元気いっぱい」に重なるため、連動して推進します。



横浜市都市計画マスタープラン・中区プラン 中区まちづくり方針

令和2年度～令和22年度

おおむね、20年後の中区の将来像を描くとともに、その将来像を実現するためのまちづくりの方針を定めています。方針1生活環境に関する方針の「誰もが安心して暮らせるまちづくり」については、中区地域福祉保健計画に基づいて進めていくことになっています。



第2期中区多文化共生推進アクションプラン

令和3年度～令和6年度

国籍やルーツによらず誰もが安心していきいきと暮らせるまちを目指し、多文化共生施策推進の方針を定めています。第4期計画の目標である「もっとみんなの中なかいいネ！」は、多様性・多世代・多文化での取組を推進していくこととしており、外国人も一緒に地域活動を進めていきます。



3 横浜市の関連する計画

横浜市では、法律に基づき、福祉保健の分野別計画を策定・推進しています。

地域福祉保健計画は、**分野別計画に共通する理念、方針を地域の視点から取組の方向性などを示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。**

高齢者

よこはま地域包括ケア計画

令和3年度～令和5年度

高齢者に関する各種の保健福祉事業や介護保険制度の円滑な実施、さらに中長期的な視点から地域包括ケアシステムの構築に向けた取組に関する総合的な計画です。



障害者

横浜市障害者プラン

令和3年度～令和7年度

障害者に関する施策の基本的な方向性や、障害福祉におけるサービスの必要な利用の見込み量、及び制度の円滑な実施の確保を進めていくことを定めています。



子ども

横浜市子ども・子育て支援事業計画

令和2年度～令和6年度

子ども・青少年施策に関する基本理念や各施策の目標・方向性などを定めています。



健康

健康横浜21

平成25年度～令和4年度

市民の最も大きな健康課題の一つである生活習慣病に着目し、市の健康づくりの指針となる計画です。



高齢者・障害者の権利擁護

横浜市成年後見制度利用促進基本計画

※地域福祉保健計画と一体的に策定

成年後見制度の利用促進に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、目標と施策を推進する工程を定めています。

生活困窮者の自立支援

横浜市生活困窮者自立支援制度業務推進指針

生活困窮者の自立支援に関わる支援者に向けて、生活困窮者支援の基本的な考え方を示しています。



年度	月	経 過
令和元	6月	第1回 中なかいいネ！推進会議 ● 第3期振り返りと第4期骨子策定の方向性について ● 策定部会の設置 第4期計画は、2本の柱(えん結びと元気いっぱい)と3つの土台(人財・交流・情報)を継続する方向性となりました。
	8月	区民意識調査 P29参照
	11月	第1回 策定部会 ● 第4期の方向性について ● 区域計画に期待する人財・情報に関する取組について 新たな担い手の発掘と既存の活動を周知することについて検討しました。
	12月	グループインタビュー P30参照
	2月	第2回 策定部会 ● 第4期策定の骨子について ● 第4期に向けた具体的な取組の検討 第4期計画の目標を「もっとみんなの中なかいいネ!」とし、区民に分かりやすい計画を策定することとなりました。
	3月	第2回 中なかいいネ！推進会議【書面開催】 ● 第4期計画骨子に関する意見照会
令和2	4月	第4期計画 骨子確定
	7月	第1回 中なかいいネ！推進会議 ● 第4期の方向性について ● 第4期地区別計画の作成について ● 第4期のロゴマーク作成について 第4期計画の2本の柱「えん結び」と「元気いっぱい」を推進していくうえで、対話と学びの機会をつくっていく要素を追加しました。また、3つの土台(人財・交流・情報)を強化することとしました。
	8月	第1回 策定部会 ● 第4期計画素案について ● 第4期に向けた具体的な取組の検討 第4期計画を進めていくうえで、福祉保健に関係する地域の団体の協力について検討しました。
	10月	第2回 中なかいいネ！推進会議【書面開催】 ● 第4期計画素案に関する意見照会
令和3	11月	第4期計画素案に対する区民意見募集 令和2年11月16日から12月18日まで実施し、計82件のご意見が寄せられました。区役所ウェブページに掲載し、計画案へ反映しました。
	9月	第1回 中なかいいネ！推進会議【書面開催】 ● 第4期計画案に関する意見照会 (推進会議委員に電話による意見照会)
	2月	第4期計画冊子配布開始

策定部会とは

第4期計画案を具体的に検討するために令和元年度に設置した部会です。中なかいいネ！推進会議委員の中から、委員長を含め12人の委員で構成し、計3回の会議を開催しました。

	地区・組織名	氏名(敬省略)
1	駒澤大学	川上 富雄
2	第1北部地区	杉野 芳之
3	第1地区中部	芦原 将
4	関内地区	井上 圓三
5	埋地地区	藤平 保之
6	寿地区	梅田 達也
7	石川打越地区	依田 龍治
8	(福)横浜市中区社会福祉協議会 中区連合町内会長連絡協議会 第2地区	松澤 秀夫
9	第3地区	鈴木 敏夫
10	第4地区南部	石田 良男
11	第4地区北部	鶴島 章泰
12	本牧・根岸地区 中区老人クラブ連合会	丹羽 博利
13	第6地区	守屋 孝
14	新本牧地区	鈴木 聖一
15	中区医師会	秋山 修一
16	中区歯科医師会	蕭 敬意
17	中区薬剤師会	高橋 洋一
18	横浜商工会議所	井手 健夫
19	中区障害者団体連絡会	長尾 孝治
20	中区ボランティア連絡会	金子 安男
21	(公財)横浜市国際交流協会	木村 博之
22	中区中学校長会	緒方 浩臣
23	中区地域ケアプラザ	渡邊 圭子
24	中区民生委員児童委員協議会	梁田 理恵子
25	中区主任児童委員連絡会	大西 尚美
26	中区保健活動推進員会	清水 綾子
27	中区食生活等改善推進員会	島村 圭子
28	中区青少年指導員協議会	辺見 伸一
29	中区スポーツ推進委員連絡協議会	森田 眞里
30	中福祉保健センター	越川 健一





横浜市地域福祉保健計画のキャラクター
ちふくちゃん

お問合せ先

横浜市中区役所 福祉保健課 事業企画担当

〒231-0021 横浜市中区日本大通35番地

TEL 045-224-8331 FAX 045-224-8157

EMAIL na-iineplan@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市中区社会福祉協議会

〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル4階

TEL 045-681-6664 FAX 045-641-6078

EMAIL info@nakasha.net

この計画は、中区役所ウェブページ(https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kurashi/fukushi_kaigo/chiikifukushi/fukushi-plan/)
または右記二次元コードからご覧いただけます。

